

とうぜんじ くらやま
東禅寺・黒山遺跡

ひがしおおえん かみとくだ
(東大円・上徳田地区)

2003

財団法人 山口県教育財団
山口県埋蔵文化財センター



遺跡全景（東から）



出土した埋甕



出土した緑釉陶器（左 内面 右 外面）

序

東禅寺・黒山遺跡の所在する山口市鑄銭司地区には、国指定史跡となっ
ていて、古代の周防鑄銭司跡をはじめ、中世・近世の歴史を物語る遺跡が点在して
います。

このたびの調査の結果、古代および中世・近世の集落跡が確認され、当時の
人々の生活ぶりを示す遺構や遺物が見つかりました。古代の周防鑄銭司跡との
つながりを示すような緑釉陶器などの関連資料が一部見つかるとともに、近世
の埋蔵遺構群は、集落遺跡からの出土としては県内有数の発見数であり、この
遺跡を特徴づける資料となりました。

本書が、文化財保護に対する理解を深め、教育並びに学術研究の資料や郷土
の歴史を学ぶ資料として、幅広く活用されることを願うものであります。

最後に、発掘調査の実施にあたり、ご指導・ご協力いただきました関係各位
に対し、深くお礼申し上げます。

平成 15年 3月

財団法人山口県教育財団

理事長 牛 見 正 彦

例 言

- 1 本書は、山口県山口市大字^{すぜんじ}鑄銭司^{ひがしおんせん}東大円^{かみとくだ}・上徳田^{とうぜんじ}に所在する東禅寺^{くわんぜん}・黒山遺跡（東大円・上徳田地区）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、一般県道山口秋穂線単独道路改良（ふるさと）工事に伴い、財団法人山口県教育財団が山口県山口土木建築事務所の委託を受け、実施したものである。
- 3 調査組織は、次の通りである。

調査主体 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター

調査担当 指導主事 上山佳彦

指導主事 林修司

調査員 池山正

- 4 調査にあたっては、山口県土木建築部道路建設課、山口県山口土木建築事務所、山口市教育委員会並びに地元関係各位から協力・援助を得た。
- 5 本書の第1図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「小郡」・「台道」を複製使用したものである。第2図は、山口県山口土木建築事務所提供の50分の1地形図を複製使用したものである。
- 6 本書に使用した方位は、国土座標（第3座標系）で示し、標高は海拔標高（m）である。
- 7 出土遺物のうち、石製品の石材（表面観察による）については、山口県立山口博物館専門学芸員亀谷敦氏の助言を得た。
- 8 本書に使用した土色の色調表記はMunse方式による。

農林水産省農林水産技術会議事務局（監修） 『新版標準土色帖』

- 9 図版中の遺物番号は、実測図の遺物番号と対応する。
- 10 出土遺物実測図中の土器の断面は、白抜きが土師器・瓦質土器・陶器、黒塗りが須恵器、粗く薄い網掛けが磁器を表す。また、内外面の密で濃い網掛けは緑釉陶器を表す。
- 11 本書で使用した遺構略号は、次の通りである。

S B : 住居跡・建物跡 S K : 土坑・埋甕遺構 S T : 墓 S E : 井戸

S D : 溝状遺構 S P : 柱穴

- 12 本書の作成・執筆は、上山・林・池山が共同で行い、編集は上山が行った。なお、本文の執筆分担は、次のとおりである。

上山 - 1～2 池山 上山

林 - 3～9 林 上山

付篇 応用地質株式会社委託

本文目次

遺跡の位置と環境	1
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	1
調査の経緯と概要	4
1 調査に至る経緯	4
2 調査の経過と概要	4
遺 構	11
1 掘立柱建物跡	11
2 埋甕遺構	20
3 土坑	27
4 墓	29
5 井戸	30
6 溝状遺構	30
7 柱穴	32
8 粘土探掘坑	32
9 遺物包含層	33
遺 物	45
1 土器・陶磁器	45
(1) 掘立柱建物跡出土遺物	45
(2) 埋甕遺構出土遺物	45
(3) 土坑出土遺物	53
(4) 墓出土遺物	55
(5) 井戸出土遺物	55
(6) 溝状遺構出土遺物	56
(7) 柱穴出土遺物	58
(8) 遺物包含層出土遺物	58
(9) 表面採集遺物	61
2 土製品	62
3 石製品	62
4 金属製品(銭貨)	62
5 木製品	62

まとめ	69
1 調査成果の概要	69
2 遺構について	69
(1) 掘立柱建物跡	69
(2) 溝状遺構	69
(3) 井戸	70
(4) 足鍋・茶釜の埋納遺構	70
(5) 粘土採掘坑	70
3 遺物について	71
(1) 土師器	71
(2) 緑釉陶器	71
(3) その他	71
4 埋蔵遺構について	72
(1) 東禅寺・黒山遺跡の埋蔵遺構	72
(2) 山口県内の中世・近世の埋蔵遺構	72
(3) 山口県内の中世・近世の埋蔵型式分類および編年試案	73
埋蔵の型式分類	73
年代観	76
5 遺跡の歴史の変遷について	76
付篇 東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)出土の植物遺体同定および土壌化学分析	79
1 はじめに	79
2 分析試料	79
3 分析方法	80
4 分析結果	81
5 考察	84

図 版 目 次

巻頭図版 1	遺跡全景（東から）		
巻頭図版 2	出土した埋蔵 出土した緑釉陶器（左 内面 右 外面）		
図版 1	1 調査区遠景（南から）	4	1 B 地区 SE140瓦葺状況（南から）
	2 調査区遠景（南から）	5	1 A 地区 SD1473瓦葺状況（西から）
図版 2	1 調査区全景	6	1 B 地区 SD1473瓦葺状況（東から）
	2 1 地区全景	7	1 B 地区 SD141瓦葺状況（北から）
図版 3	1 1 A 地区遺構群	8	1 B 地区 SD141石積み遺構検出状況 （西から）
	2 1 B 地区遺構群		
図版 4	1 2 地区全景	図版 12	1 1 A 地区 SP1136遺物出土状況（北から）
	2 2 C 地区遺構群	2	1 A 地区 SP1075遺物出土状況（北から）
図版 5	1 A 地区掘立柱建物跡群	3	1 B 地区 SP1479遺物出土状況（南から）
図版 6	1 2 C 地区掘立柱建物跡群（SB20、21、22） （北から）	4	1 B 地区 SP1389遺物出土状況（南から）
	2 SB20瓦葺状況（北から）	5	2 C 地区 SP2112遺物出土状況（西から）
図版 7	1 1 B 地区埋蔵群（北から）	6	2 C 地区 SP2136遺物出土状況（北から）
	2 1 B 地区埋蔵群（西から）	7	2 C 地区粘土探掘坑 5 トレンチ確認状況 （北から）
	3 1 B 地区 SK144埋蔵出土状況（北から）	8	2 C 地区粘土探掘坑 2 トレンチ確認状況 （東から）
	4 1 B 地区 SK144埋蔵埋置状況（西から）	図版 13	1 1 B 地区南側遺物包含層掘り込み状況 （東から）
	5 1 A 地区 SK1300埋蔵埋置状況（西から）	2	1 B 地区南側遺物包含層土層断面（東から）
	6 1 A 地区 SK1300埋蔵埋置状況（西から）	3	1 B 地区南側遺物包含層遺物出土状況 （東から）
	7 1 B 地区 SK1429埋蔵埋置状況（西から）	4	1 B 地区南側遺物包含層遺物出土状況 （東から）
	8 1 A 地区 SK1310埋蔵埋置状況（南から）	図版 14	1 2 C 地区南側遺物包含層掘り込み状況 （南から）
図版 8	1 1 A 地区 SK130埋蔵出土状況（北から）	2	2 C 地区南側遺物包含層遺物出土状況 （東から）
	2 1 A 地区 SK130埋蔵埋置状況（東から）	3	2 C 地区南側遺物包含層遺物出土状況 （西から）
	3 1 A 地区 SK1309埋蔵出土状況（南から）	4	2 C 地区南側遺物包含層遺物出土状況 （東から）
	4 1 A 地区 SK1309埋蔵埋置状況（東から）	5	2 C 地区南側遺物包含層遺物出土状況 （南から）
	5 1 B 地区 SK140埋蔵出土状況（南から）	図版 15	埋蔵遺構出土遺物（上 SK1418 下 SK1492）
	6 1 B 地区 SK140埋蔵埋置状況（北から）	図版 16	埋蔵遺構出土遺物（上 SK1420 下 SK1441）
	7 1 B 地区 SK1418埋蔵出土状況（南から）	図版 17	埋蔵遺構出土遺物（上 SK1301 下 SK1426）
	8 1 B 地区 SK1418埋蔵埋置状況（西から）	図版 18	埋蔵遺構出土遺物
図版 9	1 1 B 地区 SK1420埋蔵出土状況（北から）	図版 19	埋蔵遺構出土遺物
	2 1 B 地区 SK1420埋蔵埋置状況（北から）	図版 20	埋蔵遺構出土遺物・土坑出土遺物
	3 1 B 地区 SK1428埋蔵出土状況（西から）	図版 21	墓・井戸・溝状遺構出土遺物
	4 1 B 地区 SK1428埋蔵埋置状況（北から）	図版 22	掘立柱建物跡・柱穴出土遺物
	5 1 B 地区 SK149埋蔵出土状況（南から）	図版 23	1 B 地区南側遺物包含層出土遺物
	6 1 B 地区 SK149埋蔵埋置状況（南から）	図版 24	2 C 地区南側遺物包含層出土遺物
	7 1 B 地区 SK1530埋蔵出土状況（南から）	図版 25	2 A 地区第 1 面掘り下け層出土遺物・表面採集 遺物・土製品
	8 1 B 地区 SK1530埋蔵埋置状況（南から）	図版 26	石製品・金属製品（銅銭）・木製品
図版 10	1 1 A 地区 SK1289埋蔵埋置状況（北から）		
	2 1 B 地区 SK1419遺物出土状況（北から）		
	3 1 B 地区 SK1453遺物出土状況（北から）		
	4 1 B 地区 SK1506遺物出土状況（北から）		
	5 1 B 地区 SK1620遺物出土状況（南から）		
	6 1 B 地区 SK1620瓦葺釜出土状況（西から）		
	7 1 A 地区 SK1319遺物出土状況（南から）		
	8 1 B 地区 ST1406遺物出土状況（北から）		
図版 11	1 1 A 地区 SE1186遺物出土状況（南から）		
	2 1 A 地区 SE1186瓦葺状況（西から）		
	3 1 B 地区 SE1403木杭出土状況（西から）		

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡	第24図	埋篋遺構出土遺物実測図
第2図	調査区設定図	第25図	埋篋遺構出土遺物実測図
第3図	遺構配置図(1地区)	第26図	埋篋遺構出土遺物実測図
第4図	遺構配置図(2地区)	第27図	埋篋遺構出土遺物実測図
第5図	掘立柱建物跡実測図	第28図	埋篋遺構出土遺物実測図
第6図	掘立柱建物跡実測図	第29図	埋篋遺構出土遺物実測図
第7図	掘立柱建物跡実測図	第30図	埋篋遺構出土遺物実測図
第8図	掘立柱建物跡実測図	第31図	埋篋遺構出土遺物実測図
第9図	掘立柱建物跡実測図	第32図	土坑出土遺物実測図
第10図	掘立柱建物跡実測図	第33図	墓出土遺物実測図
第11図	埋篋遺構実測図	第34図	井戸出土遺物実測図
第12図	埋篋遺構実測図	第35図	溝状遺構出土遺物実測図
第13図	埋篋遺構実測図	第36図	柱穴出土遺物実測図
第14図	埋篋遺構実測図	第37図	1 B地区南側遺物包含層出土遺物実測図
第15図	埋篋遺構実測図	第38図	1 B地区南側遺物包含層出土遺物実測図
第16図	土坑実測図	第39図	2 C地区南側遺物包含層出土遺物実測図
第17図	墓実測図	第40図	2 A地区第1面掘り下げ層出土遺物実測図
第18図	井戸実測図	第41図	表面採集遺物実測図
第19図	溝状遺構土層断面図	第42図	土製品実測図
第20図	柱穴実測図	第43図	石製品実測図
第21図	粘土採掘坑土層断面図	第44図	鉄貨拓本
第22図	遺物包含層土層断面図	第45図	木製品実測図
第23図	掘立柱建物跡出土遺物実測図	第46図	山口県内の中世・近世の埋篋型式分類および編年試案

表 目 次

第1表	掘立柱建物跡一覧表
第2表	埋篋遺構一覧表
第3表	遺構一覧表
第4表	遺物観察一覧表
第5表	山口県内の中世・近世の埋篋遺構検出遺跡一覧表

遺跡の位置と環境

1 地理的環境

東禅寺・黒山遺跡は、山口市大字鑄銭司字東大円・上徳田に所在する。鑄銭司地区は、山口市の南東部にあり、黒河内山（標高424.4m）を中心とする山口山地が北から東に、福西山（標高約252m）をはじめとする秋穂山地が南に連なり、三方を山に囲まれている。これらの山々から中央部に向かっていくつもの低い洪積台地が段丘状に延びている。中央部には、陶地区から続く吉南平野と小河川が形成した沖積低地が広がっている。また、東部には慶安4年（165年）頃に築造された鑄銭司地区最大の溜池である長沢池がひかえている。

山口山地の山麓には小丘陵が延び、それらが形成する谷に沿って3小河川が南西方向に走っている。東から高橋川、金毛川、綾木川と呼ばれ、これら河川が山麓から南方向に扇状地を形成しながら南流している。3河川は合流しながら南若川となって山口湾に注いでいる。

遺跡は、高橋川の北側、黒山から西側に張り出した標高10mの丘陵の南麓とさらに南側の低地に位置している。調査区は2地区に分かれ、標高9m前後の丘陵突端部（1地区）と標高8m余の低地（2地区）に立地している。古代・中世には、標高6～7mあたりが海岸線であったと推定されており、遺跡の南側はかつて海岸に面していたものと考えられる。

現在では、遺跡の南側に国道2号と山陽本線が並行して走り、北側の山麓には山陽新幹線と山陽自動車道が東西に貫通している。また、国道2号（四辻バイパス）が高架化され、山陽自動車道の山口南インターチェンジも隣接し、工業団地が立地するなどかつて山陽道の宿駅として栄えた交通の要衝であった面影を彷彿とさせるかのように、現在の田園地帯の景観も様変わりしつつある。

2 歴史的環境

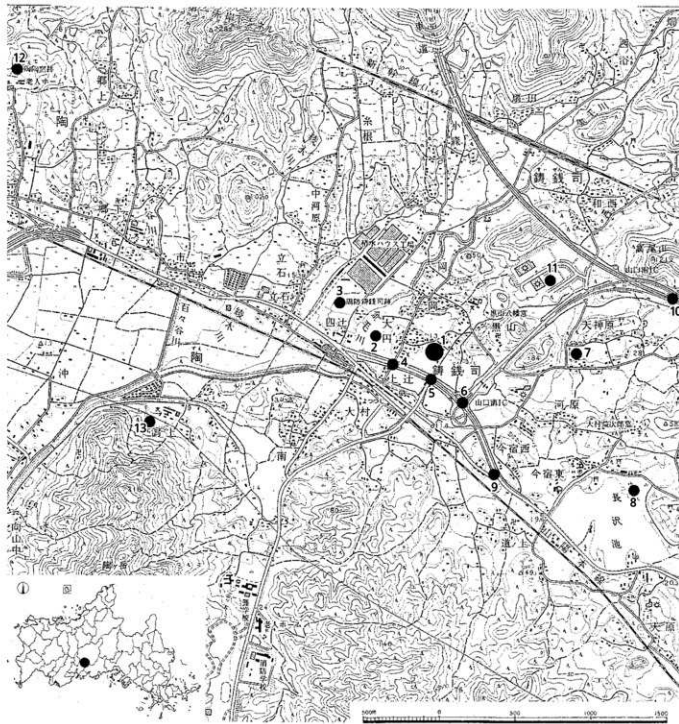
周辺の旧石器・縄文時代の遺跡としては、長沢池遺跡が知られ、縄文土器や石鏃・石斧などの遺物が表面採集されているが、詳細は不明である。

弥生・古墳時代の遺跡は少なく、古墳は見つかっていない。これは大きな河川もなく自然灌漑による水田化が困難であり、耕地化が遅れたためと考えられる。

古代には、山口県域は西の長門国と東の周防国の2か国からなり、周防国はさらに6郡に分けられていた。このうち鑄銭司地区は吉敷郡に属し、隣の陶地区とともに八千郷の領域に入っていた。

鑄銭司とは、和同開珎から乾元大宝に至る皇朝十二銭を鑄造した官司である。はじめは、天平2年（730年）に長門に鑄銭司が置かれた。その後、天長2年（825年）に長門国の鑄銭司は周防国に移され、庁所は陶地区築地字地家一帯の台地上に、工房は字大畠の綾木川と金毛川に挟まれた沖積段丘上に設置された。庁所は承和1年（84年）には湯上山に移された。周防鑄銭司では9世紀から1世紀まで200年以上にわたり8種類の銭貨鑄造が行われた。字大畠の地は、発掘調査を経て、昭和48年に「周防鑄銭司跡」として国史跡に指定された。

国指定史跡の北側、綾木川の対岸に位置する八ヶ坪遺跡では、古代から中世にかけての掘立柱建物跡・焼土坑が確認され、緑釉陶器・墨書土器・木簡などが出土している。近くの下系根遺跡では古代から中世にかけての遺物と掘立柱建物跡や墓等の遺構が検出されている。



- 1 東禅寺・黒山遺跡 (東大門・上徳田地区)
- 2 東禅寺・黒山遺跡 (南若川河川改修に伴う)
- 3 周防鑄銭司跡
- 4 上辻遺跡
- 5 大歳遺跡
- 6 今宿西遺跡
- 7 今宿東遺跡
- 8 長沢池遺跡
- 9 天神原遺跡
- 10 弥布原遺跡
- 11 桐ヶ浴・尾口山遺跡
- 12 陶窯跡
- 13 潟上遺跡

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

金毛川の東に広がる東禅寺・黒山遺跡(南若川河川修築事業に伴う発掘調査)では、獨立柱建物跡・井戸・土坑が検出され、緑釉陶器や窯道具の三叉トチンが見つかり、緑釉陶器がこの地で生産された可能性が高いと考えられている。今宿遺跡も周防鑄銭司に伴って営まれた集落と考えられる。西隣には、奈良時代から平安時代にかけて須恵器の生産が行われた陶古窯跡群が広がっている。このように、古代の陶・鑄銭司地区は、一大工業地帯ともいふべき状況にあったといえる。

中世になると、地方有力者により本格的に水田開発が進められていった。大内氏の台頭とともに、この地区は潟上荘に属したと考えられている。大内氏の時代、外港として利用された秋穂浦と拠点山口を結ぶ秋穂街道の往来が盛んとなり、山陽道との交差点であった四辻周辺にはにぎわいを見せたといわれている。遺跡の近くには1470年代に大内政弘によって創建された顕孝院がかつて所在していたが、天明元年(178年)に、鑄銭司大円が鑄銭司黒山地区に移ったと伝えられている。遺跡の北東には、鑄造に関わる黒山神を祀る黒山八幡宮が鎮座している。

この地区周辺の中世遺跡は、国道2号バイパスの建設やほ場整備などによる発掘調査によって明らかになっている。東禅寺・黒山遺跡や今宿遺跡のように低地の微高地上に立地するものと弥布原遺跡、桐ヶ浴・尾口山遺跡のように丘陵上に立地するものがある。中世の鑄銭司地区は、街道沿いの低地の集落が耕地の拡大に伴って発展し、丘陵部でも集落が見られるようになり、一大工業地帯から農村地帯へと変遷を遂げていった時期といえる。また、平安時代から鎌倉・室町時代へと時代が下るにつれて、集落が「西から東へ、低地から微高地へ」と移動する変遷が、これまでの発掘調査によって明らかになってきている。これは、灌漑技術の向上によって低地の耕地化が進められ、より高地へと住居が移って行ったことが原因と考えられている。

近世には、毛利氏の支配下に入り、吉敷郡の小郡宰判に属して萩藩の直轄領となった。この時期、長沢池をはじめとする用水路が整えられ、水田が拡大していった。享保13年(1728年)の『地下上申絵図』によると、この地区では、集落は段丘上や山陽道沿いに集中していて、低地部は水田となっていた。これは、藩の防長三白政策(米・塩・和紙)に伴う耕地化拡大などに起因すると考えられる。このように鑄銭司地区一帯は、近世には農村集落としての性格がより一層強まっていたものと見られる。また、『風土注進案』によると、幕末の鑄銭司地区では、農業を主力産業としつつ土器・瓦・焼物などを作り販売していたという記述があり、良質な粘土採掘と燃料の木材確保という恵まれた立地条件が反映されていたものと考えられる。

近代になると、鑄銭司地区は幾多の行政区画と呼称の変更を繰り返す。明治3年に鑄銭司村から陶村と名田島村が独立し、綾木川を境に西側の陶地区と東側の鑄銭司地区に区分され、現在に続く行政区分上の基礎が築かれた。明治4年には版籍奉還によって小郡宰判から吉敷郡に属することになった。明治12年の郡区町村編成施行時に再び鑄銭司村となり、昭和3年には山口市と合併し、山口市大字鑄銭司として今日に至っている。

(参考文献)

- 1 山口市教育委員会 『山口市内遺跡詳細分布調査 鑄銭司地区』 2000年
- 2 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『東禅寺・黒山遺跡』 1996、1997、1998、1999、2000年
- 3 山口県教育委員会文化課・山口県埋蔵文化財センター 『上辻・鑄銭司・今宿西遺跡』 1984年
- 4 山口市教育委員会 『周防鑄銭司跡』 1978年
- 5 山口市史編纂委員会 『山口市史』 1982年

調査の経緯と概要

1 調査に至る経緯

一般県道山口秋穂線単独道路改良（ふるさと）工事に先立ち、山口県教育委員会は、平成10年度に埋蔵文化財の有無について、事前の試掘調査を行った。その結果、遺跡の埋存が確認されたため、関係機関と協議を行い、現状保存が困難な銚銭司地内（東大円・上徳田地区）の3100㎡の地域について、発掘調査を行うことになった。調査は、山口県山口土木建築事務所の委託により、財団法人山口県教育財団が実施することになった。

2 調査の経過と概要

平成14年4月上旬に、発掘調査を始めるにあたって、山口県山口土木建築事務所等、関係機関と綿密な打ち合わせを行うとともに、近隣の小中学校・警察署・消防署等に安全確保のための理解と協力を要請した。また、調査区の確認や事務所用地の借地契約、業者との打ち合わせ等諸準備をすませ、発掘調査の日程的な計画を立てた。

調査区は、大きく2つの地区に分かれていたが、北側のやや標高の高い地区を1地区、南側の低い地区を2地区とした。それぞれ農道等で分断されていることから、1地区の中を1A、1Bに、2地区の中を2A、2B、2Cと便宜上分けて本格的な発掘調査を開始した。

5月上旬から重機による表土除去を開始し、表土除去が終了した地区から遺構検出作業を行っていた。特に2地区の遺構検出では、遺構面の土が粘土質で、好天が続くと非常に固くなるので、こまめに撒水しながら進めていった。その結果、1地区には、東西・南北に溝状遺構が走り、北から南にかけて地山面が傾斜していた。高い所に遺構が密集し、低い所に遺物包含層があることがわかった。また、2地区の方は、ほぼ平坦面をなし、遺構の密度はやや希薄であった。南側には遺物包含層があり、粘土採掘坑と考えられるものも検出された。一方、遺構検出作業と並行して、調査区の周りに土嚢を積み上げ、土砂の流出を防いだり、転落事故の未然防止のために、道路と調査区の間に杭を打ちロープを張ったりする防災作業も行った。

5月2日～3日にかけて、国土座標杭設置業務を業者委託し、その後、調査員による平板測量を行った。掘り込み作業は、2地区遺物包含層から着手した。その結果、2地区の遺物包含層については、かつて河川の流路であった可能性も考えられた。続いて、遺構密度が高い1地区の掘り込みを展開していった。1地区には、柱穴・土坑とともに近世の埋裏遺構や埋裏の抜き穴と考えられる遺構が多数あった。埋裏遺構の掘り込みには、特に細心の注意を払い、根気強く調査にあたった。埋裏の中には、打ち砕かれ廃棄された埋裏の破片や石が積み重なっていることが多かった。一つずつ破片を丁寧に取り上げていき埋裏内面を露出させ、さらに、埋裏を取り外し掘り方を確認の上、完掘した。各段階で出土状況について、図面と写真による記録を行った。作業員の中には発掘経験者も多く、手際よく丁寧に作業が



重機による表土除去作業



第2図 調査区設定図

進み、時として遺構実測のスピードが追いつかないこともあった。

6月中旬までは、順調に掘り込みが進み、1A地区と1B地区に井戸も見つかり、遺跡の全体像も明らかになってきた。6月下旬に入って、梅雨の影響で雨天の日が増えた。ひとたび雨が降ると調査区の低い所に水がたまり、2地区は完全に冠水することもあったので、農業用水路へ一度に大量の泥水が流れ込まないように配慮しながら、ポンプで水を汲み上げた。しかし、梅雨の期間が短かったこともあって、ほぼ予定通りに作業は進んでいった。

7月中旬には、掘り込みもほぼ終了した。その結果、1、2地区ともに掘立柱建物跡が確認され、1地区は、中世・近世の集落跡、2地区は、古代の集落跡であることがわかった。

そして、7月2日に空中写真撮影を行い、7月27日には、現地説明会を実施した。現地説明会には、地元の方々を中心に70名を超える参加者があった。熱心に説明に耳を傾け、遺物や遺構を見学していただき、遺跡に対する関心の高さがうかがえた。

その後、完掘状況のグリッド実測を行った。1地区については、最下層の地山面が露出していなかったので、確認のため人力によるトレンチ調査を行ったから、重機で地山面まで掘り下げた。さらに、2A地区については、第1遺構面の下層に黒灰色粘質土がうすく堆積していたので、人力によるトレンチ調査で層序を確認し、一部、地山面まで掘り下げた。7月下旬からの猛暑では、作業員の方々の健康面への影響が心配されたので、休憩の回数を増やしたりして作業を進め、8月下旬には、掘り込みを終了した。そして、9月初旬に、現地確認の上、図面整理等も済ませ、すべての現地調査を完了した。

その後、山口県埋蔵文化財センターにおいて、出土遺物の洗浄・復元と実測、遺物の写真撮影を行い、資料を整理し、この報告書を刊行した。



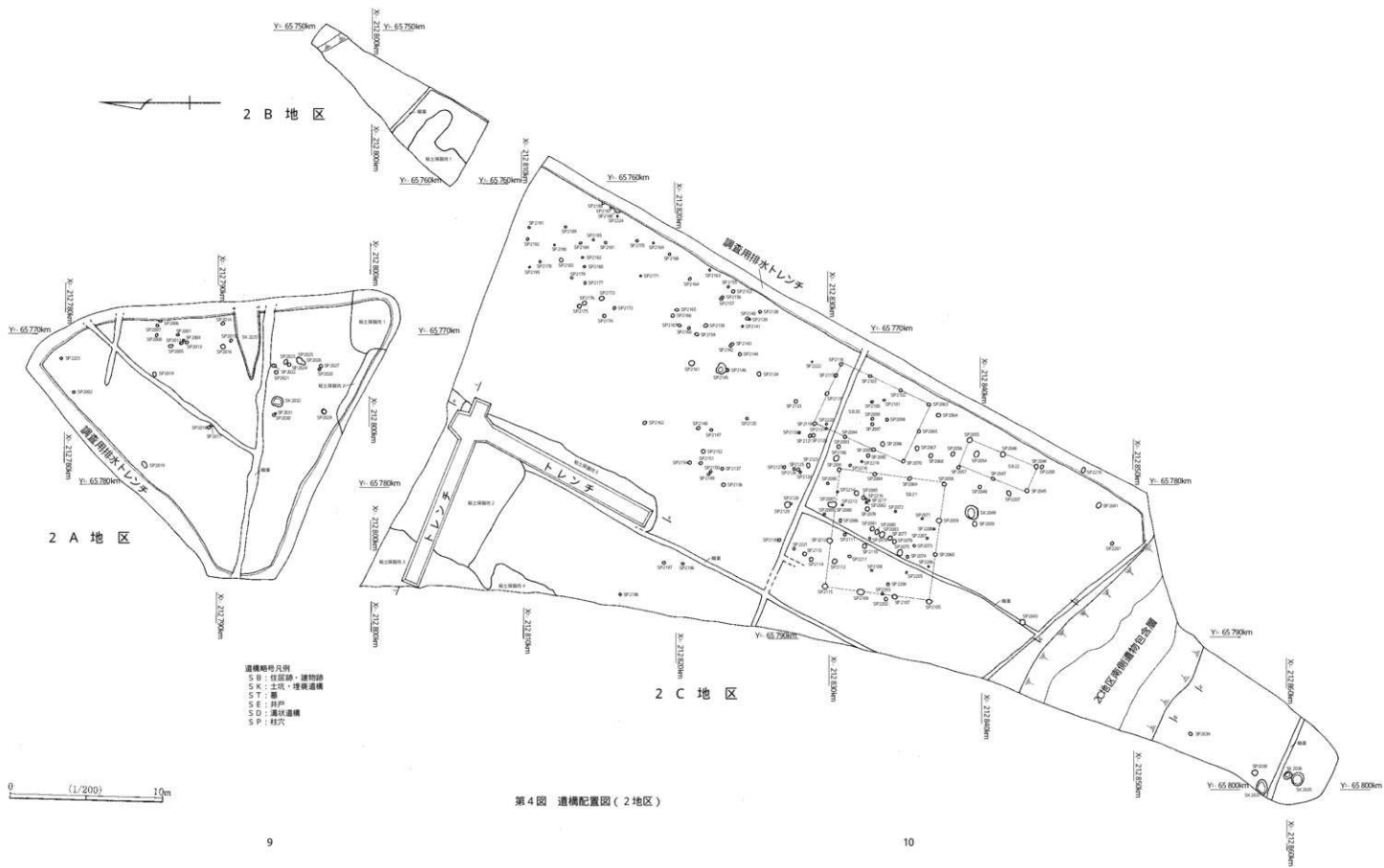
遺構掘り込み作業



空中写真撮影



現地説明会



第4図 遺構配置図（2地区）

遺 構

今回の発掘調査で検出された主な遺構は、掘立柱建物跡2棟、埋篋遺構3基、土坑4基、墓1基、井戸2基、溝状遺構6条、柱穴約700個、粘土探掘坑5基である。これらは、出土遺物などから見て、古代及び中世・近世の遺構である。特に、近世の埋篋遺構の検出数は1基（埋篋抜き穴を1基を合わせると3基）にもおよび、県内の集落遺跡の中では有数の出土数となる。

低地部（2地区）では、古代（平安時代）から中世（鎌倉時代）にかけての時期の遺構が広がり、丘陵部突端（1地区）では、中世（室町時代）から近世（江戸時代）にかけての時期の遺構が分布している。遺構の密度は1地区では後世の水田開発による削平などもあって希薄であるが、2地区では比較的密集度が高い。

1 掘立柱建物跡（第5～10図、図版5・6）

今回の調査で多数の柱穴が検出され、その中から掘立柱建物跡が2棟復元できた。調査区端のため一部しか確認調査できないものも含まれている。掘立柱建物跡は1A地区、1B地区、2C地区で検出された。特に1A地区で建物跡が集中している。棟方向を見ると規則性が見うけられ、北東を向くタイプ（SB9・15・16・17・18・19）、北西を向くタイプ（SB1・2・3・5・6・7など）、東西を向くタイプ（SB4・11）の3つに分類できる。北東を向くタイプのものは1地区の東側の地域に所在し、北西を向くタイプと東西を向くタイプのものは、SD1473D北側の地域と1A地区の西側の地域に位置している。1地区と2地区を比較すると1地区では1間1間など住居プランが小規模なものが多数を占めるのに対し、2C地区では3間3間など規模が大きい。1地区は中・近世の掘立柱建物跡、2C地区は古代の掘立柱建物跡と推定される。

SB1（第5図、図版5）1A地区西側に所在する。規模は3間1間としているが、調査区境にあるため、3間2間などの可能性もある。棟方向はN61E。柱間の平均は桁行240m、梁行236m。柱穴の規模は直径28～52cm、深さ16～80cm。柱穴から土師器が出土しているが、明確な時期は不明。

SB2（第5図、図版5）1A地区西側に所在し、SB1に隣接する。規模は、2間2間の総柱建物である。棟方向はN42W。柱間の平均は桁行254m、梁行246mで正方形に近い。面積は約25㎡。柱穴の規模は直径28～50cm、深さ24～88cm。柱穴から土師器が出土しているが、明確な時期は不明である。

SB3（第5図、図版5）1A地区西側に所在する。規模は1間1間だが、これも調査区境にあるため本来のプランは異なるかもしれない。棟方向はN51E。柱間の平均は桁行448m、梁行280m。柱穴の規模は直径32～38cm、深さ48～72cm。柱穴から土師器皿（1）、陶器碗（2）が出土。この建物は近世に比定される。

SB4（第6図、図版5）1A地区中央部に所在する。異なる時期のSB5と位置が重なる。規模は2間2間。棟方向はN73W。柱間は桁行164m、276mで、棟方向西側の間隔が狭い。梁行の柱間の平均は156mである。柱穴の規模は直径22～32cm、深さ16～56cm。柱穴より瓦質土器、土師器皿が出土。この建物は中世に比定される。

SB5 (第6図、図版5) 1A地区中央部に所在し、異なる時期のSB4、SB6と重なった位置にある。1つの柱穴は検出されなかった。規模は、2間 1間。棟方向はN22 E。柱間の平均は桁行186m、梁行172m。柱穴の規模は直径24~42cm、深さ16~40cm。柱穴から土師器杯(6) 瓦質土師鍋(7)、足鍋(8)が出土している。この建物は中世に比定される。

SB6 (第6図、図版5) 1A地区中央部に所在する。異なる時期のSB5、SB7、SB8、SB9と重なり合う位置にある。1地区最大の建物である。規模は、2間 2間、棟方向N11 E。柱間の平均は桁行318m、梁行28m。柱穴の規模は直径18~42cm、深さ16~56cm。柱穴より土師器皿(3) 杯(4) 青磁碗(5)が出土している。この建物は中世に比定される。

SB7 (第7図、図版5) 1A地区中央部に所在する。異なる時期のSB6、SB8、SB9、SB11と重なり合う位置にある。細長い建物である。棟方向西側の間隔がやや狭い。規模は2間 1間。棟方向はN60 E。柱間の平均は桁行2.5m、梁行112m。柱穴の規模直径30~46cm、深さ24~64cm。建物の時期は不明である。

SB8 (第7図、図版5) 1A地区中央部に所在する。異なる時期のSB6、SB7、SB9と重なり合う位置にある。規模は1間 1間。小屋のようなものと考えられる。棟方向はN44 E。柱間の平均は桁行332m、梁行308mで正方形に近い。柱穴の規模は直径22~38cm、深さ24~80cm。建物の時期は不明である。

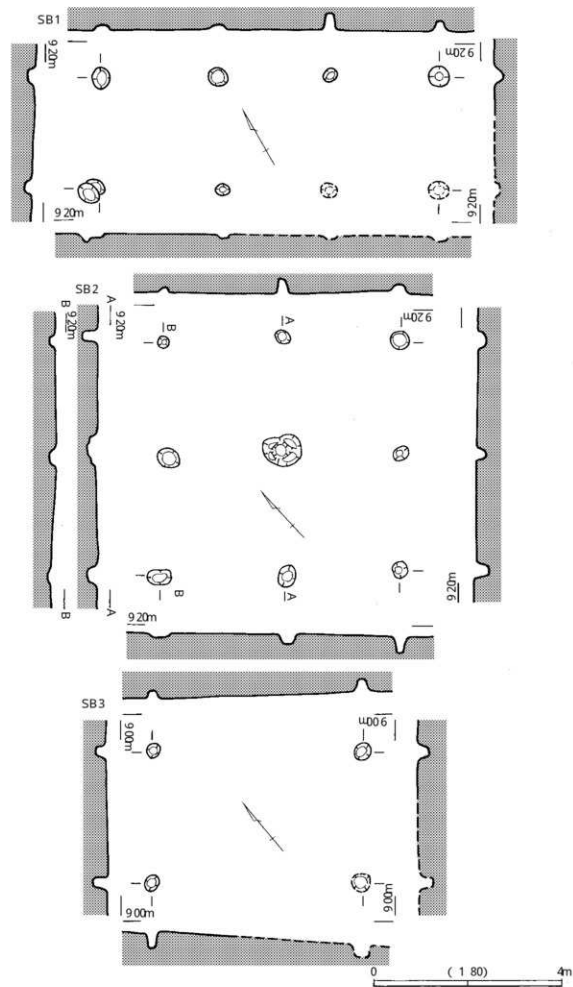
SB9 (第7図、図版5) 1A地区中央部に所在する。異なる時期のSB6、SB7、SB8、SB11と重なり合う位置にある。西側の棟方向の柱穴のひとつは確認されていない。規模は2間 1間。棟方向はN32 W。柱間の平均は桁行204m、梁行2m。柱穴の規模は直径26~34cm、深さ16~56cm。建物の時期は不明である。

SB11(第7図、図版5) 1A地区中央部に所在する。異なる時期のSB7、9と位置が重なる。規模は1間 1間。建物内にはSE118が含まれるが、井戸に伴うものであるかどうかは不明である。棟方向はN76 W。柱間の平均は桁行460m、梁行272m。柱穴の規模は直径20~44cm、深さ24~40cm。建物の時期は不明である。

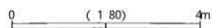
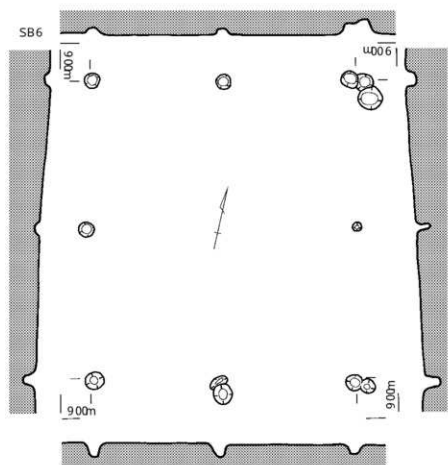
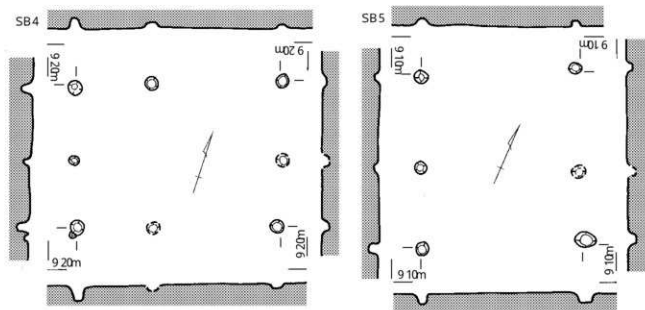
SB10(第7図、図版5) 1A地区中央部に所在する。規模は2間 1間。棟方向はN63 E。柱間の平均は桁行224m、梁行264m。柱穴の規模は直径22~30cm、深さ24~40cm。柱穴より土師器皿が出土。SB7、SB10は棟方向、規模、面積など共通する点があり、同時期ないしは同様の機能を持つ建物と考えられる。建物の時期は不明である。

SB14(第8図、図版5) 1A地区東側に所在する。この地区は当遺跡で最も標高が高い。異なる時期のSB12 SB13と位置が重なる。規模は2間 1間である。棟方向はN75 E。柱間の平均は桁行222m、梁行216m。棟方向東側の間隔がやや狭い。柱穴の規模は直径28~32cm、深さ16~64cm。建物の時期は不明である。

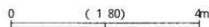
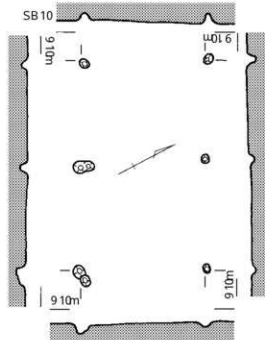
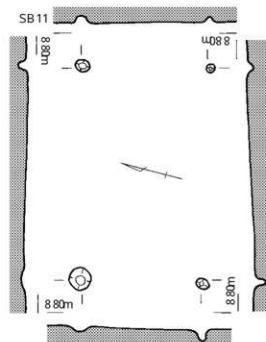
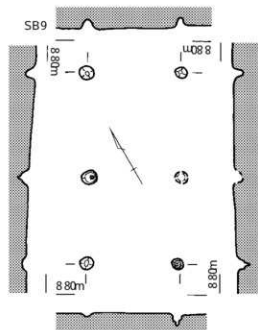
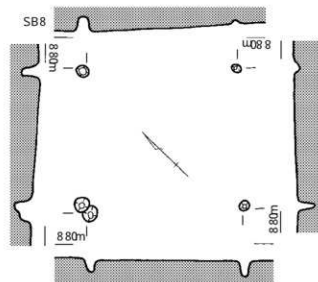
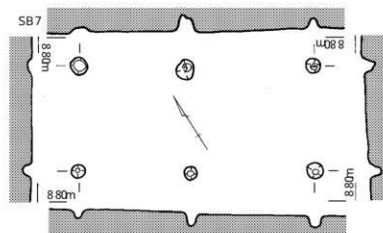
SB12(第8図、図版5) 1A地区東側に所在する。異なる時期のSB13 SB14と位置が重なる。今回の調査で最小規模の建物であり、面積は約5㎡である。小屋のようなものと考えられる。規模は1間 1間。棟方向はN66 E。柱間の平均は桁行248m、梁行200m。柱穴の規模は直径22~28cm、深さ24~72cm。建物の時期は不明である。



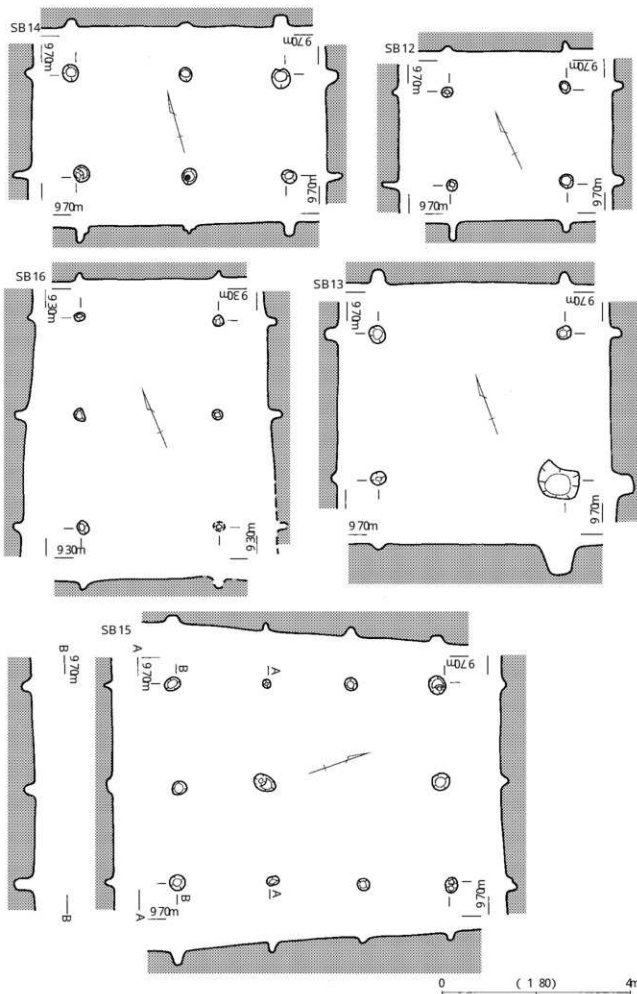
第5図 掘立柱建物跡実測図



第 6 图 掘立柱建物跡実測図



第 7 图 掘立柱建物跡実測図



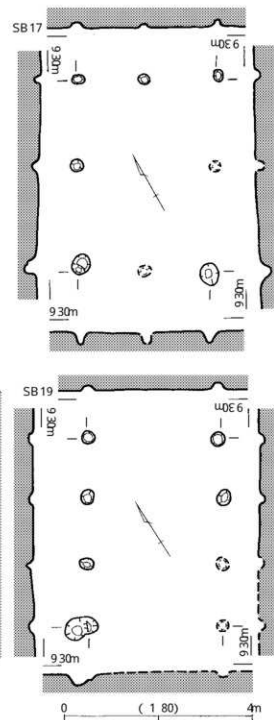
第8図 掘立柱建物跡実測図

SB 16(第8図、図版5) 1A地区東側に所在する。南東隅の柱穴は調査区外にあると想定される。SB 15とはほぼ同じ棟方向である。規模は2間 1間。棟方向はN 20 W。柱間の平均は桁行2.24m、梁行2.92m。北側の桁の柱穴間隔が狭い。柱穴の規模は直径22~30cm、深さ40~48cm。この建物の時期は不明である。

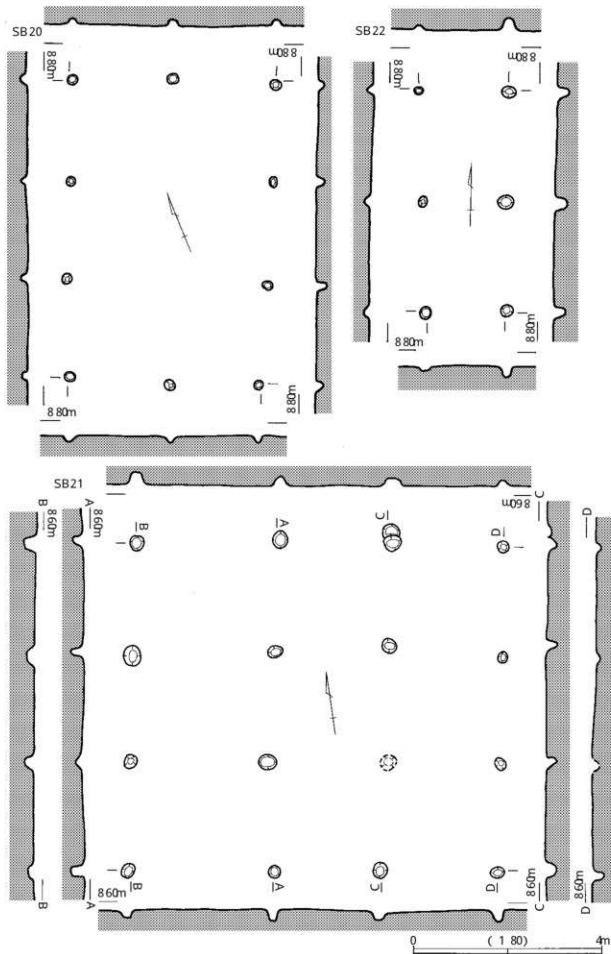
SB 13(第8図、図版5) 1A地区東側に所在する。異なる時期のSB 12 SB 14と位置が重なる。南東隅の柱穴はSK 1318によって損壊したと考えられる。規模は1間 1間。棟方向はN 72 E。柱間の平均は桁行3.96m、梁行3.12m。柱穴の規模は直径32~88cm、深さ24~128cm。この建物の時期は不明である。

SB 15(第8図、図版5) 1A地区東側に所在し、異なる時期のSD 147と位置が重なる。規模は3間 2間。間仕切り利用と見られる柱穴が1個ある。棟方向はN 18 W。柱間の平均は桁行1.89m、梁行2.12m。柱穴の規模は直径18~44cm、深さ24~80cm。柱穴より土師器が出土。この建物の時期は不明である。

SB 17(第9図) 1B地区西側に所在し、異なる時期のSD 147と位置が重なる。規模は2間 2間。棟方向はN 28 W。柱間の平均は桁行2.04m、梁行1.48m。柱穴の規模は直径22~48cm、深さ16~56cm。この建物の時期は不明である。



第9図 掘立柱建物跡実測図



第10図 掘立柱建物跡実測図

SB 18(第9図) 1B地区東側に所在する。異なる時期のSD 147と位置が重なる。建物内に複数の土坑が含まれるが、この建物に伴うものであるかどうかは不明である。規模は2間 1間。棟方向はN 45 W。柱間の平均は桁行2.3m、梁行3.0m。柱穴の規模は直径22~40cm、深さ24~48cm。この建物の時期は不明である。

SB 19(第9図) 1B地区東側に所在し、異なる時期のSD 147と位置が重なる。調査区端に存在するため正確な規模は不明であるが、規模は3間 1間としておく。棟方向はN 32 W。柱間の平均は桁行1.3m、梁行2.84m。柱穴の規模は直径26~36cm、深さ16~32cm。後世の削平によって浅くなっていると考えられる。この建物の時期は不明である。

SB 20(第10図、図版6) 2C地区南側に所在し、SB 21 SB 22と隣接する。規模は3間 2間。棟方向はN 23 W。柱間の平均は桁行2.12m、梁行2.06m。柱穴の規模は直径20~26cm、深さ24~48cm。後世の削平によって浅くなったと考えられる。柱穴より土師器が出土。この建物の時期は古代に比定される。

SB 22(第10図、図版6) 2C地区に所在し、SB 20もしくはSB 21に伴う小屋のようなものと考えられる。規模は2間 1間。棟方向はN 0 W。柱間の平均は桁行方向2.36m、梁行方向1.68m。柱穴の規模は直径24~36cm、深さ16~56cm。柱穴から土師器が出土。この建物の時期は古代に比定される。

SB 21(第10図、図版6) 2C地区に所在する。今回の調査で最大規模の建物であり、床面積54㎡。総柱の建物で3間 3間である。棟方向はN 7 W。柱間の平均は桁行2.59m、梁行2.32m。柱穴の規模は直径22~44cm、深さ16~48cm。柱穴より土師器が出土。この建物の時期は古代に比定される。

第1表 掘立柱建物跡一覧表

番号	地区	遺構番号	規模(間)	棟方向	柱間		出土遺物	時代	備考
					桁行	梁行			
1	1A	SB1	3	N 61 E	720(256・228・236)	236	土師器		北東隅から
2	1A	SB2	2	N 42 W	508(264・244)	492(256・236)	土師器		
3	1A	SB3	1	N 51 E	448	280	土師器(皿・陶板・碇)	近世	北東隅から
4	1A	SB4	2	N 73 W	440(164・276)	312(172・140)	土師器(杯、皿) 瓦質土器(杯)		中世
5	1A	SB5	2	N 22 E	372(156・216)	344	土師器(杯、皿) 瓦質土器(杯)		中世
6	1A	SB6	2	N 11 E	636(320・316)	560(280・280)	土師器(杯)青磁碇		中世
7	1A	SB7	2	N 60 E	500(264・236)	224			
8	1A	SB8	1	N 44 E	332	308			
9	1A	SB9	2	N 32 W	408(184・224)	200			
10	1A	SB10	2	N 63 E	448(232・216)	264	土師器(皿)		
11	1A	SB11	1	N 76 W	460	272			
12	1A	SB12	1	N 66 E	248	200			
13	1A	SB13	1	N 72 E	396	312			
14	1A	SB14	2	N 75 E	444(208・236)	216			
15	1A	SB15	3	N 18 W	568(196・188・184)	424(216・208)	土師器		
16	1A	SB16	2	N 20 W	448(208・236)	292			北西隅から
17	1B	SB17	2	N 28 W	408(188・220)	296(140・156)			北西隅から
18	1B	SB18	2	N 45 W	460(264・196)	300			
19	1B	SB19	3	N 32 W	400(128・140・132)	284	土師器		
20	2C	SB20	3	N 23 W	636(208・212・216)	412(220・192)	土師器(檜)		古代
21	2C	SB21	3	N 7 W	776(308・228・240)	696(236・224・236)	土師器		古代
22	2C	SB22	2	N 0	472(236・236)	168	土師器(杯)		古代

2 埋篋遺構 (第11~15図、図版7~10)

今回検出することができた埋篋遺構は3基である。大甕が埋設されたままの状態で出土した埋篋遺構が1基で、残りの2基は埋篋の抜き穴遺構と考えられるものである。抜き穴遺構は、掘り方の平面形、深さ、断面形、埋土中の出土遺物などを大甕が埋設された埋篋遺構と比較対照して認定した。15基のうち瓦質土器8基、土師器6基、陶器1基である。いずれも甕の大きさより若干大きい掘り方に口縁部を上にして埋設されていた。使用をやめた後、口縁部一部位を打ち欠いて甕の内部に投棄され、後世の削平により埋まったままの体部上半が欠損した状態で出土したものが多い。1A地区の場合には埋篋遺構が同一面所に密集しているのに対し、1B地区では密集している箇所と分散している箇所が併存する。以下代表的なものを取り上げる。

SK 1301(第11図、図版8) 1A地区で検出された。平面形が83cm 76cmの楕円形、深さ38cmの掘り方に土師質の大甕(13)が埋設されていた。甕の体部上半破片が多数折り重なって出土した。復元した甕の高さから判断すると当時の地表面は約30cm高いと思われる。大甕の体部下半は破損を免れている。埋土より磁器の碗(26、27)が出土していることから、近世の埋篋遺構と考えられる。

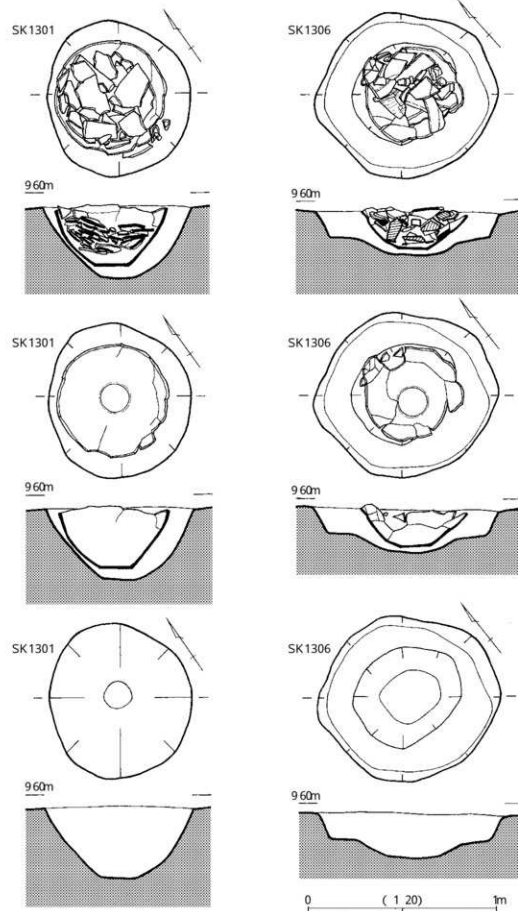
SK 1306(第12図、図版8) 1A地区で検出された。甕を据えるための土坑は二段掘りの状況を呈しており、その中に瓦質の大甕(16)が据えられていた。甕の体部上半は削平されており、甕の口縁部一部位破片が多数折り重なって出土した。復元された大甕より推測すると当時の地表面は50cmほど高いと思われる。埋土より土師器の大甕(28)が出土しており、SK 1306内に別個体の大甕が廃棄されたと考えられる。近世の埋篋遺構と比定される。

SK 1492(第13図、図版9) 1B地区で検出された。SB 17に伴うものであるかどうかは不明であり、SD 1473の南側に所在する。平面形が72cm 69cmの楕円形、深さ28cmの掘り方に瓦質の大甕(10)が埋設されていた。甕の上半部の一部は削平されており、甕の口縁部一部位破片が多数折り重なって出土した。また、底の中央部が欠損しているが、大甕体部下半の残りはよい。埋土から瓦質土器が出土しており、近世の埋篋遺構と考えられる。

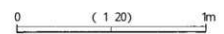
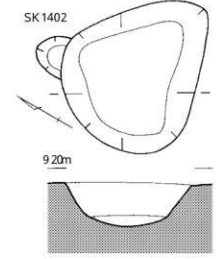
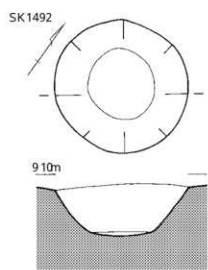
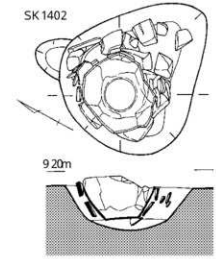
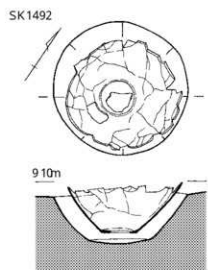
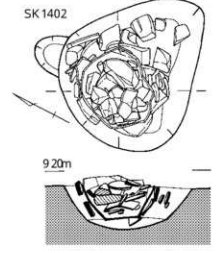
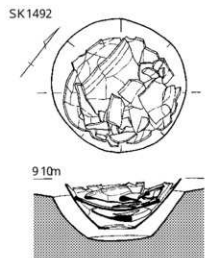
SK 1402(第14図、図版8) 1B地区で検出されたが、SD 141稜側の埋篋遺構密集区から離れた箇所所在する。平面形が90cm 77cmの隅丸三角形、深さ23cmの掘り方に土師質の大甕(18)が埋設されていた。甕の体部上半は削平されており、土坑内に数個の石が投げ込まれている。甕と掘り方の間に瓦質土器鉢(40)、燈炉(42)、火鉢(43、44、45)を充填しており、裏込めとして用いられたものと考えられる。なお、埋土からは磁器碗(38)、土師器鉢(39、41)が出土している。この遺構は近世に比定される。

SK 1420(第15図、図版9) 1B地区北側の調査区境で検出された。平面形が直径90cmの円形、深さ47cmの掘り方に土師質の大甕(11)が埋設されていた。甕の体部上半は削平されており、甕の口縁部一部位破片が多数折り重なって出土した。他の埋篋遺構は大甕と掘り方底部の間と隙間があまりないのに対し、大甕と掘り方底部の間隔は約20cmも空いている。埋土より陶器の碗(24、25)が出土しており、近世の遺構と考えられる。

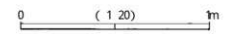
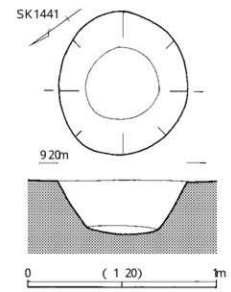
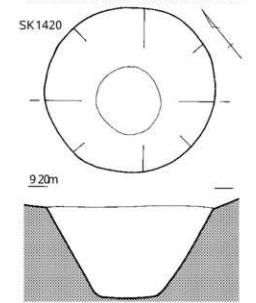
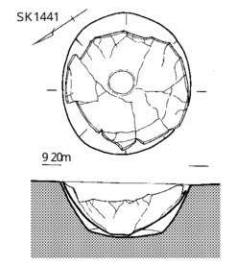
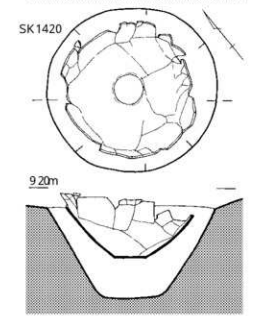
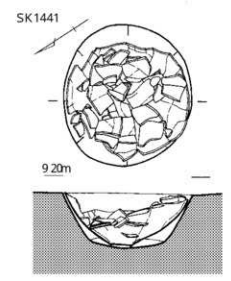
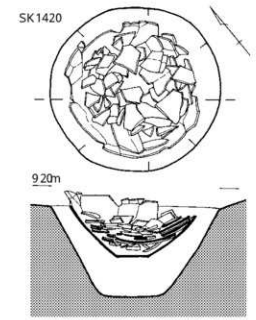
SK 1441(第16図、図版7) 1B地区で検出された。平面形が76cm 68cmの楕円形、深さ28cmの掘り方に陶質の大甕(12)が埋設されていた。甕の片側体部上半は削平されており、甕の上半部破



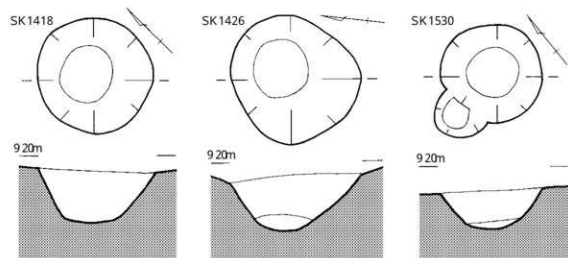
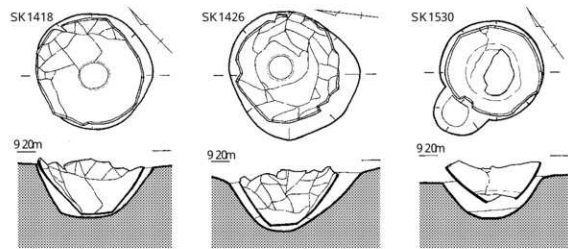
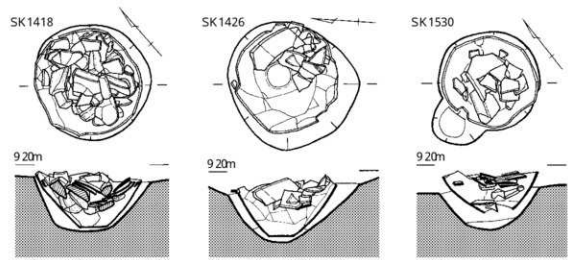
第11図 埋篋遺構実測図



第1図 埋残構実測図

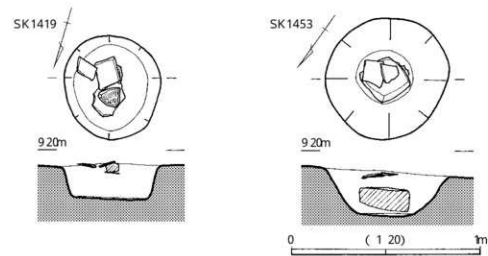
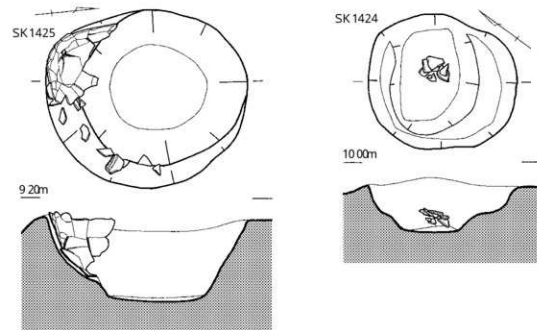
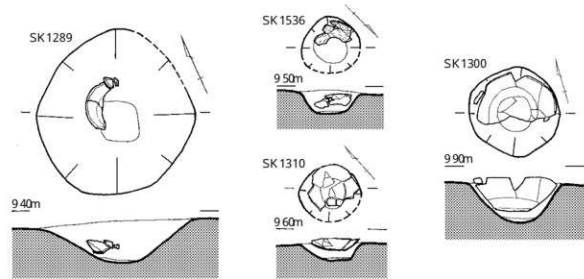


第2図 埋残構実測図



0 (1/20) 1m

第14図 埋櫛遺構実測図



0 (1/20) 1m

第15図 埋櫛遺構実測図

片が多数折り重なって出土した。埴土より、陶器碗(33)、鉢(36)、磁器皿(34・35)、硯(185)、瓦質土器の大甕の口縁部(37)が出土した。S K 144内に別個体の大甕が投棄されたものと考えられる。近世の埋蔵遺構である。

S K 1418(第14図、図版8) 1 B地区で検出された。S K 141附近は埋蔵遺構が密集する地域である。平面形が直径60cmの円形、深さ28cmの掘り方に土師質の大甕(9)が埋設されていた。甕の体部上半は削平されており、甕の中には多くの石が投げ込まれている。復元した甕の高さより当時の地表面は約20cm高いと思われる。埴土より祭祀用と見られる土製品(179)が出土しており、廃棄に伴う祭祀が行われた可能性がある。近世の埋蔵遺構と考えられる。

S K 1426(第14図、図版9) 1 B地区で検出された。S K 141の南西部に位置する。平面形が直径69cmの円形、深さ26cmの掘り方に土師質の大甕(14)が埋設されていた。甕の体部上半は削平されているが、下半部はよく残る。埴土より瓦質土器が出土。近世の埋蔵遺構と考えられる。

S K 1530(第14図、図版9) 1 B地区で検出された。S K 1402 S K 149と同様に密集箇所から外れて所在する。平面形が直径54cmの円形、深さ22cmの掘り方に瓦質の大甕(17)が埋設されていた。甕の体部上半が削平されており、底部も大きく欠損している。この掘り方はS P 161の北東部を切っている。埴土から、磁器碗(29)、陶器土甕(32)、土師器甕(30)、鉢(31)が出土しており、近世の埋蔵遺構と考えられる。

S K 1289(第15図、図版10) 1 A地区で検出された。土坑の北西部をS K 153に切られている。平面形が直径85cmの円形、深さ23cmの掘り方より瓦質の甕の底部(21)が出土したが、甕の大部分が削平によって欠損している。

S K 1536(第15図) 1 A地区で検出された。土坑の南西部はS K 1289に切られている。平面形が直径32cmの円形、深さ13cmの掘り方より土師質の甕の破片(23)が出土した。しかし後世の削平によって底部の小破片しか残っていない。

S K 1310(第15図、図版7) 1 A地区で検出された。SK 1308に切られている。平面形が直径32cmの円形と推測され、深さ9cmの掘り方内に瓦質の甕(15)が埋設されていた。甕の体部上半は削平を受けて欠損している。

S K 1300(第15図、図版7) 1 A地区で検出された。S P 1566と共にS K 1299を切る。平面形が直径48cmの円形、深さ20cmの掘り方に瓦質の甕(19)が埋設されていた。甕の体部上半、底部の半分も削平を受けて欠損している。

S K 1425(第15図、図版7) 1 B地区で検出された。平面形が直径86cmの円形、深さ46cmの掘り方より瓦質の甕(20)が出土した。しかし、後世の攪乱によって甕の半分が欠損している。

S K 1424(第15図) 1 B地区で検出された。平面形が80cm 76cmの楕円形、深さ27cmの二段掘りの掘り方より瓦質の甕の底部(22)が出土した。

S K 1419(第15図、図版10) 1 A地区で検出された。平面形が55cm 51cmの楕円形、深さ18cmの掘り方。埋蔵の抜き穴と考えられる。陶器擂鉢(49)、土師器、瓦片が出土した。

S K 1453(第15図、図版10) 1 B地区で検出された。平面形が直径66cmの円形、深さ26cmの掘り方。埋蔵の抜き穴と考えられ、中央部に石が置かれている。

第2表 埋蔵遺構一覧表

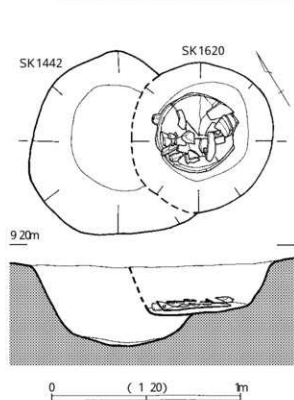
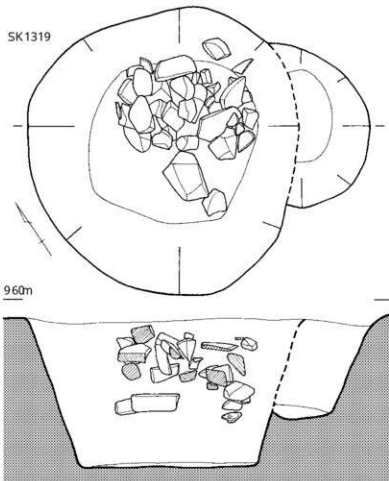
番号	地区	遺構番号	平面形	規模		埋蔵の種類	埋蔵の法量			出土遺物	時代	備考				
				長軸	短軸		口径	底径	高さ							
1	1 A	SK 1289	円形	85	83	23	瓦質土器		径 19.8	残 5.8	土師器(大甕)	陶器	近世	SK 153に切られる。 (埋蔵抜き穴)		
2	1 A	SK 1298	楕円形	77	71	35							近世			
3	1 A	SK 1300	円形	48	47	20	瓦質土器			19.2	残 16.5		近世	SK 1290中にある。		
4	1 A	SK 1301	楕円形	83	76	28	土師器	66.4	17.0	72.4			近世			
5	1 A	SK 1302	楕円形	96	86	50							近世	(埋蔵抜き穴)		
6	1 A	SK 1306	楕円形	99	88	23	瓦質土器	径 75.0	18.4	残 21.3	土師器(大甕)		近世			
7	1 A	SK 1310	不明	32	不明	9	瓦質土器		20.6	残 6.0			近世			
8	1 B	SK 1393	楕円形	86	76	45						土師器、磁器(硯)	陶器	近世	(埋蔵抜き穴)	
9	1 B	SK 1395	楕円形	78	72	30								近世	(埋蔵抜き穴)	
10	1 B	SK 1402	隅丸三角形	90	77	23	土師器	径 44.0	径 17.2	残 21.7	土師器(鉢)	瓦質土甕、 火鉢、埋中)磁器(甕)、 土製品(祭祀用具)木瓦		近世	瓦質土甕、瓦で閉りを 充填している。	
11	1 B	SK 1414	円形	52	52	21								近世	(埋蔵抜き穴)	
12	1 B	SK 1417	楕円形		25	19								近世	(埋蔵抜き穴) SK 1426に切れる。	
13	1 B	SK 1418	円形	60	60	28	土師器	径 68.4	16.2	55.6	土製品(祭祀用具)		近世			
14	1 B	SK 1419	楕円形	55	51	18						土師器(甕)	瓦	近世	(埋蔵抜き穴)	
15	1 B	SK 1420	円形	90	90	47	土師器	77.2	18.6	69.4				近世		
16	1 B	SK 1421	不定形	94	70	31						土師器、瓦質土器		近世	(埋蔵抜き穴)	
17	1 B	SK 1422	楕円形	82	68	32						土師器(甕)	陶器(唐鉢)	瓦	近世	(埋蔵抜き穴)
18	1 B	SK 1424	楕円形	80	76	27	瓦質土器				残 3.7	土師器(甕)	磁器(茶付筒)		近世	
19	1 B	SK 1425	円形	86	84	46	瓦質土器	径 16.0	残 4.9	瓦質土器(足縁脚部)				近世		
20	1 B	SK 1426	円形	69	69	26	土師器		15.3	残 29.5	瓦質土器、陶器			近世	(埋蔵抜き穴)	
21	1 B	SK 1428	隅丸方形	76	70	26						土師器(甕、鉢)		近世	(埋蔵抜き穴)	
22	1 B	SK 1429	隅丸方形	80	72	31						磁器(茶付筒)		近世	(埋蔵抜き穴)	
23	1 B	SK 1430	楕円形	64	52	22						陶器(甕、唐鉢)		近世	(埋蔵抜き穴)	
24	1 B	SK 1434	隅丸方形	56	40	39								近世	(埋蔵抜き穴)	
25	1 B	SK 1435	楕円形	88	78	30						瓦質土甕、 磁器(茶付筒)		近世	(埋蔵抜き穴)	
26	1 B	SK 1436	楕円形	46	46	12						土師器		近世	(埋蔵抜き穴) 石が溜入。	
27	1 B	SK 1439	円形	60	60	28						陶器、石製品(祭祀用具)		近世	(埋蔵抜き穴)	
28	1 B	SK 1441	楕円形	76	68	28	陶器	径 75.2	15.6	66.0	瓦質土甕(甕)	磁器(皿)	陶器(碗)	石製版(硯)	近世	
29	1 B	SK 1453	楕円形	66	65	26								近世	(埋蔵抜き穴)	
30	1 B	SK 1470	不明	66	65	26						土師器(大甕)	磁器 (皿)	陶器(唐鉢)	近世	(埋蔵抜き穴)
31	1 B	SK 1492	円形	72	69	28	瓦質土器	72.0	18.2	68.2	瓦質土器(鉢)			近世		
32	1 B	SK 1530	円形	54	52	22	瓦質土器	径 61.8	径 15.0	残 22.6	土師器(甕、鉢)			近世	SP 161を切る。	
33	1 A	SK 1536	不明	32	不明	13	土師器			残 4.5	磁器(硯)	陶器(土甕)		近世	SK 1289に切られる。	
34	1 A	SK 1537	隅丸方形	58	56	24								近世	(埋蔵抜き穴) SK 1308を切る。	

3 土坑(第16図、図版10)

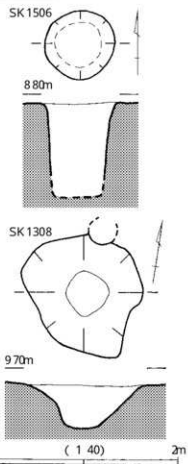
今回の調査で、4基の土坑が確認された。内訳は、1地区3基、2地区6基で、平面形は、楕円形1基、隅丸方形6基、隅丸三角形、円形、不定形がそれぞれ2基、長円形1基、不明1基であった。出土遺物から、中世、近世と考えられるものが多かった。以下、代表的なものを取り上げる。

S K 1319(第16図、図版10) 1 A地区の東側の本遺跡が一番高いところに位置する。円形の土坑で、S K 1320を切っており、また、上面の一部が、後世の土坑S K 1317によって掘り込まれていた。規模は、直径150cm、深さ80cm、土師器の大甕(55)、皿、瓦質土器の大甕(54)、磁器の碗2点(52・53)が出土しており、その上部では20～30cm程度の石が投棄された状態であった。近世の土坑と考えられる。

S K 1620(第16図、図版10) 1 B地区の東側、S D 1473の北側に位置する。S K 1442を切っており、平面形は円形と推定できる。規模は、直径80cm、深さ28cmである。近世の佐野焼(防府市)と



第16図 土坑実測図



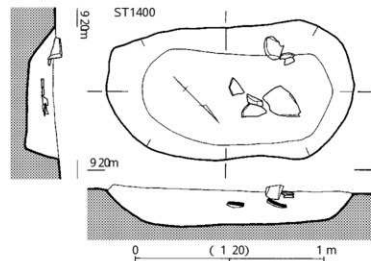
比定される土師器の風呂釜の底部（60）が土坑底面に貼り付いた状態で、また、その上から土師器の焙烙（59）が出土した。近世の土坑と考えられる。同様の風呂釜は、近隣の切畑南遺跡（防府市）からも出土している。

SK1506（第16図、図版10）1B地区の真ん中よりやや西側に位置する楕円形の土坑である。木製品（キリ製）の曲物の底板5点（193～197）、櫛（198）、石製品の砥石（181）、土師器の甕、鉢、陶器の皿、碗が出土している。また、埋土中よりタケ・シダの葉も出土した。近世の土坑と比定できる。

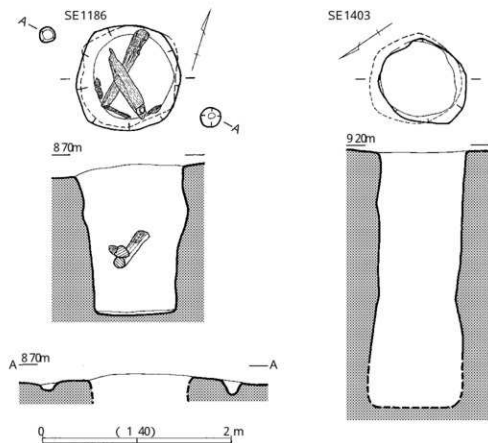
SK1308（第16図、図版10）1A地区の東側、SK1319の近くに位置し、SK1310を切っている、不定形の土坑である。規模は、長軸150cm、短軸115cm、深さ46cmで、土師器の杯が出土している。土坑の時期は不明である。

4 墓（第17図、図版10）

今回の調査で、僅のみ墓が確認された。



第17図 墓実測図



第18図 井戸実測図

ST 1400 (第17図、図版10) 1B地区中央部より、やや北東に位置する。墓坑は、長軸131cm、短軸70cm、深さ20cmの隅丸方形で、後世の削平のため浅い。墓坑の南西側より土師器の皿(61)が、埋土中から瓦質土器の甕が出土している。中世の墓と考えられる。

5 井戸(第18図、図版11)

今回の調査で、1地区より2基の井戸が確認された。

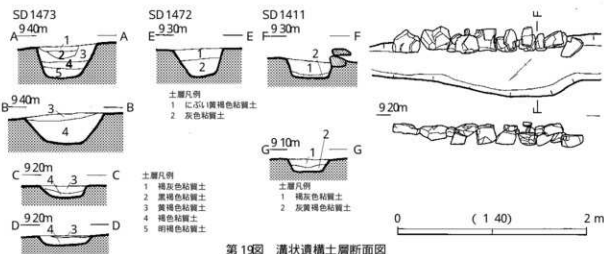
SE 1186(第18図、図版11) 1A地区の南側、傾斜面の一番低いところに位置する円形の井戸である。規模は、直径113cm、深さ153cmで、L 800m付近でやや膨らんでいる。また、井戸の東西につるべ柱穴と考えられる柱穴が位置している(SP 1159 SP 1187)。井戸埋土中層あたりで、長さ1m程度の加工木材(マツ材)が折り重なっており、その上から底部を上に向けた状態で、青磁の碗(63)も出土した。共存する遺物として、土師器の椀(62)、瓦質土器の播鉢(64)、足鎚の脚部がある。遺物から、中世の井戸と比定できる。

SE 1403(第18図、図版11) 1B地区の中央部より北東側に位置し、SD 140を切っている。深さが2mを越えたので、安全を考慮して底面まで掘り下げなかった。楕円形で上端の長軸97cm、短軸84cm、深さは推定で260cm、やや袋状の断面形を呈する。陶器の播鉢(68・69)、土師器の鉢(67)、大甕(70)、磁器の碗(65)、陶器の甕(66)、火鉢(71)、石臼(188・189)、瓦片、木杭(マツ材)が出土している。井戸の下層埋土中には、木片(カキノキ、アカガシ、スギ、タケ)、種実(ウバメガシ)・葉(イチイガシ)などの植物遺体が多量に含まれていた。近世の井戸と考えられる。

6 溝状遺構(第3・19図、図版11)

1A地区西側と2地区には、現代の暗渠排水路が縦横にめぐっている。形状、埋土から判断した。近世以前の溝状遺構は、1地区から6条検出した。そのすべてが、標高の高い台地状の地区に残存していた。以下、代表的なものを取り上げる。

SD 1473(第3・19図、図版11) 1A地区から1B地区にかけて東西に走る溝である。1B地区で、やや蛇行している。検出部分の長さは、1A地区で約17m、1B地区で約23mである。1A地区では、東端は調査区外に延び、西端は傾斜面で消滅する。1B地区では、東西端ともに調査区外に続いている。また、1A地区の途中で、北へと分かれSK 1318にぶつかって終結し、1B地区の途中で、SD 1411に切られている。幅は、最大で70cmで、深さは、最大40cmである。1B地区では、耕

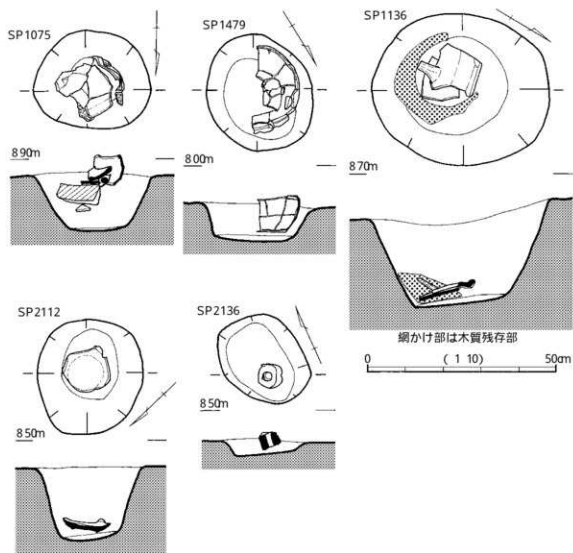


第19図 溝状遺構土層断面図

地化などのため削平が多く、深さは浅く10cm程度である。埋土は、下層に褐色並びに明褐色粘質土が堆積している。磁器の碗(80)、瓶、香炉、陶器の播鉢(81)、土師器の甕が出土している。SD 1411との切り合い関係から、中世〜近世初頭の溝と考えられる。

SD 1472(第3・19図、図版11) 1B地区の東側、SD 1473と平行に東西に走る溝である。溝の両端が調査区で切られ、確認できた部分の長さは、約4mである。幅は最大54cmで、深さは最大32cmである。埋土は、下層に灰褐色粘質土、上層にぶい黄褐色粘質土が堆積している。磁器の碗3点(72〜74)、土師器の大甕2点(75・76)、鉢、陶器の大甕(77)、鉢(79)、壺、皿、播鉢、瓦質土器の鉢(78)が出土している。近世の溝と考えられる。

SD 1411(第3・19図、図版11) 1B地区の東側を南北に走り、SD 1473と直交し切っている。北側は調査区外に延び、南側は傾斜面で消滅しており、SD 1473と直交する地点から北へ約1mの地点から西に向かって分かれているが、約15mで消滅している。また、さらに北の調査区とぶつかる付近で、SD 1622 SD 140を切っている。SD 1473と直交するあたりに、石積み遺構が溝の東側だけ、約2mにわたって残存していた。石の大きさは、20〜30cm程度で1〜2段に積まれている。溝の幅は最大で50cmで、深さは最大で18cmと後世の削平を受け浅い。土層は2層で、褐灰色粘質土の



第20図 柱穴実測図

上に灰黄褐色粘質土が堆積している。陶器の皿（83）、染付碗、土師器の大甕（82）、播鉢、陶器の鉢、播鉢が出土しており、近世の溝と考えられる。

7 柱 穴（第2図、図版 12）

今回の調査では、掘立柱建物跡を構成するものを含む約700箇の柱穴が検出された。内訳は、1地区約500箇、2地区から約200箇である。2地区の柱穴は、後世の削平の影響が大きく浅いものが多い。検出された柱穴のうち、1A地区の柱穴には、遺物を含むものが多かったが、全体的には、約1割の柱穴から遺物が出土している。以下、代表的なものを取り上げる。

S P 1075（第2図、図版 12） 1A地区の中央部やや北側に位置し、S B 5を構成する柱穴である。規模は、長軸31m、短軸26m、深さ15mである。自然石に被さるような形で、瓦質土器の鍋（7）足鍋（8）並びに土師器の杯（6）が出土している。廃絶儀礼に伴う遺物の可能性も考えられる。室町時代のもとの比定できる。

S P 1479（第2図、図版 12） 1B地区の北西側に位置する。規模は、長軸31m、短軸28m、深さ10mである。半載された土師器の茶釜（91）が埋納されていた。室町時代のもとの考えられる。

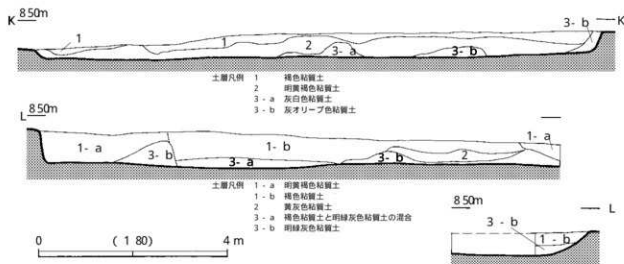
S P 1136（第2図、図版 12） 1A地区の中央部南側、S B 7内に位置する。規模は、長軸44m、短軸40m、深さ29m。腐植が著しく原形をとどめないが、植物性の有機物に包まれる形で、瓦質土器の足鍋（93）が出土している。室町時代のもとの考えられる。

S P 2112（第2図、図版 12） 2C地区の中央部よりやや西側、S B 2内に位置する。規模は、長軸31m、短軸28m、深さ20m。柱穴の底から、土師器の椀（87）が出土した。平安時代～鎌倉時代のもとの考えられる。

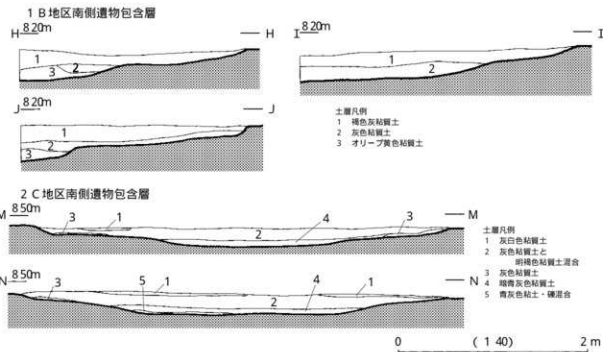
S P 2136（第2図、図版 12） 2C地区の中央部よりやや北側に位置する。規模は、長軸25m、短軸20mで、後世の削平が著しく、深さは5mである。土師器の有孔台付皿の有孔台部分（84）が出土した。平安時代のもとの考えられる。

8 粘土探掘坑（第2図、図版 12）

調査区内から、5基の粘土探掘坑を検出した。すべて2地区にあり、トレンチ調査で確認した。時代は近世以降のものであると考えられる。粘土探掘坑1は、2A地区南東端から2B地区南西端にか



第2図 粘土探掘坑土層断面図



第2図 遺物包含層土層断面図

けて位置する。調査区外に広がっているため、全体像は確認できない。西端を、粘土探掘坑2で切られていることから、粘土探掘坑2以前のものと比定できる。粘土探掘坑2は、2A地区南側から2C地区北西側にかけて位置する。やはり、調査区外に広がるが、長軸最大約13m、短軸最大約10mの台形状と考えられる。西端を粘土探掘坑3で切られ、それ以前のものと比定できる。粘土探掘坑3は、2C地区北西側に位置する。調査区外に広がり、全体像はつかめない。粘土探掘坑4は、粘土探掘坑3の南側にわずかに確認できる。やはり、調査区外に広がり、全体像は確認できない。粘土探掘坑5は、粘土探掘坑2の南東側に細長く延びる。規模は、長軸最大約14m 60cm、短軸最大約2m 60cmである。粘土探掘坑2に切られていることから、それ以前のものと比定できる。

9 遺物包含層（第2図、図版 13、14）

遺物包含層は、1B地区の南側と2C地区の南側に広がっていた。1B地区南側遺物包含層は、さらに南側の調査区外に広がっている。堆積土層は2層あるいは3層で、オリーブ黄褐色粘質土、灰褐色粘質土、褐色粘質土の順に堆積していた。下層から、土師器の台付皿（97）、皿（98）、椀（99-109）、鉢（113-114）、瓦質土器の播鉢（110-111）、足鍋（115）、陶器の播鉢（112）など古代～中世の遺物が出土し、上層からは、磁器の碗（118-121）、小皿（116）、小杯（117）、皿（123）、陶器の茶釜（127）、播鉢（128）など近世の遺物が出土した。また、広い範囲から植物種実、樹皮、樹枝、加工木片が出土した（付篇 植物遺体同定参照）。古代～近世にかけて、長い期間にわたって堆積したと考えられる。2C地区南側遺物包含層は、調査区外の東西に広がる。幅は、最大で約9mである。その南北両側から緩やかに傾斜していること、並びに、遺物包含層の最下層に青灰色粘質土・礫混合層があることから、東西に流れる河川流路跡の可能性も考えられる。下層の暗青灰色粘質土層から、緑釉陶器の椀（129-131）、土師器の椀（132-154）、杯（155-158）、白磁の碗（159）、須恵器の壺（161）など古代の遺物が出土した。また、上層の灰褐色粘質土と明褐色粘質土の混合土層から、瓦質土器の鍋（160）が出土している。中世以降に耕地化されたと考えられる。

第3表 遺構一覧表

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)		出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸・深さ			
1	1 A	SP 1003	楕円形	30	28	9		
2	1 A	SP 1004	楕円形	50	40	15		
3	1 A	SP 1006	楕円形	52	28	8	SB 瓦構成する。	
4	1 A	SP 1008	楕円形	48	40	16	土師器	SB 瓦構成する。
5	1 A	SP 1009	円形	34	34	19	土師器、瓦製土師	
6	1 A	SP 1010	楕円形	42	38	5		SB 瓦構成する。
7	1 A	SP 1011	円形	28	28	9		SB 瓦構成する。
8	1 A	SP 1012	楕円形	66	62	16	土師器	
9	1 A	SP 1014	楕円形	36	32	80	須恵器 (甗)	
10	1 A	SP 1015	楕円形	34	26	10		
11	1 A	SP 1017	楕円形	32	18	10		SP 1015に切られる。
12	1 A	SP 1018	楕円形	60	44	32	土師器 (杯)	柱取あり。
13	1 A	SP 1021	円形	36	36	22		
14	1 A	SP 1022	円形	28	28	11		
15	1 A	SP 1023	円形	28	28	6		
16	1 A	SP 1024	円形	20	20	4		
17	1 A	SP 1025	楕円形	50	32	8		SB 瓦構成する。
18	1 A	SP 1026	楕円形	24	20	7		
19	1 A	SP 1027	楕円形	48	46	21	土師器	
20	1 A	SP 1028	楕円形	48	40	18	土師器	SB 瓦構成する。
21	1 A	SP 1030	楕円形	34	28	36	土師器	SB 瓦構成する。
22	1 A	SK 1031	不定形	146	68	27		
23	1 A	SP 1032	楕円形	48	42	7		SB 瓦構成する。石湊入。
24	1 A	SP 1033	楕円形	30	26	7		
25	1 A	SP 1034	円形	28	28	12		
26	1 A	SP 1035	楕円形	26	24	5		SB 瓦構成する。
27	1 A	SP 1036	円形	34	34	4	土師器	
28	1 A	SP 1037	楕円形	36	28	33		SB 瓦構成する。
29	1 A	SP 1038	楕円形	38	36	7		
30	1 A	SP 1039	不定形	82	66	22	土師器	SB 瓦構成する。
31	1 A	SP 1040	円形	22	22	11		
32	1 A	SP 1041	楕円形	38	34	16		
33	1 A	SP 1042	楕円形	38	34	6		
34	1 A	SP 1043	楕円形	38	26	26	土師器	SB 瓦構成する。
35	1 A	SP 1044	円形	18	18	10		
36	1 A	SP 1045	楕円形	38	36	21		
37	1 A	SP 1046	楕円形	36	34	33		SB 瓦構成する。
38	1 A	SP 1047	楕円形	46	44	24		SB 瓦構成する。
39	1 A	SP 1048	円形	40	40	17		SB 瓦構成する。板石混入。
40	1 A	SP 1049	円形	14	14	15	土師器	
41	1 A	SP 1050	円形	18	18	12		
42	1 A	SP 1051	楕円形	14	12	24		
43	1 A	SP 1052	楕円形	36	30	33	近世	SB 瓦構成する。
44	1 A	SP 1054	円形	18	18	13		
45	1 A	SP 1055	楕円形	24	22	14		
46	1 A	SP 1056	円形	22	22	10		
47	1 A	SP 1057	楕円形	16	14	12		
48	1 A	SP 1058	楕円形	28	26	9		
49	1 A	SP 1059	楕円形	28	26	16		
50	1 A	SP 1060	円形	18	18	11		
51	1 A	SP 1061	円形	10	10	3		
52	1 A	SP 1062	円形	32	32	19		
53	1 A	SP 1063	楕円形	32	30	19	陶器 (碗)	近世 SB 瓦構成する。
54	1 A	SP 1064	楕円形	44	42	11		
55	1 A	SP 1065	円形	12	12	10		
56	1 A	SP 1066	楕円形	38	36	21	土師器 (皿)	近世 SB 瓦構成する。
57	1 A	SP 1067	円形	20	20	5		
58	1 A	SP 1068	楕円形	24	20	15		
59	1 A	SP 1069	楕円形	50	24	7		
60	1 A	SP 1070	円形	32	32	24	瓦製土師、土師器	中世 SB 瓦構成する。
61	1 A	SP 1071	楕円形	22	20	18		中世 SB 瓦構成する。
62	1 A	SP 1072	円形	30	30	26		中世 SB 瓦構成する。
63	1 A	SP 1073	楕円形	18	18	3		SP 1072に切られる。
64	1 A	SP 1074	楕円形	32	28	7	土師器 (杯)	中世 SB 瓦構成する。
65	1 A	SP 1075	楕円形	31	26	15	土師器 (杯)、瓦製土師 (織、足織)	近世 SB 瓦構成する。
66	1 A	SP 1076	楕円形	14	12	9		
67	1 A	SP 1077	円形	22	22	4		
68	1 A	SP 1078	円形	28	28	9		中世 SB 瓦構成する。
69	1 A	SP 1079	楕円形	32	30	13		
70	1 A	SP 1080	楕円形	34	32	10	青磁 (碗)	中世 SB 瓦構成する。
71	1 A	SP 1081	楕円形	44	40	9	土師器	
72	1 A	SP 1082	楕円形	32	28	12	土師器	

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)		出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸・深さ			
73	1 A	SP1083	楕円形	30	28	23		中世 SB 瓦構成する。
74	1 A	SP1084	楕円形	34	32	10		中世 SB 瓦構成する。
75	1 A	SP1085	円形	36	36	13	土師器	
76	1 A	SP1086	円形	32	32	25		
77	1 A	SP1087	円形	14	14	23		
78	1 A	SP1088	円形	20	20	10		
79	1 A	SP1089	楕円形	32	28	5		中世 SB 瓦構成する。
80	1 A	SP1090	円形	24	24	8		
81	1 A	SP1091	円形	24	24	9		中世 SB 瓦構成する。石湊入。
82	1 A	SP1092	楕円形	32	28	11	土師器 (皿)	中世 SB 瓦構成する。
83	1 A	SP1093	円形	34	34	13		中世 SB 瓦構成する。石湊入。
84	1 A	SP1094	楕円形	42	34	20	土師器 (皿)、須恵器、石製 (磁石)	
85	1 A	SP1095	円形	14	14	10		
86	1 A	SP1096	楕円形	42	34	20	土師器	
87	1 A	SP1097	楕円形	14	14	10	推定楕円形	中世 SB 瓦構成する。
88	1 A	SP1098	円形	20	20	6	スラグ	
89	1 A	SP1099	楕円形	36	32	36		
90	1 A	SP1101	楕円形	60	46	16		
91	1 A	SP1102	楕円形	34	28	7		
92	1 A	SP1103	楕円形	30	26	6		
93	1 A	SP1104	円形	22	22	4		
94	1 A	SP1105	楕円形	24	20	11		
95	1 A	SP1106	円形	14	14	10		
96	1 A	SP1107	円形	16	16	7		
97	1 A	SP1108	円形	22	22	7		
98	1 A	SP1109	楕円形	38	32	17		
99	1 A	SP1110	楕円形	54	42	18	土師器 (皿)、瓦製土師 (足織脚部)	
100	1 A	SP1111	不明	36	32	18	土師器 (皿、杯)	中世 SB 瓦構成する。SP1113に切られる。
101	1 A	SP1112	不明	40	36	26	土師器 (杯)、スラグ	SP1114に切られる。
102	1 A	SP1114	楕円形	34	34	12	瓦製土師 (足織脚部)	
103	1 A	SP1116	楕円形	30	28	18		SB 瓦構成する。
104	1 A	SP1117	楕円形	30	26	22		SB 瓦構成する。
105	1 A	SP1118	円形	18	18	15		中世 SB 瓦構成する。
106	1 A	SP1119	楕円形	32	26	24		
107	1 A	SP1120	円形	28	28	10		SB 瓦構成する。
108	1 A	SP1121	楕円形	36	30	7		
109	1 A	SP1123	楕円形	30	28	7		
110	1 A	SP1124	不明	36	34	18		SP1129に切られる。
111	1 A	SP1125	不明	44	40	30	瓦製土師 (楕鉢、足織脚部)	
112	1 A	SP1127	楕円形	28	26	10	灰化物	
113	1 A	SP1128	楕円形	34	34	11		SB 瓦構成する。
114	1 A	SP1129	楕円形	20	18	5		
115	1 A	SP1130	楕円形	16	12	20		
116	1 A	SP1131	楕円形	24	22	8		
117	1 A	SP1132	楕円形	32	28	9		
118	1 A	SP1133	楕円形	46	40	18		SB 瓦構成する。
119	1 A	SP1134	楕円形	32	30	19		SB 瓦構成する。
120	1 A	SP1135	楕円形	24	22	22	土師器 (皿)	
121	1 A	SP1136	楕円形	44	40	24	瓦製土師 (足織)	近世 SB 瓦構成する。
122	1 A	SP1138	楕円形	32	26	26		
123	1 A	SP1139	楕円形	32	30	24		
124	1 A	SP1140	楕円形	22	20	10		
125	1 A	SP1141	楕円形	20	18	6		
126	1 A	SP1142	楕円形	28	26	17		
127	1 A	SP1143	円形	16	16	9		
128	1 A	SP1144	楕円形	38	36	40		
129	1 A	SP1145	円形	22	22	14		SB 10瓦構成する。
130	1 A	SP1146	楕円形	34	30	16		
131	1 A	SP1147	楕円形	24	20	22		SP1146に切られる。
132	1 A	SP1148	楕円形	22	18	12		
133	1 A	SP1149	円形	26	26	13		
134	1 A	SP1150	楕円形	22	16	23		
135	1 A	SP1151	円形	34	34	21		SB 瓦構成する。
136	1 A	SP1152	円形	44	44	10		SB 10瓦構成する。
137	1 A	SP1153	円形	20	20	7		SB 瓦構成する。
138	1 A	SP1154	楕円形	24	20	6		
139	1 A	SP1155	円形	26	26	17		SB 瓦構成する。
140	1 A	SP1156	円形	24	22	22		SB 瓦構成する。
141	1 A	SP1157	楕円形	34	30	24		
142	1 A	SP1158	楕円形	32	30	19		
143	1 A	SP1159	円形	14	14	7		中世か?
144	1 A	SP1160	円形	22	22	15		SE11860つるべ用柱穴か

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)		出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸・深さ			
145	1A	SP1161	楕円形	24	22	15		
146	1A	SP1162	楕円形	26	22	17		SB10c構成する。
147	1A	SP1163	楕円形	22	18	10		SB10c構成する。
148	1A	SP1164	不明	残	22	15		切り合い壁体不明。
149	1A	SP1165	不明	30	30	15		SB10c構成する。切り合い壁体不明。
150	1A	SP1166	円形	16	16	5		
151	1A	SP1167	楕円形	36	26	9		
152	1A	SP1168	楕円形	22	20	8		
153	1A	SP1169	円形	22	22	11		
154	1A	SP1170	楕円形	28	24	15		
155	1A	SP1171	楕円形	24	22	10		
156	1A	SP1172	楕円形	残	26	22	20	SB10c構成する。SP1171cに切断される。
157	1A	SP1173	楕円形	24	20	9		
158	1A	SP1174	円形	20	20	15		
159	1A	SP1175	円形	26	26	9		
160	1A	SP1176	楕円形	20	18	3		
161	1A	SP1177	楕円形	24	22	9		
162	1A	SP1178	楕円形	34	26	15		
163	1A	SP1179	楕円形	30	24	10		
164	1A	SP1180	楕円形	24	22	17		
165	1A	SP1183	楕円形	24	22	17		SB11c構成する。
166	1A	SP1184	楕円形	16	14	15		
167	1A	SP1185	楕円形	34	30	23	土師器	
168	1A	SE1186	円形	112	158		土師器(黒)・土師器(緑)・土師器(赤)・土師器(白)	中世 L=800m付近で中世町並み。 SE1186d?の土層に属するか
169	1A	SP1187	円形	20	20	13		
170	1A	SP1188	楕円形	20	14	17		
171	1A	SP1189	楕円形	26	22	16		
172	1A	SP1190	円形	26	26	10		
173	1A	SP1191	円形	44	44	25		
174	1A	SP1192	楕円形	20	18	13		SB11c構成する。
175	1A	SP1195	楕円形	残	28	13		
176	1A	SP1196	楕円形	28	20	16		
177	1A	SP1197	円形	20	20	18		
178	1A	SP1198	円形	20	20	9		
179	1A	SP1199	円形	20	20	10	土師器(白)	SB10c構成する。
180	1A	SP1200	楕円形	20	16	17		
181	1A	SP1201	楕円形	18	16	13		
182	1A	SP1202	円形	20	20	16		
183	1A	SP1203	円形	18	18	12		
184	1A	SP1204	円形	22	22	13		
185	1A	SP1205	楕円形	残	10	5		SP1209cに切られる。
186	1A	SP1206	楕円形	24	14	12	土師器	
187	1A	SP1207	楕円形	14	14	12		
188	1A	SP1208	楕円形	18	12	14		
189	1A	SP1209	楕円形	22	20	30		
190	1A	SP1210	楕円形	22	20	30		
191	1A	SP1211	楕円形	34	26	15		
192	1A	SP1212	楕円形	30	24	15		SB10c構成する。
193	1A	SP1213	隅丸方形	34	26	26		
194	1A	SK1214	不明	残	294	88	11	調査区外に広がる。
195	1A	SP1215	円形	16	16	6		
196	1A	SP1216	楕円形	18	14	17		
197	1A	SP1217	円形	20	20	14		
198	1A	SP1218	円形	26	26	9		
199	1A	SP1219	楕円形	26	22	18		
200	1A	SP1220	円形	16	16	14		
201	1A	SD1221					瓦葺土層	
202	1A	SP1222	楕円形	24	22	18		
203	1A	SP1223	楕円形	26	22	16		石溜入。
204	1A	SP1224	円形	16	16	11		
205	1A	SP1225	円形	20	20	12		
206	1A	SP1226	円形	20	20	12		
207	1A	SP1227	楕円形	18	14	3		
208	1A	SP1228	楕円形	28	24	31		石溜入。
209	1A	SP1229	楕円形	24	残	34		SP1228cに切られる。
210	1A	SP1230	楕円形	30	28	22		
211	1A	SP1231	円形	22	22	36		
212	1A	SP1232	円形	24	24	24		
213	1A	SP1233	円形	34	34	33		SB11c構成する。
214	1A	SP1234	楕円形	18	16	9		
215	1A	SP1235	円形	20	20	22		
216	1A	SP1236	円形	14	14	6		

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)		出土遺物	時代	備考	
				長軸	短軸・深さ				
217	1A	SP1238	円形	14	14	26			
218	1A	SP1239	円形	22	22	30			
219	1A	SP1240	楕円形	26	20	12		石溜入。	
220	1A	SP1241	円形	34	34	15		SB11c構成する。	
221	1A	SP1242	楕円形	20	18	2		石溜入。	
222	1A	SP1243	円形	16	16	6			
223	1A	SP1244	楕円形	26	24	30			
224	1A	SP1245	楕円形	14	12	6			
225	1A	SP1246	円形	18	18	9			
226	1A	SP1247	楕円形	20	残	14		石溜入。	
227	1A	SP1248	円形	30	30	23		SP1246cに切られる。石溜入。	
228	1A	SP1249	楕円形	28	26	29		石溜入。	
229	1A	SP1250	円形	26	26	15		石溜入。	
230	1A	SP1251	楕円形	24	22	13		SB11c構成する。	
231	1A	SP1252	円形	22	22	8			
232	1A	SP1253	楕円形	30	28	29			
233	1A	SP1254	楕円形	18	16	30			
234	1A	SP1255	円形	30	30	19			
235	1A	SP1256	楕円形	42	30	40			
236	1A	SP1257	円形	24	24	31		柱礎あり。	
237	1A	SP1258	楕円形	26	22	51			
238	1A	SP1259	楕円形	38	32	28		SB11c構成する。	
239	1A	SP1260	円形	28	28	36			
240	1A	SP1261	楕円形	18	残	8		SP1260cに切られる	
241	1A	SP1262	円形	22	22	38		SB11c構成する。	
242	1A	SP1263	円形	20	20	26			
243	1A	SP1264	楕円形	20	18	19			
244	1A	SP1265	楕円形	26	24	33			
245	1A	SP1266	円形	28	28	7		SB11c構成する。	
246	1A	SP1267	円形	22	22	40			
247	1A	SP1268	円形	26	26	24		石溜入。	
248	1A	SP1269	楕円形	26	22	29			
249	1A	SP1270	円形	22	22	不明		石溜入。	
250	1A	SP1271	楕円形	20	16	24			
251	1A	SP1272	楕円形	34	28	11		SB11c構成する。	
252	1A	SP1273	楕円形	32	30	18		SB11c構成する。柱礎あり。	
253	1A	SP1274	楕円形	28	24	15			
254	1A	SP1275	楕円形	44	38	28		SB11c構成する。	
255	1A	SP1276	楕円形	36	30	13			
256	1A	SP1277	楕円形	20	18	13	土師器(白)		
257	1A	SP1278	楕円形	28	28	26			
258	1A	SP1279	楕円形	44	38	28			
259	1A	SP1280	円形	28	28	13		SB11c構成する。石溜入。	
260	1A	SP1281	楕円形	28	26	19			
261	1A	SP1282	楕円形	28	24	27			
262	1A	SP1283	円形	30	30	27			
263	1A	SP1284	楕円形	26	20	24		SB11c構成する。	
264	1A	SP1285	楕円形	38	36	25			
265	1A	SP1286	楕円形	残	44	25		SB10c構成する。SP1285cに切断される。	
266	1A	SP1287	円形	12	12	6			
267	1A	SP1288	楕円形	20	14	5	土師器		
268	1A	SP1289	円形	85	83	23	瓦葺土層(大衆)	近世 埋蔵遺構。SK1533cに切られる。	
269	1A	SP1291	楕円形	42	34	20			
270	1A	SP1292	楕円形	32	30	19		SB11c構成する。	
271	1A	SP1293	楕円形	34	30	10	須恵器		
272	1A	SP1294	円形	30	30	20			
273	1A	SP1295	楕円形	38	34	16		SB11c構成する。	
274	1A	SP1297	楕円形	32	28	23		SB11c構成する。	
275	1A	SK1298	円形	77	75	25	土師器(大衆)・陶器	近世 埋蔵の抜き穴。	
276	1A	SK1299	長方形	101	72	20	瓦葺土層(大衆)	近世 SK1300・SP1569dに切られる。	
277	1A	SK1300	円形	48	47	20	瓦葺土層(大衆)	近世 埋蔵遺構。SK1299d中にある。	
278	1A	SK1301	楕円形	83	76	38	土師器(大衆)・磁器(研)	近世 埋蔵遺構。	
279	1A	SK1302	楕円形	86	86	50	瓦葺土層(大衆)	近世 埋蔵の抜き穴。	
280	1A	SP1303	楕円形	26	22	16	土師器(大衆)		
281	1A	SP1304	円形	32	32	9			
282	1A	SP1305	円形	38	38	27			
283	1A	SK1306	楕円形	99	88	23	土師器(大衆)・瓦葺土層(大衆)	近世 埋蔵遺構。	
284	1A	SP1307	円形	145	46	39	土師器(大衆)	近世 SK1310cに切り合し。	
285	1A	SK1310	不明	32	不明	9	瓦葺土層(大衆)	近世 埋蔵遺構。SK1308cに切り合し。	
286	1A	SP1311	隅丸方形	44	44	31			
287	1A	SP1312	楕円形	残	40	36	22		SP1311cに切られる。
288	1A	SP1313	楕円形	24	20	11			

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
289	1A	SP1314	楕円形	20	16	12			
290	1A	SP1316	楕円形	48	34	23			
291	1A	SK1317	楕円形	88	72	11			
292	1A	SK1318	不明	88	64	38		SB1穴構成する。	
293	1A	SK1319	不明	150	150	80	土師製 大黒皿(瓦蓋土製 大黒)	近世	SK1317に切られる。
294	1A	SK1320	不明	86	不明	52	瓦蓋土製(横)	近世	SK1318に切られる。
295	1A	SP1321	楕円形	36	28	25		SB1穴構成する。	
296	1A	SP1322	円形	38	38	5		SD147穴切らす。	
297	1A	SP1325	楕円形	26	26	14		SB1穴構成する。	
298	1A	SP1326	円形	20	18	2		SB1穴構成する。	
299	1A	SP1327	楕円形	24	20	11		SD147穴切。	
300	1A	SP1328	推定楕円形	42	36	25		SD147穴切られる。	
301	1A	SP1331	楕円形	32	28	16			
302	1A	SP1332	楕円形	28	24	12		SB1穴構成する。	
303	1A	SP1333	楕円形	19	16	5			
304	1A	SP1334	楕円形	30	24	6		SD147穴切。	
305	1A	SP1335	楕円形	26	22	10			
306	1A	SP1337	楕円形	32	28	16			
307	1A	SK1338	楕円形	72	64	15		SD147穴切。	
308	1A	SP1339	楕円形	52	40	36			
309	1A	SP1340	推定楕円形	28	14	15		SD147穴切られる。	
310	1A	SP1341	楕円形	28	24	20			
311	1A	SP1342	楕円形	34	30	30			
312	1A	SP1343	楕円形	30	24	7			
313	1A	SP1344	楕円形	22	18	8			
314	1A	SP1345	楕円形	18	14	13		SB1穴構成する。	
315	1A	SP1346	推定円形	16	18	6		SP134穴切られる。	
316	1A	SP1347	楕円形	52	50	29			
317	1A	SP1348	楕円形	34	30	26		SB1穴構成する。	
318	1A	SP1349	楕円形	24	18	18			
319	1A	SP1350	楕円形	34	28	19		柱礎あり。	
320	1A	SP1351	円形	18	18	3			
321	1A	SP1352	円形	18	18	6			
322	1A	SP1353	不明	38	不明	21			
323	1A	SP1354	不明	36	不明	15		SP135穴切られる。	
324	1A	SP1355	不明	24	不明	7		SP1354 SP1355に切られる。	
325	1A	SP1356	不明	不明	34	15		石混入。	
326	1A	SP1357	不明	不明	32	23	土師器	SB1穴構成する。SP1355に切られる。	
327	1A	SP1358	楕円形	20	20	27	土師器		
328	1A	SP1359	楕円形	34	32	23			
329	1A	SP1360	円形	20	20	13			
330	1A	SP1361	楕円形	34	26	9			
331	1A	SP1362	円形	30	30	20		SB1穴構成する。	
332	1A	SP1363	楕円形	26	26	38			
333	1A	SP1364	円形	32	32	40			
334	1A	SP1365	楕円形	26	22	19		SB1穴構成する。	
335	1A	SP1366	楕円形	34	28	4			
336	1A	SP1367	楕円形	30	28	10			
337	1A	SP1368	楕円形	20	16	5			
338	1A	SP1369	楕円形	24	20	16		SB1穴構成する。	
339	1A	SP1370	楕円形	34	30	29		SB1穴構成する。	
340	1A	SP1371	楕円形	32	30	14			
341	1A	SK1372	楕円形	100	94	20			
342	1A	SP1373	楕円形	14	12	0			
343	1A	SP1374	楕円形	26	22	12		SB1穴構成する。	
344	1A	SP1375	楕円形	30	26	11			
345	1A	SP1376	円形	22	22	27		SB1穴構成する。	
346	1B	SP1377	楕円形	50	32	7			
347	1B	SK1378	楕円形	58	48	23			
348	1B	SK1379	円形	52	52	29			
349	1B	SP1380	楕円形	26	22	12		SB1穴構成する。	
350	1B	SP1381	楕円形	20	14	6			
351	1B	SP1382	円形	36	30	10			
352	1B	SK1383	不明	152	精54	38			
353	1B	SP1384	楕円形	22	18	7			
354	1B	SP1385	円形	24	24	7		SB1穴構成する。	
355	1B	SK1386	楕円形	60	44	11	土師器(鉢)	磁器(鉢)	
356	1B	SP1387	楕円形	42	34	9			
357	1B	SP1388	楕円形	28	22	6			
358	1B	SP1389	楕円形	38	24	12	土師器(横)	瓦	
359	1B	SP1390	楕円形	26	20	12		SB1穴構成する。	
360	1B	SP1391	楕円形	20	18	4			

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考	
				長軸	短軸	深さ				
361	1B	SK1392	楕円方形	36	28	10	土師製土瓶(電磁 磁鉢(灯明皿用))	近世		
362	1B	SK1393	楕円形	86	76	45		近世	埋蔵の抜き穴。	
363	1B	SP1394	楕円形	36	26	14				
364	1B	SK1395	楕円形	78	72	30				
365	1B	SK1396	円形	24	24	15				
366	1B	SP1397	円形	26	26	12				
367	1B	SP1398	楕円形	18	16	8				
368	1B	SK1399	不明	精58	精22	19				
369	1B	ST1400	楕円形	131	70	20				
370	1B	SP1401	円形	18	16	6	土師器(茶碗)			
371	1B	SK1402	楕円三角形	90	77	23	土師製土瓶(土師製土瓶用)土師器(鉢)	近世	埋蔵遺構、瓦蓋土製、瓦で閉り充積。	
372	1B	SE403	楕円形	97	84	26	土師製(土師製)土師器(磁鉢)土師器(鉢)	近世		
373	1B	SD1405							SD1411 SE1403に切られる。	
374	1B	SP1406	楕円形	20	12	8			SD1411内に所在。	
375	1B	SP1407	楕円形	22	20	34			SD1411内に所在。	
376	1B	SP1408	楕円形	14	12	17			SD1411内に所在。	
377	1B	SP1409	楕円形	20	14	33			SD1411内に所在。	
378	1B	SP1410	楕円形	28	24	13				
379	1B	SP1411	楕円形	30	26	43	土師器(茶碗)土師器(鉢)土師器(磁鉢)	近世		
380	1B	SP1412	楕円形	30	26	43			SK147穴切。	
381	1B	SP1413	楕円方形	18	16	17				
382	1B	SK1414	円形	52	52	21	陶器		近世	
383	1B	SP1415	楕円三角形	20	20	18			SB1穴構成する。	
384	1B	SK1416	楕円方形	46	40	36			SD1412に切られる。	
385	1B	SK1417	楕円形	36	32	19	殊		SD1412に切られる。	
386	1B	SK1418	円形	60	60	28	土師器(大椀)	土製品	近世	
387	1B	SK1419	楕円形	55	51	18	土師器(大椀)	陶器(磁鉢)	互	近世
388	1B	SK1420	円形	90	90	47	土師器(大椀)	磁器(研)		近世
389	1B	SK1421	不定形	94	70	31	土師器。	瓦蓋土製		近世
390	1B	SK1422	楕円形	32	28	32	土師器。	陶器(磁鉢)	精瓦、鉄釘	近世
391	1B	SP1423	楕円方形	24	24	12			SB1穴構成する。	
392	1B	SK1424	楕円形	80	76	27	土師製(土師製)土師器(茶碗)	土師器(茶碗)		近世
393	1B	SK1425	円形	86	84	46	瓦蓋土製(大椀、足輪脚部)			近世
394	1B	SK1426	円形	68	68	26	土師器(大椀)			近世
395	1B	SP1427	楕円方形	18	12	19				
396	1B	SK1428	楕円方形	76	70	26	瓦蓋土製、陶器			近世
397	1B	SK1429	楕円方形	80	72	31	土師器(横鉢)	磁器(染付皿)		近世
398	1B	SK1430	楕円形	64	52	22				近世
399	1B	SP1431	楕円形	40	28	28				
400	1B	SP1432	楕円方形	16	12	10				
401	1B	SP1433	円形	22	22	9				SB1穴構成する。
402	1B	SK1434	楕円方形	56	40	39				近世
403	1B	SK1435	楕円形	88	78	30	瓦蓋土製、磁器(染付皿)			近世
404	1B	SK1436	楕円形	24	24	12	土師器			近世
405	1B	SP1437	楕円形	20	16	11				埋蔵の抜き穴、石混入。
406	1B	SP1438	楕円形	18	14	14				
407	1B	SK1439	円形	60	60	28	陶器、石製品			近世
408	1B	SP1440	楕円形	22	18	11				SB1穴構成する。
409	1B	SK1441	楕円形	24	24	10	土師器			近世
410	1B	SK1442	不明	96	不明	43	土師製(土師製)土師器(大黒皿)	土師器(鉢)		近世
411	1B	SP1443	円形	20	20	15				
412	1B	SP1444	楕円形	26	24	12				SB1穴構成する。
413	1B	SK1445	楕円形	86	64	18				
414	1B	SP1446	楕円形	42	36	19				
415	1B	SP1447	楕円形	32	28	8				SB1穴構成する。
416	1B	SP1448	楕円形	22	20	12				
417	1B	SP1449	楕円形	24	20	7				
418	1B	SP1450	楕円形	48	36	15				
419	1B	SP1451	楕円形	32	28	11				
420	1B	SP1452	楕円形	34	32	10				
421	1B	SK1453	楕円形	66	66	26				近世
422	1B	SP1454	楕円形	22	20	21				
423	1B	SP1455	円形	28	28	11				SB1穴構成する。
424	1B	SP1456	楕円形	18	16	19				
425	1B	SP1457	円形	20	20	22				
426	1B	SP1458	円形	34	34	8				
427	1B	SP1459	円形	30	30	11				
428	1B	SP1460	円形	24	24	9				
429	1B	SP1461	楕円形	36	28	13	土師器			SB1穴構成する。
430	1B	SP1462	楕円形	18	14	5				
431	1B	SP1463	楕円形	30	28	12				
432	1B	SP1464	円形	22	22	18				

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
433	1 B	SP 1465	楕円形	22	20	8			
434	1 B	SP 1466	楕円形	32	30	13			
435	1 B	SP 1468	円形	18	18	14			
436	1 B	SP 1469	円形	26	26	12			
437	1 B	SK 1470	不明	残 80	残 34	34	土師製(黄)土製(白)陶器(磁鉢)	近世	埋積の残片穴。
438	1 B	SP 1471	円形	18	18	10			
439	1 B	SD 1472					土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)	近世	
440	1 B	SD 1473					土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)	近-前期	1 A、1 B 地区を東西に横切る。
441	1 B	SP 1474	楕円形	30	26	7			
442	1 B	SP 1475	楕円形	29	26	12			SB 17 焼成する。
443	1 B	SP 1476	楕円形	50	42	12			
444	1 B	SP 1477	楕円形	40	30	10			
445	1 B	SP 1478	楕円形	20	16	15			
446	1 B	SP 1479	楕円形	31	28	10	土師製(茶箱)	室町時代	
447	1 B	SP 1480	楕円形	32	14				
448	1 B	SP 1481	楕円形	46	40	24			SB 17 焼成する。
449	1 B	SP 1482	楕円形	32	28	10			
450	1 B	SP 1483	楕円形	46	34	20			
451	1 B	SP 1484	楕円形	52	44	10			
452	1 B	SP 1485	楕円形	50	38	11			
453	1 B	SP 1486	円形	20	20	12			
454	1 B	SP 1487	不定形	44	36	18			
455	1 B	SK 1488	楕円形	54	42	8			
456	1 B	SK 1489	不明	残 40	22	5			
457	1 B	SP 1490	円形	18	18	10			
458	1 B	SP 1491	楕円形	28	22	13			
459	1 B	SK 1492	円形	72	69	28	瓦葺土器(大瓶・鉢)	近世	埋積遺構。
460	1 B	SP 1493	楕円形	48	42	22			SB 17 焼成する。
461	1 B	SP 1494	楕円形	22	22	5			
462	1 B	SP 1496	楕円形	36	34	9			
463	1 B	SP 1497	円形	30	30	13			
464	1 B	SP 1498	楕円形	32	24	41			
465	1 B	SP 1499	楕円形	40	36	13	土師製(黄)		
466	1 B	SP 1500	楕円形	22	20	11			
467	1 B	SP 1501	楕円形	22	20	17			
468	1 B	SP 1502	楕円形	26	22	8			柱礎あり。
469	1 B	SP 1503	楕円形	22	20	13			
470	1 B	SP 1504	楕円形	28	24	11			
471	1 B	SP 1505	楕円形	22	20	16			
472	1 B	SK 1506	楕円形	76	72	49	土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)	近世	
473	1 B	SP 1507	楕円形	16	12	5			
474	1 B	SP 1508	円形	30	30	10			
475	1 B	SK 1509	楕円形	172	120	29	土師製(鉢)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)	近世	
476	1 B	SP 1510	楕円形	54	46	10			
477	1 B	SK 1511	楕円形	72	64	22			
478	1 B	SP 1512	不明	残 32	12	12			SK 151 2 に切られる。
479	1 B	SK 1513	楕円形	72	56	18			
480	1 B	SP 1515	隅丸方形	40	34	20			SB 18 焼成する。
481	1 B	SK 1517	楕円形	150	92	2			SK 151 8、151 9 に切られる。
482	1 B	SK 1518	楕円形	76	50	18	陶製(黄)土製品、鉄釘		SK 151 7 を切る。
483	1 B	SP 1519	楕円形	36	30	19			
484	1 B	SP 1520	楕円形	34	30	17			
485	1 B	SP 1521	隅丸方形	28	18	13			
486	1 B	SP 1522	楕円形	34	24	20			
487	1 B	SK 1523	楕円形	30	22	21			
488	1 B	SK 1524	隅丸方形	56	44	14			
489	1 B	SP 1525	円形	20	20	25			
490	1 B	SP 1526	円形	20	20	21			
491	1 B	SP 1527	楕円形	40	32	11			石進入。
492	1 B	SP 1528	円形	40	40	19			SB 18 焼成する。
493	1 B	SP 1529	隅丸方形	28	24	11			
494	1 B	SK 1530	円形	54	52	22	土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)	近世	埋積遺構。SP 161 2 に切られる。
495	1 B	SK 1531	隅丸三角	96	72	22	陶器(磁鉢)		
496	1 B	SP 1532	隅丸方形	46	46	26			
497	1 B	SK 1533	不明	残 30	38	12			SB 17 焼成する。SP 153 2 に切られる。
498	1 B	SP 1534	楕円形	32	26	14			SB 19 焼成する。SD 147 差切断する。
499	1 B	SK 1535	楕円形	56	40	16			SK 151 7 を切る。
500	1 A	SK 1536	不明	不明	不明	不明	土師製(大瓶)	近世	埋積遺構。SK 1 289 に切られる。
501	1 A	SK 1537	隅丸方形	58	56	24	瓦葺土器(黄)	近世	埋積の残片穴。
502	1 A	SP 1539	円形	36	36	27			中世 SB 6 焼成する。
503	1 A	SP 1540	楕円形	40	38	20			
504	1 A	SP 1541	楕円形	44	42	28			

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
505	1 A	SP 1542	楕円形	52	42	26			中世 SB 6 焼成する。SP 154 2 に切られる。
506	1 A	SP 1543	楕円形	28	26	18			
507	1 A	SP 1544	楕円形	34	32	26			SB 6 焼成する。柱礎あり。
508	1 A	SP 1545	楕円形	38	26	26			
509	1 A	SP 1546	楕円形	26	26	21			中世 SB 6 焼成する。
510	1 A	SP 1547	楕円形	26	26	18			
511	1 A	SP 1548	円形	14	14	14			
512	1 A	SP 1549	円形	36	36	14			
513	1 A	SP 1550	円形	18	18	9			
514	1 A	SP 1551	楕円形	44	44	12			SP 156 2 に切られる。
515	1 A	SP 1552	不定形	30	14	11			
516	1 A	SP 1553	円形	18	18	11			
517	1 A	SP 1554	不明	不明	不明	不明			SP 155 焼成する。
518	1 A	SP 1555	不明	不明	不明	不明			SP 1554、SP 155 2 に切られる。
519	1 A	SP 1556	不明	不明	不明	不明			SP 155 焼成する。
520	1 A	SP 1557	楕円形	26	20	14			SB 6 焼成する。
521	1 A	SP 1558	楕円形	28	24	20			SB 17 焼成する。
522	1 A	SP 1559	円形	30	30	23			
523	1 A	SP 1560	隅丸方形	26	20	13			
524	1 A	SP 1563	楕円形	32	26	28			
525	1 A	SP 1565	楕円形	28	20	22			SB 16 焼成する。
526	1 A	SP 1566	楕円形	38	33	34	瓦葺土器		SK 1299 9 所在。
527	1 A	SP 1567	隅丸方形	38	38	30	瓦葺土器		
528	1 A	SP 1568	円形	20	20	15			SP 155 焼成する。
529	1 A	SP 1569	楕円形	22	22	8			
530	1 B	SP 1570	楕円形	52	44	31			
531	1 B	SK 1573	隅丸方形	108	90	42	土師製(皿)須恵製(黄)		調査区外に広がる。
532	1 B	SK 1574	不明	残 88	34	131	土師製、磁器(小杯)陶器(黄)		
533	1 A	SP 1575	楕円形	18	16	18			
534	1 A	SP 1576	円形	22	22	11			
535	1 A	SP 1577	円形	18	18	5			
536	1 A	SP 1578	楕円形	34	24	5			
537	1 A	SP 1580	楕円形	22	18	12			
538	1 A	SP 1581	楕円形	20	16	9			
539	1 A	SP 1582	不明	不明	不明	不明			SP 158 2 に切られる。
540	1 A	SP 1583	楕円形	26	20	6			
541	1 A	SP 1584	楕円形	22	20	7			
542	1 A	SP 1585	楕円形	20	16	11			
543	1 A	SP 1586	円形	18	18	8			
544	1 A	SP 1587	円形	22	22	9			
545	1 A	SP 1588	楕円形	28	22	7			石進入。
546	1 A	SP 1589	円形	22	22	11			
547	1 A	SP 1590	楕円形	40	28	8			
548	1 A	SP 1591	楕円形	24	22	9			
549	1 A	SP 1592	楕円形	46	38	6			石進入。
550	1 A	SP 1593	楕円形	22	18	9			
551	1 A	SP 1594	円形	12	12	2			
552	1 A	SP 1596	楕円形	28	22	14			
553	1 B	SK 1600	楕円形	23	20	15			SB 6 焼成する。
554	1 A	SP 1598	楕円形	22	20	7			
555	1 A	SP 1599	楕円形	30	28	10			
556	1 A	SP 1600	円形	12	12	4			
557	1 B	SP 1601	楕円形	28	22	不明			SP 147 2 に切られる。
558	1 B	SK 1602	不明	不明	不明	不明			SK 1434、SK 143 2 に切られる。
559	1 B	SK 1603	不明	不明	不明	不明			SK 1434、SK 143 2 に切られる。
560	1 A	SP 1604	楕円形	34	30	16			
561	1 A	SP 1605	楕円形	36	30	19			
562	1 A	SP 1606	隅丸方形	22	20	不明			SK 121 4 9 所在。
563	1 B	SP 1607	円形	12	12	不明			SK 121 4 9 所在。
564	1 A	SP 1608	楕円形	20	14	17			SD 147 差切断する。
565	1 B	SP 1609	楕円形	50	46	23			SD 147 9 所在。
566	1 B	SP 1610	楕円形	18	16	8			SK 147 9 所在。
567	1 B	SK 1611	不明	不明	不明	不明			調査区外に広がる。
568	1 B	SK 1613	隅丸三角形	20	14	不明			
569	1 B	SK 1614	不明	不明	不明	不明			SK 1422、SK 142 2 に切られる。
570	1 B	SK 1615	隅丸三角形	42	36	8			
571	1 B	SP 1616	楕円形	12	10	26			SK 151 8 9 所在。
572	1 B	SK 1617	不明	不明	不明	不明			SK 153 焼成する。
573	1 B	SK 1619	楕円形	24	20	26			
574	1 B	SK 1620	不明	不明	不明	不明			土師製(黄)土師製(黄)土師製(黄)
575	1 B	SK 1621	不明	不明	不明	不明			SK 140 2 2 に切られる。
576	1 B	SP 1622							

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
577	2 A	SP 2001	楕円形	16	9				
578	2 A	SP 2002	楕円形	20	18	18			
579	2 A	SP 2004	楕円形	16	14	3			
580	2 A	SP 2005	楕円形	30	22	7			
581	2 A	SP 2006	不明	10	6				
582	2 A	SP 2007	楕円形	20	14	8			
583	2 A	SP 2008	楕円形	20	14	3			
584	2 A	SP 2009	楕円形	34	22	7			
585	2 A	SP 2012	楕円形	18	16	3			
586	2 A	SP 2013	楕円形	20	14	6			
587	2 A	SP 2014	楕円形	20	18	8			
588	2 A	SP 2015	楕円形	16	12	6	土師器 (杯)		
589	2 A	SP 2016	腕丸方形	30	30	19			
590	2 A	SP 2017	楕円形	20	18	11			
591	2 A	SP 2018	円形	18	16	8			
592	2 A	SP 2019	楕円形	44	28	7			
593	2 A	SP 2020	楕円形	16	14	20			
594	2 A	SP 2021	楕円形	24	22	9			
595	2 A	SP 2022	楕円形	28	22	24			
596	2 A	SP 2023	楕円形	34	24	8			
597	2 A	SP 2024	楕円形	24	22	9			
598	2 A	SP 2025	楕円形	残 42	40	19		SP 2025C 切り合ハ,	
599	2 A	SP 2026	楕円形	残 18	24	7		SP 2025C 切り合ハ,	
600	2 A	SP 2027	楕円形	24	20	12			
601	2 A	SP 2028	楕円形	26	20	20	土師器		
602	2 A	SP 2030	楕円形	16	12	6			
603	2 A	SP 2031	楕円形	14	10	3			
604	2 A	SK 2032	腕丸方形	72	60	19	土師器		
605	2 C	SK 2035	腕丸方形	80	72	6	瓦葺土器		
606	2 C	SK 2036	腕丸方形	44	40	15			
607	2 C	SK 2037	不明	残 111	80	12			
608	2 C	SP 2038	楕円形	40	34	20			
609	2 C	SP 2039	楕円形	26	18	7			
610	2 C	SP 2041	楕円形	36	26	20			
611	2 C	SP 2042	楕円形	38	28	16			
612	2 C	SP 2043	楕円形	32	28	10			
613	2 C	SP 2044	円形	26	26	23	土師器 (杯)	古代	SB2区構成する。
614	2 C	SP 2045	円形	24	24	9		古代	SB2区構成する。
615	2 C	SP 2046	楕円形	30	30	26	土師器	古代	SB2区構成する。
616	2 C	SP 2047	楕円形	26	16	11		古代	SB2区構成する。
617	2 C	SP 2048	楕円形	24	22	15	土師器		
618	2 C	SK 2049	楕円形	88	84	16			
619	2 C	SP 2050	楕円形	30	24	11	土師器		
620	2 C	SP 2051	楕円形	14	12	16			
621	2 C	SP 2054	楕円形	40	30	24			
622	2 C	SP 2055	楕円形	30	26	22		古代	SB2区構成する。
623	2 C	SP 2056	楕円形	24	20	23			
624	2 C	SP 2057	楕円形	26	16	8		古代	SB2区構成する。
625	2 C	SP 2058	円形	22	23	23	土師器	古代	SB2区構成する。
626	2 C	SP 2059	楕円形	30	28	17		古代	SB2区構成する。
627	2 C	SP 2060	楕円形	24	20	21		古代	SB2区構成する。
628	2 C	SP 2063	円形	20	14			古代	SB2区構成する。
629	2 C	SP 2064	楕円形	26	20	17	土師器		
630	2 C	SP 2065	楕円形	24	18	13		古代	SB2区構成する。
631	2 C	SP 2067	楕円形	26	22	11			
632	2 C	SP 2068	楕円形	26	20	20			
633	2 C	SP 2069	楕円形	26	22	16		古代	SB2区構成する。
634	2 C	SP 2070	楕円形	24	20	11		古代	SB2区構成する。
635	2 C	SP 2071	円形	12	12	19			
636	2 C	SP 2072	円形	12	12	16			
637	2 C	SP 2073	円形	18	18	10			
638	2 C	SP 2074	楕円形	20	18	10			
639	2 C	SP 2075	楕円形	40	32	13		古代	SB2区構成する。柱穴内に石。
640	2 C	SP 2076	楕円形	26	20	10			
641	2 C	SP 2077	楕円形	24	22	8			
642	2 C	SP 2078	楕円形	16	12	7			
643	2 C	SP 2079	楕円形	30	26	22		古代	SB2区構成する。
644	2 C	SP 2080	楕円形	30	26	4			
645	2 C	SP 2081	円形	28	28	9			
646	2 C	SP 2082	楕円形	18	16	13			
647	2 C	SP 2083	円形	30	30	12			
648	2 C	SP 2084	楕円形	22	18	6		古代	SB2区構成する。柱穴内に石。

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
649	2 C	SP 2085	円形	22	22	7			
650	2 C	SP 2086	楕円形	24	16	10			
651	2 C	SP 2087	不明	残 26	34	2			SP 2088Cに切られる。
652	2 C	SP 2088	楕円形	38	32	16	土師器	古代	SB2区構成する。
653	2 C	SP 2089	円形	18	16	12			
654	2 C	SP 2090	円形	14	14	11	土師器		
655	2 C	SP 2091	楕円形	24	22	11		古代	SB2区構成する。
656	2 C	SP 2092	楕円形	22	18	16			
657	2 C	SP 2093	円形	20	20	7	土師器 (碗)		
658	2 C	SP 2094	円形	20	18	13	土師器 (碗)	古代	SB2区構成する。
659	2 C	SP 2095	楕円形	24	20	14	土師器	古代	SB2区構成する。
660	2 C	SP 2096	楕円形	30	20	10			
661	2 C	SP 2097	円形	16	16	15			
662	2 C	SP 2098	円形	20	20	8			
663	2 C	SP 2099	円形	16	16	12			
664	2 C	SP 2100	円形	18	18	6			
665	2 C	SP 2101	楕円形	12	10	9			
666	2 C	SP 2102	楕円形	20	16	22		古代	SB2区構成する。
667	2 C	SP 2103	楕円形	20	12	16		古代	SB2区構成する。
668	2 C	SP 2105	楕円形	30	24	13		古代	SB2区構成する。
669	2 C	SP 2106	腕丸方形	36	30	5			
670	2 C	SP 2107	楕円形	32	28	20		古代	SB2区構成する。
671	2 C	SP 2108	楕円形	14	12	12			
672	2 C	SP 2109	楕円形	44	36	22		古代	SB2区構成する。
673	2 C	SP 2110	楕円形	22	23	3		古代	SB2区構成する。
674	2 C	SP 2111	楕円形	18	14	9			
675	2 C	SP 2112	楕円形	31	28	20	土師器 (碗)	平安時代	
676	2 C	SP 2113	円形	22	22	16	スラグ		
677	2 C	SP 2114	円形	22	22	11			
678	2 C	SP 2115	楕円形	32	26	26		古代	SB2区構成する。
679	2 C	SP 2116	楕円形	36	20	13		古代	SB2区構成する。
680	2 C	SP 2117	楕円形	26	20	15			
681	2 C	SP 2118	円形	22	22	12		古代	SB2区構成する。
682	2 C	SP 2119	円形	22	22	12		古代	SB2区構成する。
683	2 C	SP 2120	楕円形	24	22	17			
684	2 C	SP 2121	楕円形	22	16	13			
685	2 C	SP 2123	楕円形	26	16	18			
686	2 C	SP 2124	円形	12	12	8			
687	2 C	SP 2125	楕円形	24	22	13			
688	2 C	SP 2126	円形	18	18	23			
689	2 C	SP 2127	楕円形	18	16	14			
690	2 C	SP 2128	不明	残 18	残 12	8			SP 2128Cに切られる。
691	2 C	SP 2129	楕円形	38	32	12	土師器		
692	2 C	SP 2130	円形	20	20	8			
693	2 C	SP 2131	円形	14	14	4			
694	2 C	SP 2132	楕円形	12	10	10			
695	2 C	SP 2133	楕円形	22	20	14			
696	2 C	SP 2134	楕円形	26	20	14			
697	2 C	SP 2135	楕円形	18	14	7			
698	2 C	SP 2136	楕円形	25	20	5	土師器 (有孔台付面)	平安時代	
699	2 C	SP 2137	楕円形	20	16	6			
700	2 C	SP 2138	円形	12	12	9			
701	2 C	SP 2139	円形	12	12	6			
702	2 C	SP 2140	楕円形	20	16	12			
703	2 C	SP 2141	円形	14	14	9			
704	2 C	SP 2142	楕円形	20	残 12	8			SP 2142Cに切られる。
705	2 C	SP 2143	楕円形	20	18	10			
706	2 C	SP 2144	楕円形	18	16	6			
707	2 C	SK 2145	楕円形	24	60	7			
708	2 C	SP 2146	不明	残 22	残 22	3			SP 2146Cに切られる。
709	2 C	SP 2147	円形	16	16	8			
710	2 C	SP 2148	楕円形	24	20	8			
711	2 C	SP 2149	楕円形	16	14	5			
712	2 C	SP 2150	円形	16	16	3			
713	2 C	SP 2151	楕円形	22	16	5			
714	2 C	SP 2152	円形	24	24	6			
715	2 C	SP 2153	円形	20	20	14			
716	2 C	SP 2154	楕円形	26	20	14			
717	2 C	SP 2155	円形	14	14	10			
718	2 C	SP 2156	楕円形	20	16	8			
719	2 C	SP 2157	楕円形	20	14	13			
720	2 C	SP 2158	円形	22	22	13			

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
721	2 C	SP2159	楕円形	26	20	3			
722	2 C	SP2160	楕円形	20	14	4			
723	2 C	SP2161	楕丸方形	30	26	12			
724	2 C	SP2162	楕円形	24	20	8			
725	2 C	SP2163	楕円形	14	10	9			
726	2 C	SP2164	楕円形	20	16	10			
727	2 C	SP2165	楕円形	24	16	10	土師器		
728	2 C	SP2166	楕円形	20	18	6			
729	2 C	SP2167	楕円形	18	14	7			
730	2 C	SP2168	楕円形	16	14	11			
731	2 C	SP2169	楕円形	12	9	4			
732	2 C	SP2170	楕円形	16	14	18			
733	2 C	SP2171	楕円形	14	12	7			
734	2 C	SP2172	楕円形	20	16	8			
735	2 C	SP2173	楕円形	30	24	6			
736	2 C	SP2174	円形	20	20	9			
737	2 C	SP2175	楕円形	26	24	10			
738	2 C	SP2176	円形	30	30	5			
739	2 C	SP2177	楕円形	18	16	9			
740	2 C	SP2178	円形	10	9	10			
741	2 C	SP2179	円形	14	14	6			
742	2 C	SP2180	楕円形	14	12	4			
743	2 C	SP2181	円形	16	16	3			
744	2 C	SP2182	円形	14	14	10			
745	2 C	SP2183	楕円形	28	24	3			
746	2 C	SP2184	楕円形	20	16	7			
747	2 C	SP2185	楕円形	14	12	14			
748	2 C	SP2186	不明	40	残	16			
749	2 C	SP2187	不明	16	残	10			
750	2 C	SP2188	不明	残	16	14			
751	2 C	SP2189	楕円形	18	14	15			
752	2 C	SP2190	楕円形	14	12	6			
753	2 C	SP2191	円形	12	12	11			
754	2 C	SP2192	楕円形	19	15	6			
755	2 C	SP2195	楕円形	12	10	6			
756	2 C	SP2196	楕円形	16	14	5			
757	2 C	SP2197	楕円形	16	14	5			
758	2 C	SP2198	楕円形	16	14	4			
759	2 C	SP2200	楕円形	22	20	20			
760	2 C	SP2201	楕円形	18	16	34			
761	2 C	SP2202	円形	20	20	12			
762	2 C	SP2203	円形	12	12	6			
763	2 C	SP2204	円形	16	16	2			
764	2 C	SP2205	円形	12	12	13			
765	2 C	SP2206	楕円形	12	8	11			
766	2 C	SP2207	円形	14	14	8			
767	2 C	SP2208	楕円形	12	8	10			
768	2 C	SP2209	楕円形	30	22	8			
769	2 C	SP2210	楕円形	32	26	35			
770	2 C	SP2211	楕円形	20	16	21	土師器		
771	2 C	SP2212	楕円形	34	30	2		古代	SB2を構成する。
772	2 C	SP2213	円形	10	10	4			
773	2 C	SP2214	楕円形	14	10	7			
774	2 C	SP2215	楕円形	26	18	10			
775	2 C	SP2216	楕円形	16	12	11			
776	2 C	SP2217	円形	14	14	8			
777	2 C	SP2218	円形	12	12	5			
778	2 C	SP2219	円形	10	10	5			
779	2 C	SP2220	楕円形	14	12	3			
780	2 C	SP2221	円形	12	12	6			
781	2 C	SP2222	楕円形	10	8	3			
782	2 C	SP2223	楕円形	22	18	20			
783	2 C	SP2224	円形	8	8	4			
784	2 A	SK2225	不明	残	434	152	12		

遺物

調査の結果、古代（平安時代）、中世（鎌倉・室町時代）、近世（江戸時代）の各時期の遺物が出土している。主な遺物の種類としては、土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦質土器・輸入磁器・国産陶磁器、土製品、石製品、金属製品（銭貨）、木製品などがある。遺構とのかかわりでは、土坑・溝状遺構・柱穴などの遺構に伴う出土遺物総量は比較的少ないが、埋蔵遺構関連ならびに遺物包含層からの出土遺物が、比較的多い。

なお、各遺物の法量や調整・特徴などについては、章末の各遺物観察表に一括して掲載した。

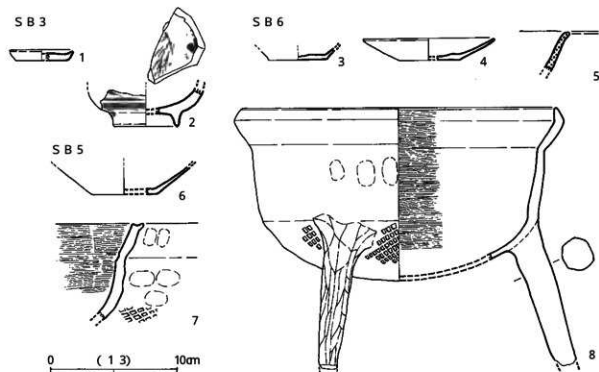
1 土器・陶磁器（第23～41図、図版15～25）

（1）掘立柱建物跡出土遺物（第22図、図版22）

1～2はSB3出土の遺物。1は土師器皿。2は陶器碗で、内外面に葦灰釉が掛かり浅黄色を呈する。削り出し高台。近世の遺物。3～5はSB6出土遺物。3は土師器皿。4は土師器杯。室町時代後半、16世紀代。5は輸入青磁碗。やや端反りの口縁部破片で、無文。6～8はSB5出土。6は土師器杯。4と同様16世紀代。7は瓦質土器鍋で、口縁端部の内側への屈曲がない。8は瓦質土器足鍋。口縁部は内側へ屈曲させ、内面に蓋受け状の段がある。内面はハケ調整、底部外面に格子状のタタキメがあり、スズが付着している。

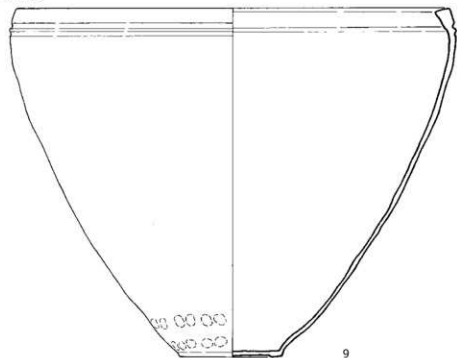
（2）埋蔵遺構出土遺物（第24～31図、巻頭図版2、図版15～20）

埋蔵本体（第24～28図、図版15～18） 9はSK1418出土の土師器大甕。体部が底部から外開きぎみに直線的に立ち上がり、口縁外部に巡る2条の沈線あたりで内湾する。口縁端部は厚くなっている。底部外面には底板と粘土帯を接合した指押さえ痕が残る。10はSK1492出土の瓦質土器大甕。口縁外部に2条の沈線が巡る。内面ナデ、外面指押さえのちナデ。11はSK1420出土の土師器大甕。出土し



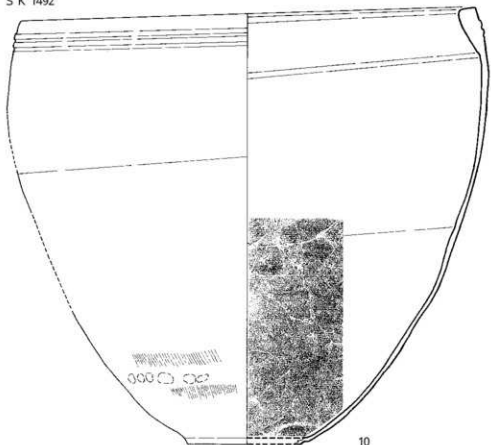
第22図 掘立柱建物跡出土遺物実測図

S K 1418



9

S K 1492

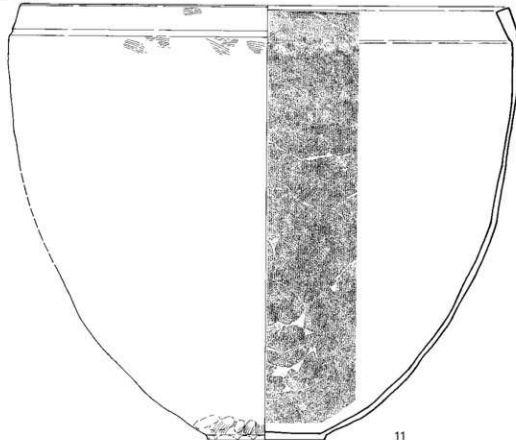


10

0 (1 6) 20cm

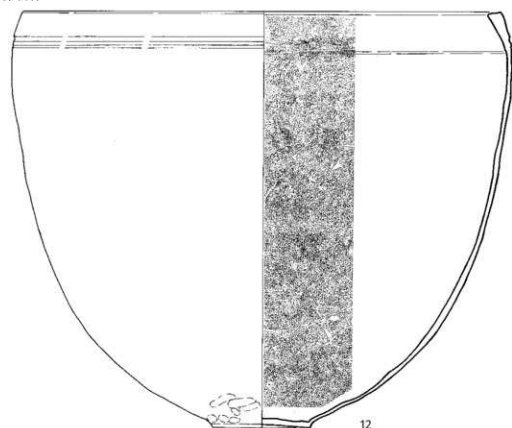
第 24 図 埋櫛遺構出土遺物実測図

S K 1420



11

S K 1441

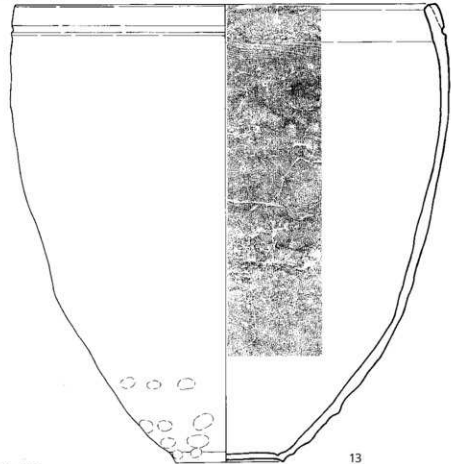


12

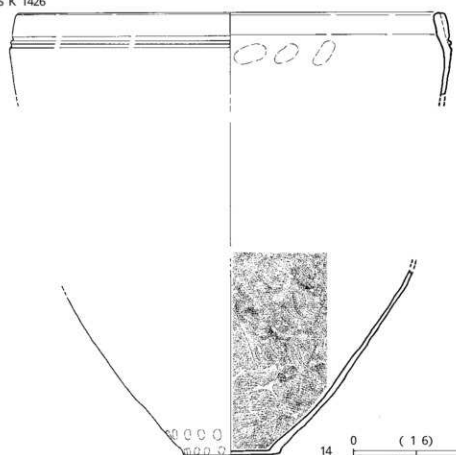
0 (1 6) 20cm

第 25 図 埋櫛遺構出土遺物実測図

S K 1301

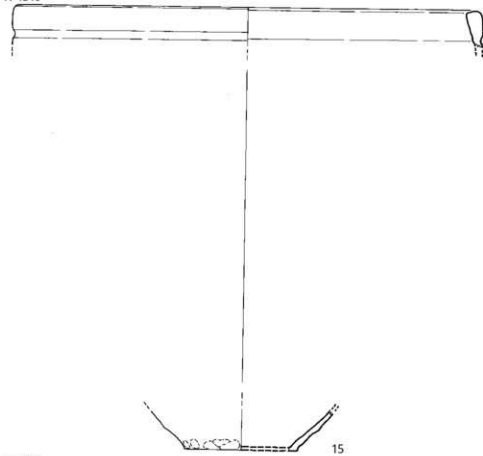


S K 1426

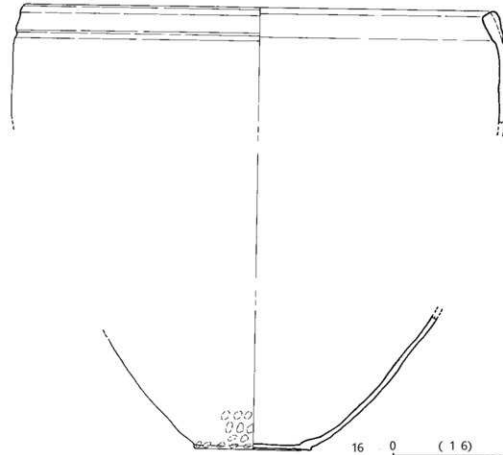


第26図 埋蔵遺構出土遺物実測図

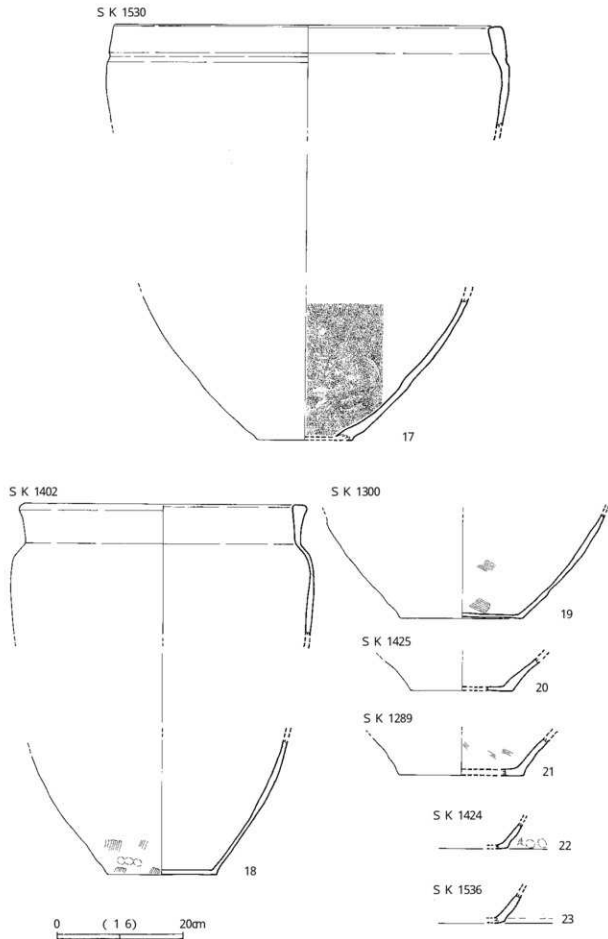
S K 1310



S K 1306

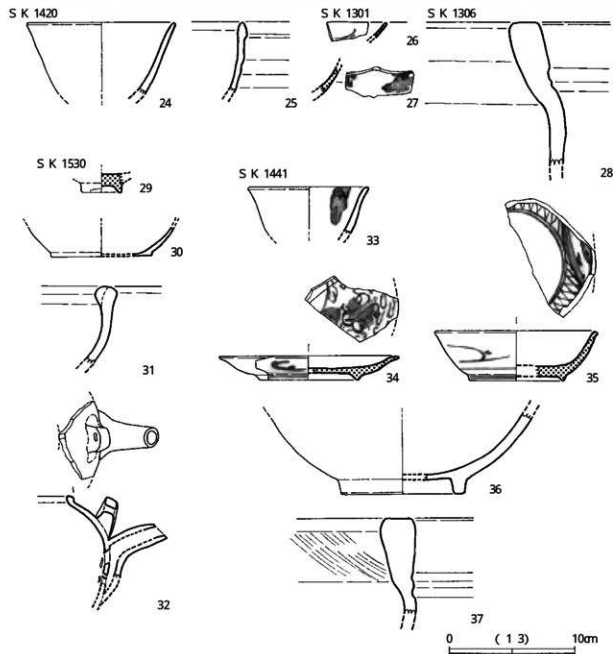


第27図 埋蔵遺構出土遺物実測図



第 28 図 埋蔵遺構出土遺物実測図

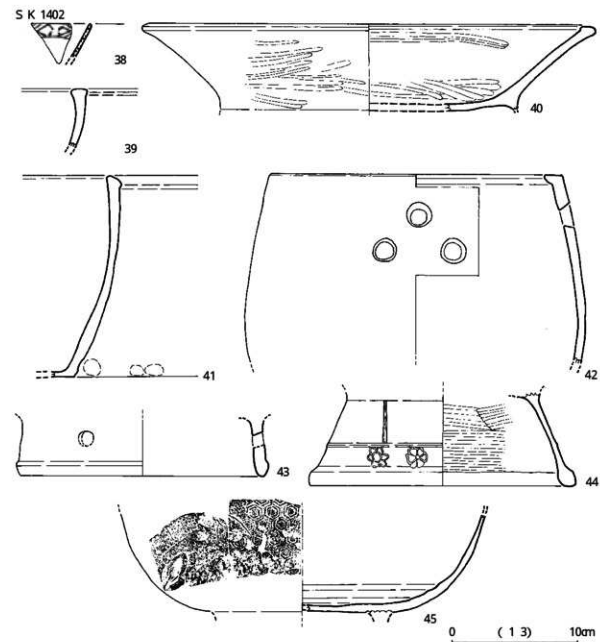
た裏の中で、口径が77.2cmと最も大きい。口縁外部に1条の沈線が巡る。内面に当て具の同心円文タタキメ痕が残る。12はS K 1441の陶器大甕。明赤褐色を呈する。復元口径が75.2cmと大きい。2条の沈線が巡る口縁部はやや楕円形にゆがんでいる。内面に当て具の同心円文タタキメ痕が残る。以上3点は、器高に対して口径の方が大きく、体部が外膨らみでずんぐりした器形を呈する。13はS K 1301出土の土師器大甕。口径が66.4cmに対して、器高が72.4cmと高く、体部の外膨らみが緩やかで、細長い器形を呈する。底部から体部内面下半部にかけてはナデ、体部内面上半部には同心円状のタタキメ痕が残る。底部外面に指押さえ痕。1条の沈線が巡る口縁部外面には粘土帯を貼り付けた痕跡が確認できる。14はS K 1426出土の土師器大甕。口縁外部には2条の沈線が巡り、粘土帯を貼り付けた痕跡が確認できる。体部内面下半に同心円状のタタキメ痕が残る。体部上半は欠損し、口縁部側との接合面がない。19はS K 1310出土の瓦質土師器大甕。体部上半は後世の削平により大きく欠損し、口縁



第 29 図 埋蔵遺構出土遺物実測図

部との接合面がない。16はS K 130出土の瓦質土器大甕。体部上半は後世の削平により欠損しており、口縁部側との接合面がない。1条の沈線が巡る口縁部には粘土帯の貼り付けが確認できる。17はS K 153出土の瓦質土器大甕。体部内面下半に当て具のタタキメ痕が残る。体部上半は欠損している。18はS K 140出土の土師器大甕。体部から頸部にかけてややすぼまり口縁部につながる。他の大甕とは器形を異にする。

14～18は、体部上半と口縁部下半の間の器壁が一部欠損している。これは、土中に体部まで埋めて設置されていた大甕が、使用をやめ廃棄される際に、地上に露出した口縁部から体部上半にかけて打ち欠いて甕内部に投棄された後、後世の削平により地中に残された甕の体部上半が欠損したことによるものと考えられる。19はS K 130出土の瓦質土器大甕。20はS K 142出土の瓦質土器大甕。21はS K 128出土の瓦質土器大甕。22はS K 142出土の瓦質土器大甕。23はS K 153出土の土師器大甕。以上の大甕は、基本的にはほぼ使用時埋められていた状態で出土した。



第30図 埋篋遺構出土遺物実測図

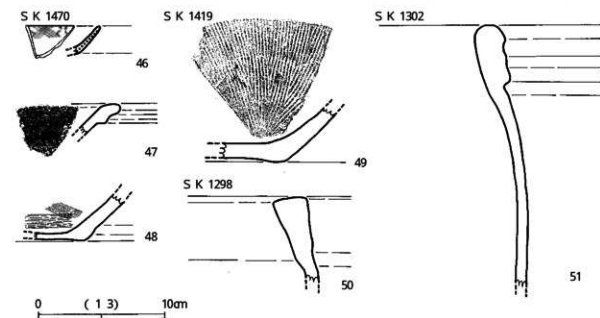
埋篋内出土遺物(第29図、図版19) 埋篋の中からの出土遺物で、基本的に埋篋と共生し、時期決定の資料となるものである。24は陶器碗で白色の釉が内外面に掛かる。口縁端部に褐色の釉が掛かる。25は陶器碗で、S K 1420から出土。26・27は磁器の染付碗。ともにS K 130から出土。28は土師器の大甕口縁部でS K 130出土。29～32はS K 153出土。29は磁器碗の高台部。30は土師器甕の底部。31は土師器鉢。口縁部内面に突帯が貼り付けられている。32は陶器土瓶の注口部。吊り手の取り付け部がある。33～37はS K 144から出土したもの。33は陶器碗。内面に緑色を呈する釉が一部垂れるように掛けられている。34・35は染付磁器皿。34は見込み部に焼き継ぎ痕が見られる。36は陶器の鉢。高台部を除き、内外面に白色の釉が掛かる。37は瓦質土器の大甕口縁部。外面に2条の沈線が刻まれている。以上、近世の遺物である。

埋篋と掘り方の間の充填遺物(第30図、図版20) 38～49はS K 140から出土。38は磁器碗。39は土師器鉢。40は瓦質土器鉢。内外面にミガキ痕がある。41は土師器鉢。42は瓦質土器の焔炉。上半部に3個の円形の窓が空いている。43は瓦質土器の火鉢か。脚部に穿孔がある。44は瓦質土器の火鉢。脚部外面の下部に花卉のスタンプ文様が施されている。内面は横方向のハケメが残る。45は瓦質土器の火鉢。体部に亀甲文様と草木が刻まれている。以上、近世の遺物である。

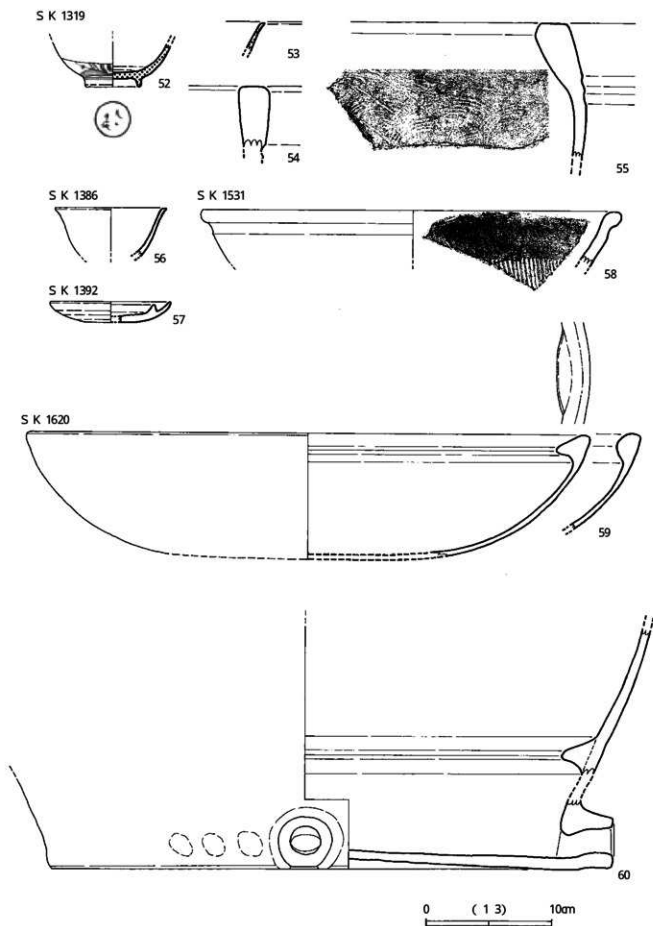
埋篋抜き穴出土遺物(第31図、図版20) 埋篋抜き穴の埋土中から出土した遺物である。46～48はS K 1470出土遺物。46は磁器の染付碗。47は陶器の播鉢。オロシメ単位は不明である。48は土師器の大甕。底部内面ハケ調整。49は陶器の播鉢。左回転方向に重ねて8条単位のオロシメが刻まれている。S K 1419出土。50は土師器の大甕口縁部破片。S K 1298出土。51は瓦質土器の大甕。口縁部外面に突帯が貼り付けられ、2条の沈線が巡る。S K 130出土。以上、近世の遺物である。

(3) 土坑出土遺物(第32図、図版20)

52～59はS K 1319出土。52は磁器の染付碗。見込みに蛇の目釉刺ぎ痕、高台内に文様がある。53は磁器の端反り碗の口縁部。透明釉が掛かる。54は瓦質土器の大甕口縁部破片。55は土師器の大甕。口縁部外面に2条の沈線が巡り、内面屈曲部の下方にタタキメ痕が残る。56は陶器の端反り碗。S K



第31図 埋篋遺構出土遺物実測図



第 32 図 土坑出土遺物実測図

1386出土。5は陶器の灯明皿。S K 1392出土。58は陶器の膚鉢。オロシメ単位は不明。S K 1531出土。59は土師器の培烙。口径44.4cmの大型品である。内面に貼り付けの突帯が巡り、退化した耳が痕跡的に取り付けられている。外面にススが附着している。60は土師質の風呂釜。底径は40.0cmで、器壁は7mm~1cmと比較的薄い。入浴の際に人が乗る「げす板」を置くための突帯状のツメ

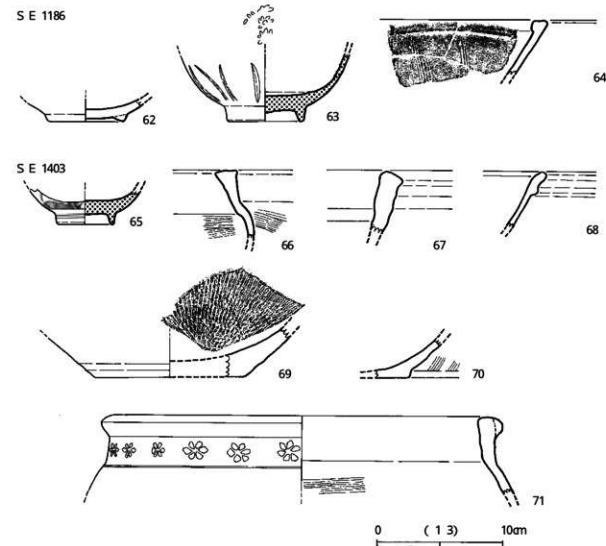
(4) 墓出土遺物(第33図、図版21)

6は土師器皿。器壁は薄く、内湾ぎみに立ち上がる。底部には回転糸切り痕がある。

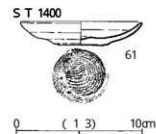
(5) 井戸出土遺物(第34図、図版21)

62~64はS E 1186出土。62は土師器碗。高台は退化し、断面は逆三角形を呈する。63は輸入青磁碗。外面にやや退化した片切彫りの蓮弁文様が施され、内面見込みには簡略な花文がスタンプされている。

S E 1186



第 34 図 井戸出土遺物実測図

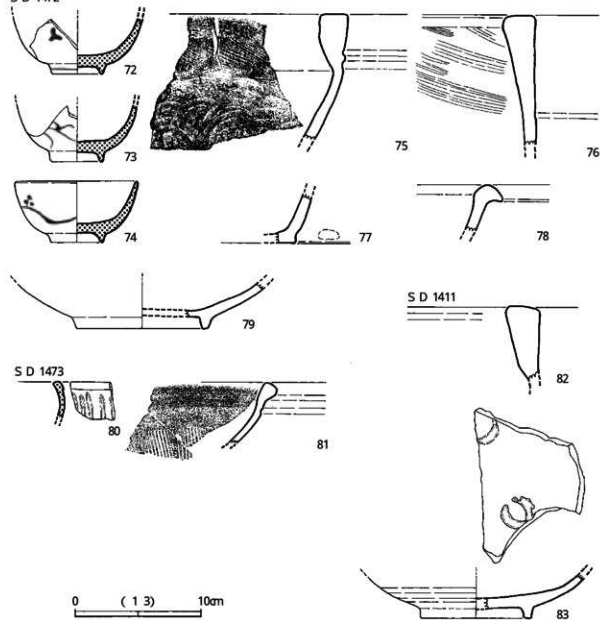


第 33 図 墓出土遺物実測図

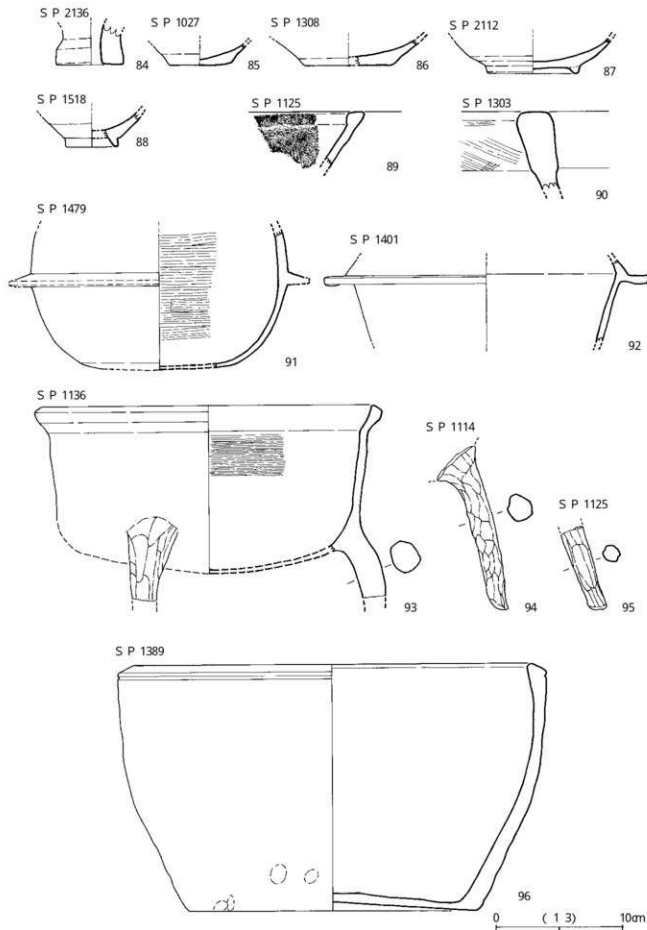
臺付を含めて高台内外面まで釉が掛かる。龍泉窯系で、14世紀後半から15世紀前半の時期に比定される。64は瓦質土器擂鉢。オロシメ10條単位で放射状に間隔を置いて刻まれている。以上3点とも中世の遺物。65-71はS E 140出土。69は磁器碗で、草花文様が描かれている。66は陶器の裏。67は土師器の鉢の口縁部。68はオロシメ部は欠損しているが、器形から陶器の擂鉢口縁部と見られる。69は陶器擂鉢の底部。オロシメ単位は不明であるが、放射状に重ねて刻まれている。70は土師器大甕の底部。71は瓦質土器火鉢。口縁部下端と頸部の間に花文のスタンプ文様が巡らされている。以上7点は、近世の遺物。

(6) 溝状遺構出土遺物(第35図、図版21)

72-79はS D 1472出土の近世の遺物。72-74は磁器の染付碗。75・76は土師器の大甕口縁部。79は口縁部外面に2条の沈線が巡らされている。口縁部内面端にハケメ痕、下端から体部にかけて当て具の同心円タタキメ痕が残る。77は大甕の底部。78は瓦質土器の鉢の口縁部破片。79は陶器の鉢。浅S D 1472



第35図 溝状遺構出土遺物実測図



第36図 柱穴出土遺物実測図

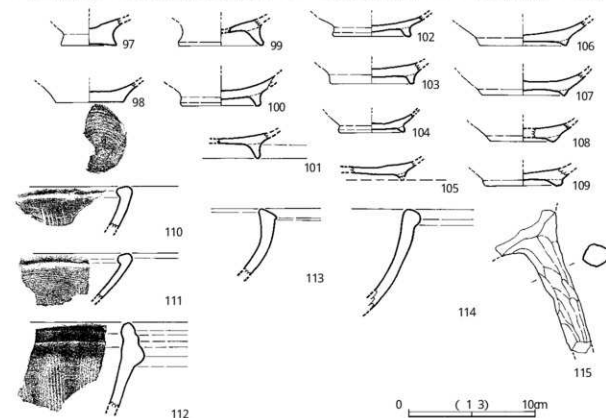
黄色の釉が内面と高台を除く外面に掛かる。80-81はS D 147出土土遺物。80は輸入青磁の碗。外面にヘラ先による細線の線描蓮弁文を持つ。81は陶器の擂鉢。8条単位のオロシメが刻まれている。82-83はS D 141出土の近世遺物。82は土師器の大椀口縁部。83は陶器皿。見込みに胎土目痕が残る。器面は灰色を呈し、透明釉が掛かる。

(7) 柱穴出土遺物 (第36図、図版22)

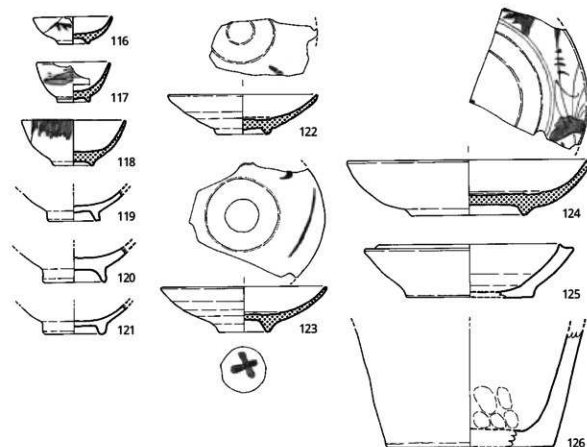
84は土師器の有孔台付皿。85は土師器皿。内黒にいぶしてある。87は低い貼り付け高台を持つ土師器の椀。88は陶器碗。外面下部以外は、全面に藁灰釉が施釉されている。削り出し高台。89は瓦質土器擂鉢。オロシメ単位は不明。90は土師器大椀の口縁部破片。91は土師器茶釜。内面には横方向のハケメ痕が明瞭に残る。底部外面にスス付着。92は土師器茶釜。胴から下部にはススが付着している。93は瓦質土器の足鍋。口縁部は「く」の字状に外反し、端部は内曲せず終わる。94-95は瓦質土器の足鍋脚部。先端部は獣脚状に外反する。96は土師器鉢。底面は中心に向けてやや上げ底ぎみになる。

(8) 遺物包含層出土遺物 (第37-40図、図版23)

1 B 地区南側遺物包含層出土遺物 (第37-38図、図版23) 97-119は中世の遺物。97は土師器の台付皿。98は土師器皿。底部に回転糸切り痕が残る。99-109は土師器の椀で、貼り付け高台。99は高台が高く外側に張り出す。100-101は99に比べて高台がやや低く、102-109はさらに低くなっている。103-109は内黒にいぶしてある。106-109は高台が一層簡略化し、逆三角形を呈する。110-111は瓦質土器の擂鉢。それぞれオロシメ単位は6条と不明。112は陶器擂鉢。オロシメ単位は9条。113-114は土師器鉢。115は瓦質土器の足鍋脚部。116-128は近世の遺物。116-118は染付磁器。119は染

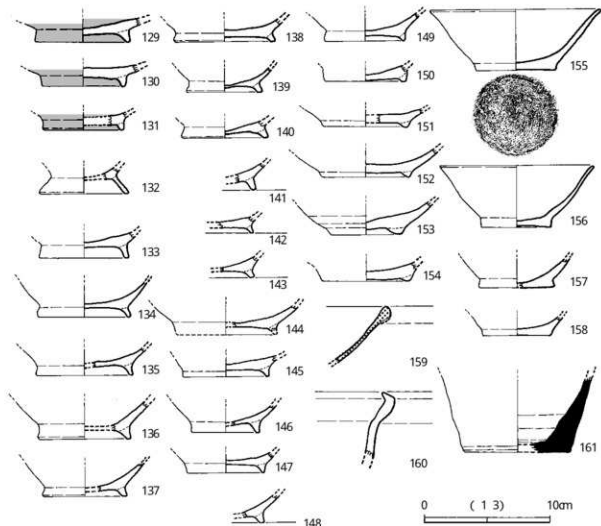


第37図 1 B 地区南側遺物包含層出土遺物実測図

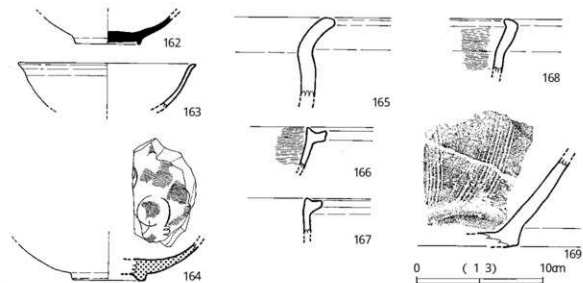


第38図 1 B 地区南側遺物包含層出土遺物実測図

付磁器の小皿。117は染付磁器の小杯。118は染付磁器の碗。119-121は陶器の碗。122-124は磁器皿。見込みに蛇の目輪剥き痕がある。122の高台内は露胎。123の高台内には「」印の墨書がある。124は内側面に呉須で草花文様が描かれている。125は瓦質土器の鉢。口縁部内端にわずかにつまみ出して整形した痕跡状の張り出しがある。126は陶器壺の底部。127は陶器茶釜。鉶から上外面にオリブ灰色の釉が掛かる。128は陶器搥鉢。オロシメ19条単位で、左回転方向に重ねて刺まっている。2C地区南側遺物包含層出土遺物(第39図、図版24) 129-13は緑釉陶器の碗。貼り付け高台。129は灰黄色の緻密な生地に黄緑の釉が掛かり、貫入が見られる。高台はやや外開きぎみである。130は灰白色の緻密な生地に淡緑の釉が掛かる。内面に施軸八ヶ痕が明瞭に残る。131は灰白色の緻密な生地に緑の釉が掛かる。132-154は土師器の碗。いずれも貼り付け高台。132は高台がハの字状に高く外側に広がる。133-137は高台が比較的高く、外側に開く。138-143は高台が前タイプに比べてやや低くハの字状に開き、接地面がコの字状をなす。138・142は高台内に回転系切り痕が残る。138・141・142・144は内黒にいぶす。144-148は高台外面が外に開かず、ほぼまっすぐに立つタイプ。149-154はさらに高台部が簡略化し、低くなり断面逆三角形に近くなったタイプ。155-157はベタ高台の土師器碗。158は底部回転系切り痕が見られる。158は土師器杯。159は玉縁状口縁の輸入白磁碗。160は瓦質土器の鍋。161は焼き上げりのあまい須恵器の壺底部と見られる。



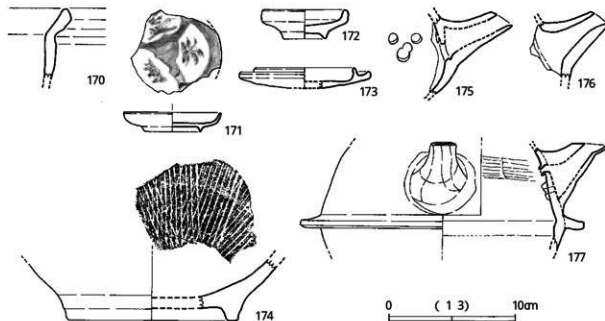
第39図 2C地区南側遺物包含層出土遺物実測図



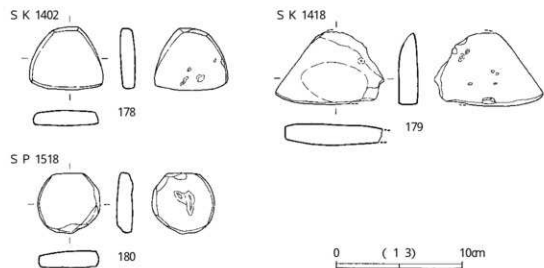
第40図 2A地区第1面掘り下げ層出土遺物実測図

2A地区第1面掘り下げ層出土遺物(第40図、図版25) 162は須恵器の杯身。163は土師器碗。器壁が薄く、口縁部はゆるく外反する。164は輸入青磁碗。内面見込みに柳描文様と片切彫り文様が刺まれている。165は土師器の甕。胎土はやや粗い砂粒を多く含む。166・167は瓦質土器の羽釜。168は瓦質土器の鍋。169は瓦質土器の搥鉢。オロシメ8条単位。間隔を置いて放射状に刺まっている。(9)表面採集遺物(第4図、図版25)

170は瓦質土器の碗。171は染付磁器の皿。内面に呉須で自然風景が描かれている。172は陶器の皿。173は土師器の灯明皿。174は陶器の搥鉢。オロシメが13条単位で左方向に重ねて刺まっている。175は瓦質土器の土瓶注口。176は土師器の土瓶注口。177は土師器の土瓶で、胴部に鉶が巡る。注口部と鉶は貼り付け。注口内部に3個の穿孔がある。鉶より下部にススが付着している。



第41図 表面採集遺物実測図



第42図 土製品実測図

2 土製品 (第42図、図版25)

178～180は土器・瓦などの再加工土製品である。178は側面を研磨してある。179は瓦片の側面を研磨により、2次加工してある。180は土器片と見られるものの側面を研磨し、円盤状に加工してある。178はS K 1402(埋葬遺構)の埋裏内部(18)、179はS K 1418(埋葬遺構)の埋裏内部(9)、180はS P 1518からの出土で、出土状況から廃絶儀礼に伴う祭祀用具であった可能性が推察される。

3 石製品 (第43図、図版26)

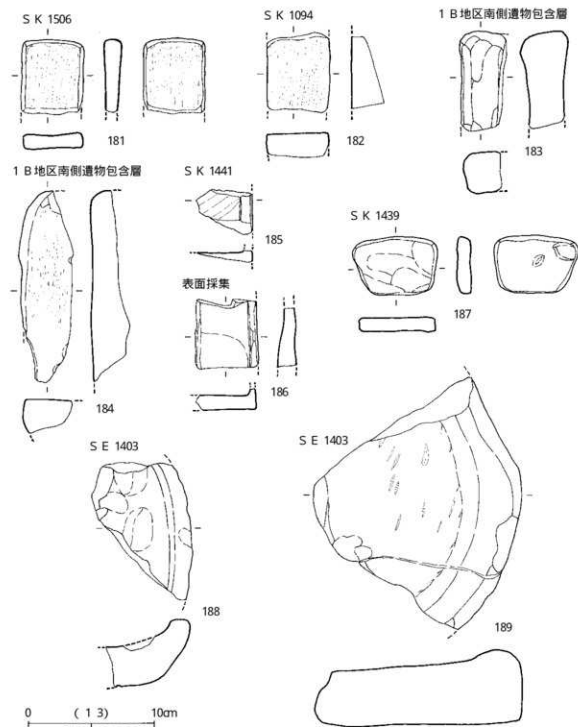
181は砂岩製の荒砥石。182は凝灰岩製の仕上げ砥石。183は泥岩製の中砥石。184は泥岩製の仕上げ砥石。185・186は長門産の赤間硯である。187は泥岩の側面を研磨して扁平な形の石製加工品としてある。S K 1439(埋葬遺構)からの出土で、178～180と同様に廃絶儀礼などの祭祀に伴う品である可能性が考えられる。188・189は砂岩製の石臼である。188は茶臼の下臼で、受皿部の破片である。189は挽臼の上臼である。よく使い込まれて磨耗しているため、下面に摺目溝の痕跡はなく平滑な表面になっている。側面の一部に研磨された痕跡が認められ、臼としての使用を終えた後、砥石に転用されたことが推定される。ともにS E 1403から出土した。打ち欠かれた状態で、井戸内に投棄されたものと見られ、井戸にかかわる祭祀行為に伴う遺物と考えられる。

4 金属製品(銭貨)(第44図、図版26)

190・192は新寛永通寶。191は古寛永通寶。

5 木製品(第45図、図版26)

193～198はS K 1506出土遺物。193～197は曲物の円形底板を構成するものと見られる。194は3枚の板をつなぎ合わせるための連結穴が3個あり、それぞれに木芯が残っている。195は3枚の板をつなぎあわせて円形の板にしてある。連結穴が2個あり、1個には木芯が残る。197には連結穴が1個あり、木芯が残る。分析の結果、桐を材料として加工したものであることが判明している。198は柘植製の榑。199～200は同じく曲物の底板。



第43図 石製品実測図



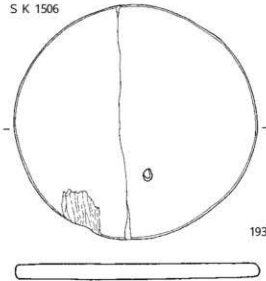
第44図 銭貨拓本

第4表 遺物観察一覽表

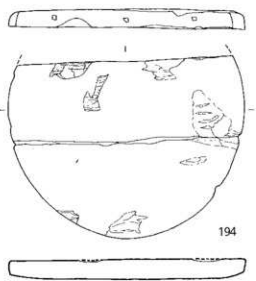
土器観察一覽表

番号	出土位置	遺物番号	種類	器種	器高	口径	器径	底径	底厚	胎土	施土	色澤		色調調整・備考
												内面	外面	
1	1 A	SP1066	土器	甕	14	14	14	14	0.6	硬	灰黄色	灰黄色	5B系構成する。内外面とも黒粘土。	
2	1 A	SP1063	陶器	碗	10	10	10	10	0.30	硬	淡黄色	淡黄色	5B系構成する。彫出し高さ。生地に淡い褐色。黒灰粘。	
3	1 A	SP1112	土器	甕	14	14	14	14	0.7	中軟	褐色	褐色	5B系構成する。内外面とも黒粘土。	
4	1 A	SP1112	土器	鉢	10.4	10.4	10.4	10.4	1.6	硬	淡黄色	淡黄色	5B系構成する。内外面とも黒粘土。	
5	1 A	SP1088	陶器	碗	10	10	10	10	0.6	硬	灰黄色	灰黄色	5B系構成する。口縁部の内、生地は灰白色。	
6	1 A	SP1075	土器	鉢	10	10	10	10	2.2	硬	灰白色	灰白色	5B系構成する。内外面とも黒粘土。	
7	1 A	SP1075	土器	鉢	10	10	10	10	2.2	硬	灰白色	灰白色	5B系構成する。底面八ヶ。外周部押さえ縁のちぎれ。底面部分タタキ。下部に膠状欠損の痕跡あり。外側入付着。	
8	1 A	SP1075	土器	足鉢	24.6	24.6	24.6	24.6	2.0	硬	灰黄色	灰黄色	5B系構成する。内面八ヶのちぎれ。外周部押さえ縁。外側入付着。	
9	1 B	SK1418	土器	大甕	68.4	68.4	68.4	68.4	5.6	硬	灰黄色	灰黄色	内面タタキのちぎれ。外面ナシ。下部に膠状押さえ縁あり。	
10	1 B	SK1402	瓦器	大甕	72.0	72.0	72.0	72.0	6.2	硬	灰黄色	灰黄色	内面ナシ。外周部押さえ縁のちぎれ。	
11	1 B	SK1420	土器	大甕	77.2	77.2	77.2	77.2	6.6	硬	淡黄色	淡黄色	内外面ともタタキのちぎれ。口縁部ナシ。下部に膠状押さえ縁あり。	
12	1 B	SK1444	陶器	大甕	75.2	75.2	75.2	75.2	6.6	硬	暗褐色	暗褐色	内面ナシ。上部に膠状押さえ縁あり。外側入付着。	
13	1 A	SK1301	土器	大甕	66.4	66.4	66.4	66.4	7.2	中軟	灰白色	灰白色	内面タタキ。(下部のちぎれ)外周部下部押さえ縁。底は、タタキのちぎれ。口縁部彫り付け。	
14	1 B	SK1426	土器	大甕	67.6	67.6	67.6	67.6	20.5	硬	灰黄色	灰黄色	内面底部タタキのちぎれ。底部器具痕。外周部底部器具痕。底部付近部押さえ縁。底部ナシ。粘土層粘着あり。	
15	1 A	SK1310	瓦器	土甕	73.2	73.2	73.2	73.2	6.0	硬	灰黄色	灰黄色	内面ナシ。底部器具痕。接合のための指押さえ縁あり。	
16	1 A	SK1306	瓦器	大甕	75.0	75.0	75.0	75.0	2.3	硬	灰黄色	灰白色	内面ナシ。外周部上部に膠状押さえ縁あり。底部に粘土層粘着あり。	
17	1 B	SK1326	瓦器	大甕	61.8	61.8	61.8	61.8	2.6	硬	灰黄色	灰黄色	内外面ともタタキ。	
18	1 B	SK1402	土器	大甕	44.0	44.0	44.0	44.0	2.7	中軟	淡黄色	淡黄色	内面ナシ。タタキのちぎれ。外周部上部に膠状押さえ縁あり。	
19	1 A	SK1300	瓦器	大甕	19.2	19.2	19.2	19.2	1.5	中軟	灰黄色	灰黄色	内周部押さえ縁のちぎれ。タタキ調整。	
20	1 B	SK1425	瓦器	土甕	49.0	49.0	49.0	49.0	4.9	硬	灰白色	灰黄色	内面八ヶのみ。底部付近部押さえ縁。	
21	1 A	SK1289	瓦器	土甕	58.0	58.0	58.0	58.0	5.8	硬	灰黄色	灰黄色	内面八ヶ。	
22	1 B	SK1424	瓦器	土甕	37.0	37.0	37.0	37.0	3.7	中軟	灰白色	灰白色	内面タタキ。外周部下部押さえ縁のちぎれ。	
23	1 B	SK1536	土器	大甕	45.0	45.0	45.0	45.0	4.5	硬	淡黄色	淡黄色	内面ナシ。	
24	1 B	SK1426	陶器	甕	11.6	11.6	11.6	11.6	1.1	硬	白色	白色	口縁部のみ。褐色の粘りがかる。	
25	1 B	SK1426	陶器	甕	11.6	11.6	11.6	11.6	1.1	硬	灰白色	灰白色	口縁部のみ。灰白色の長筒。	
26	1 A	SK1301	陶器	碗	11.1	11.1	11.1	11.1	1.1	硬	灰白色	灰白色	口縁部のみ。オリイ灰白色の長筒。	
27	1 A	SK1301	陶器	碗	11.9	11.9	11.9	11.9	1.1	硬	灰白色	灰白色	生地は、灰白色。透明粘。	
28	1 A	SK1306	土器	大甕	11.2	11.2	11.2	11.2	1.1	中軟	灰白色	灰白色	内外面ともナシ。	
29	1 B	SK1530	陶器	碗	3.0	3.0	3.0	3.0	1.7	硬	灰白色	灰白色	底部付近に一部に粘りがかる。	
30	1 B	SK1530	土器	鉢	15.6	15.6	15.6	15.6	4.2	硬	黄褐色	黄褐色	内外面ともナシ。	
31	1 B	SK1530	土器	鉢	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	中軟	灰白色	灰白色	内外面ともナシ。	
32	1 B	SK1530	陶器	土甕	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	硬	暗褐色	暗褐色	口縁部とその内縁部。ともに彫り付け。内外面に粘着。	
33	1 B	SK1444	陶器	土甕	9.4	9.4	9.4	9.4	3.9	硬	灰白色	灰白色	緑灰色粘りが、内面一部にかる。	
34	1 B	SK1444	陶器	土甕	14.2	14.2	14.2	14.2	1.1	硬	白色	白色	焼き跡が見える。暗褐色の長筒で、草花模様を描く。	
35	1 B	SK1444	陶器	土甕	12.6	12.6	12.6	12.6	7.9	硬	灰黄色	灰黄色	オリイ灰白色の長筒。	
36	1 B	SK1444	陶器	鉢	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	中軟	白色	白色	彫り付け残り。底部器具痕。	
37	1 B	SK1441	土器	大甕	7.8	7.8	7.8	7.8	0.8	硬	灰白色	灰黄色	口縁部のみ。内面八ヶ。外面ナシ。	
38	1 B	SK1402	土器	大甕	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	硬	灰白色	灰白色	口縁部のみ。暗褐色の長筒。	
39	1 B	SK1402	土器	大甕	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	中軟	灰黄色	灰黄色	口縁部のみ。暗褐色の長筒。	
40	1 B	SK1402	土器	大甕	36.0	36.0	36.0	36.0	23.4	硬	黒色	黒色	内外面ともナシ。	
41	1 B	SK1402	土器	鉢	14.9	14.9	14.9	14.9	0.9	中軟	褐色	褐色	内外面ともナシ。外周部付近。押さえ縁。	
42	1 B	SK1402	瓦器	燈砂	23.2	23.2	23.2	23.2	15.0	中軟	黒色	黒色	上部に穿孔。内、外周ともナシ。	
43	1 B	SK1402	瓦器	火鉢	7	7	7	7	4.5	軟	黒色	黒色	下部に穿孔。内、外周ともナシ。	
44	1 B	SK1402	瓦器	火鉢	21.0	21.0	21.0	21.0	7.8	硬	黒色	黒色	内面八ヶ。外面ナシ。外周部に彫刻文。	
45	1 B	SK1402	瓦器	火鉢	14.4	14.4	14.4	14.4	7.5	硬	黒色	黒色	内面ナシ。外周部刻文。	
46	1 B	SK1470	陶器	鉢	12.2	12.2	12.2	12.2	1.2	硬	暗褐色	暗褐色	暗褐色の粘着あり。	
47	1 B	SK1470	陶器	鉢	12.2	12.2	12.2	12.2	1.2	硬	赤灰色	赤灰色	口縁部のみ。内外面ともナシ。	
48	1 B	SK1470	土器	大甕	13.1	13.1	13.1	13.1	3.1	中軟	灰黄色	灰黄色	内面八ヶ。外面ナシ。	
49	1 B	SK1419	陶器	鉢	13.9	13.9	13.9	13.9	3.9	硬	褐色	灰赤色	内面ナシ。8番単位。左即転方向に重ねて刻む。外面ナシ。	
50	1 A	SK1298	土器	大甕	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	中軟	淡黄色	淡黄色	口縁部のみ。内面ナシ。	
51	1 A	SK1302	瓦器	土甕	20.7	20.7	20.7	20.7	2.0	中軟	灰黄色	灰黄色	内面八ヶ。外面ナシ。	
52	1 A	SK1310	陶器	碗	4.2	4.2	4.2	4.2	3.6	硬	灰白色	灰白色	灰赤色に、彫り部粘着。黄灰色の長筒。	
53	1 A	SK1310	陶器	碗	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	硬	灰白色	灰白色	口縁部のみ。暗褐色。	
54	1 A	SK1310	瓦器	大甕	15.1	15.1	15.1	15.1	0.9	中軟	暗褐色	暗褐色	口縁部のみ。内外面ともナシ。	
55	1 A	SK1310	土器	大甕	10.6	10.6	10.6	10.6	0.9	中軟	淡黄色	淡黄色	口縁部のみ。内面タタキ。八ヶ。外面ナシ。	
56	1 B	SK1386	陶器	碗	8.6	8.6	8.6	8.6	3.6	硬	灰白色	灰白色	内外面ともナシ。	
57	1 B	SK1392	陶器	灯明籠	9.4	9.4	9.4	9.4	1.6	硬	暗褐色	暗褐色	内外面とも黒粘土。粘りがかる。	
58	1 B	SK1531	陶器	鉢	32.3	32.3	32.3	32.3	4.3	硬	赤褐色	赤褐色	内外面とも黒粘土。粘りがかる。	
59	1 B	SK1626	土器	燈砂	44.4	44.4	44.4	44.4	22.6	中軟	暗褐色	暗褐色	内面ナシ。内周部が焼成を受け変色。外周部入付着。	
60	1 B	SK1626	土器	風船壺	40.7	40.7	40.7	40.7	7.1	硬	暗褐色	暗褐色	底部付近に八ヶのちぎれ。その他ナシ。黒8色の外縁3.0。口径24cm。	

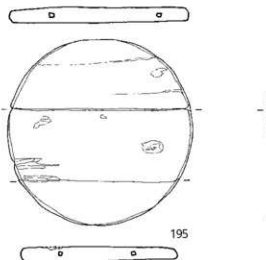
S K 1506



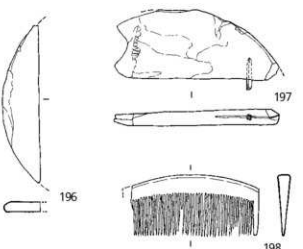
193



194

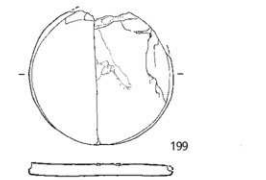


195

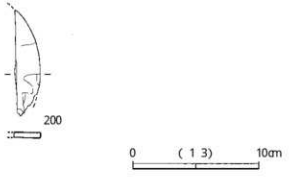


196

1 B 地区南側遺物包含層



199



200

0 (1 3) 10cm

第4図 木製品実測図

土製品観察一覧表

番号	出土地区	遺構番号	種類	法量 (cm)			胎土		焼成	色調	備考
				長さ	幅	厚さ	粗密	砂粒			
178	1 B	SK 1402	祭祀用具	59	49	12	粗	含砂粒多	硬質	灰白色	上面・下面・側面研磨。
179	1 B	SK 1418	祭祀用具	残 86	残 57	17	粗	含砂粒多	硬質	灰白色	上面・側面研磨。
180	1 B	SP 1518	祭祀用具	49	47	14	粗	含砂粒多	硬質	灰白色	上面・下面・側面研磨。

石製品観察一覧表

番号	出土地区	遺構番号	種類	石材	法量 (cm)			色調	備考
					長さ	幅	厚さ		
181	1 B	SK 1506	礫石	砂岩	59	49	10	灰白色	磨礫石。上面・下面・側面研磨。
182	1 B	SK 1094	礫石	凝灰岩	58	50	20	灰白色	仕上げ礫石。上面研磨。
183	1 B	遺物包含層	礫石	泥岩	78	32	31	灰白色	中礫石。側面研磨。
184	1 B	遺物包含層	礫石	泥岩	152	40	22	灰白色	仕上げ礫石。上面研磨。
185	1 B	SK 1441	礫	泥岩	残 43	残 30	09	灰褐色	赤間硯。
186	1	表面採集	礫	泥岩	残 54	残 49	16	灰褐色	赤間硯。
187	1 B	SK 1439	祭祀用具	泥岩	67	46	12	灰白色	上面・側面研磨。
188	1 B	SE 1403	石臼	砂岩	残 100	残 70	32	灰白色	茶臼の下白身部分。
189	1 B	SE 1403	石臼	砂岩	残 194	残 165	59	灰白色	残臼の上臼部。側面の一部研磨。

金属製品（銅銭）観察一覧表

番号	出土地区	銭類	法量 (cm)		備考
			直径	孔径	
190	2 A地区裏1番部17付層	新貨朱	2.3	0.7	
191	表面採集	古貨朱	2.4	0.5	
192	表面採集	新貨朱	2.4	0.6	

木製品観察一覧表

番号	出土地区	遺構番号	種類	法量 (cm)				備考
				直径	長さ	幅	厚さ	
193	1 B	SK 1506	虫物の底板	186	19.3	18.7	1.3	連結穴が、3個あり。それぞれに木芯残存。
194	1 B	SK 1506	虫物の底板	147			1.6	連結穴が、2個あり。1個には木芯残存。
195	1 B	SK 1506	虫物の底板				1.2	
196	1 B	SK 1506	虫物の底板	残 126	残 29	0.8		連結穴が、1個あり。木芯残存。材質は半リ。
197	1 B	SK 1506	虫物の底板	残 131	残 55	1.2		黒褐色。材質はツグガ。
198	1 B	SK 1506	榧	115	残 10.2	4.9	1.0	
199	1 B	遺物包含層	虫物の底板				0.9	
200	1 B	遺物包含層	虫物の底板	残 81	残 21	0.4		

ま と め

1 調査成果の概要

東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)の発掘調査の結果、低地部(2地区)では、古代(平安時代後期)から中世(鎌倉時代)にかけての集落が営まれ、丘陵先端部(1地区)では、中世(室町時代)から近世(江戸時代)にかけての集落が構成されていたことが明らかになった。

検出された主な遺構は、掘立柱建物跡2棟、埋瓦遺構15基(埋瓦抜き穴1基を含めると合わせて34基)、土坑4基、墓1基、井戸2基、溝状遺構6条、柱穴約700個、粘土採掘坑5基である。特に、近世の埋瓦遺構は、県内の集落遺跡の中では有数の出土数となり、この遺跡を特徴づけるものとなった。出土した主な遺物としては、土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦質土器・輸入磁器・国産陶磁器、土製品、石製品、金属製品(銭貨)、木製品などがある。緑釉陶器は、近隣の周防銭司跡とのかかわりの点で興味深い資料である。

2 遺構について

(1) 掘立柱建物跡

2棟の掘立柱建物跡が確認された。標高約90~95mの丘陵先端部の1地区に19棟と多く、標高約85mの低地部の1地区では3棟である。建物の棟方向は、北東方向タイプ・北西方向タイプ・東西方向タイプの3種類がある。規模は1間1間が5棟、2間1間が8棟、2間2間が4棟、3間1間が2棟、3間2間が2棟、3間3間が1棟であり、比較的小規模な建物が多い。柱穴からは時期決定の根拠となる出土遺物が少ないため、建物の時期を判断できるものは限られるが、棟方向の比較や溝状遺構との位置関係、集落での立地などを総合して建物の時期を推定した(第1表)。

時期決定の上で注目される遺構として、1B地区中央北側に位置するS B 18、S D 1473、S D 1411、埋瓦遺構(S K 1422・1424・1425・1453)という4種類の遺構の切り合い関係がある。棟方向北東タイプS B 18とS D 1473は位置的に重なり合っているため、異なる時期の遺構である。また、S D 1473はS D 1411や埋瓦遺構S K 1425・1424・1453などの近世遺構によって切られており、それより古い中世一近世初期の遺構である。なお、S D 1411はS B 18の棟方向に沿って流れ、東側の一部に石積列が組まれており、同じ近世期の可能性が高い。また、1A地区北東隅に位置する棟方向北西タイプのS B 12・13・14は一定時期中の建て替えと見られ、その南側を流れるS D 1473と関連する時期のものとも考えられる。以上のように1地区では、中世ならびに近世の建物跡が確認された。

2地区では、S B 2が3間(77m)3間(69m)、床面積約54㎡で最大規模の建物である。出土遺物などから古代の建物と判断される。梁行方向の南側の柱間距離は308m、228m、240mで、南西隅からの柱間距離がやや長い。このため、3間2間の主屋に庇が付く構造の建物であることも想定される。S B 20・21・22はいずれも棟方向が北東方向で、同時期または近い時期の建物と見られる。

(2) 溝状遺構

主な溝状遺構としては、東西方向に流れるS D 1473とS D 1472、南北方向に流れるS D 1411がある。S D 1473は1地区の丘陵の傾斜転換点あたりに沿うように東から西に流れており、S D 1473の北側に建物が立地していたと想定される。S D 1411は丘陵の傾斜に沿って北から南に流れ、S D 1472は東

西方向に流れる。共に近世の溝であり、調査区北側で合流している可能性もある。現在の集落は、さらに北側の標高がやや高い丘陵部に等高線に沿うように立地しており、近世の建物も同様に溝の北側を中心に位置していたことが予想される。このように、溝は建物を区画するように流れていた模様である。

(3) 井戸

1地区で、S E 1186(中世)とS E 1403(近世)の2基の井戸が検出された。標高約9～9.5mの丘陵突端部の1地区に位置し、隣接する建物跡に伴うものと考えられる。いずれも素掘りの井戸である。山口県内の井戸については、素掘り井戸、木組井戸、石組井戸、その他(曲物、瓦、桶、陶器などの井戸側材使用)の種類が検出されている。このうち、西隣の東禅寺・黒山遺跡(南若川河川修築に伴う調査)では素掘り井戸が多いのに対して、下右田遺跡(防府市)では石組井戸が主体を占める傾向がある。本遺跡は素掘り井戸が主体を占めるタイプである。この原因として、遺跡周辺地域は井戸側壁が崩落しにくい地盤であること、地下水位が高く比較的浅くても良いため井戸側を石組で補強しなくてもよいこと、石組井戸より掘削の労力や経済的負担がより少ない素掘りが選択されたことなどが考えられる。下右田遺跡との比較では、集落間の経済力の違いが井戸形態の採用に反映されているのかどうか、住居規模・出土遺物の内容などの視点から検討することも必要と考えられる。

(4) 足鍋・茶釜の埋納遺構

S P 107から、石塊と共に埋置された瓦質土器の鍋(7)足鍋(8)が出土した。S P 107は、S B 5を構成する北西隅の柱穴であり、建物の地鎮祭や廃絶儀式に伴うものである可能性がある。S P 1136では、木質が残存し、木箱状のものに足鍋(93)が収納されていたものと見られる。S P 1479には半分に断ち割った土師器の茶釜(91)が埋置されていた。土師器の椀・杯・皿などを柱穴に埋納する儀礼の事例は各地の遺跡で数多く確認されているが、鍋・茶釜を埋納した事例は比較的数少ない。近隣の遺跡では、原遺跡(防府市)のS P 301Q 赤迫遺跡(C地区)(阿知須町)のS P 241C 瓦質土器の足鍋が埋置されていた。注目される事例として下右田遺跡(第20次発掘調査)のS X 1200では、柱穴に石で固定した足鍋が据え置かれ、中に和紙に包んだ和紙が初級と共に納められていた。地鎮などの祭祀目的が想定されている。このように、土師器の椀・杯・皿のほかに、中世の瓦質土器の鍋・足鍋・茶釜を使用した祭祀に伴うと見られる埋納遺構の例が増えつつあり、今後さらに、その事例の増加と出土状況・相伴遺物の検討を待って、習俗の内容と意義について考察していく必要がある。

(5) 粘土探掘坑

2地区の低地部で、焼物や瓦などの原材料用の粘土探掘が行われたと見られる大きな堀り穴が見つかった。平面形は不整形のものが多く、長さや幅が10mを超え、深さ1m以上の大きな規模の掘り込みもある。淡い青灰色のきめ細かい良質粘土を採取した形跡が認められ、後世の耕地化の際に埋められたものである。近隣の防府市台道の原遺跡では、室町時代の瓦質土器生産のための粘土探掘坑とみられる小規模な土坑が検出されており、中世以来、周辺地域が良質の粘土供給地であったことが確認されている。近世末期～近代には、近隣では佐野焼(防府市)や瓦窯などがあり、原材料として採掘されたことも考えられる。埋土中に時期を判断できるような遺物が認められないため、探掘坑の明確な時期決定には至らないが、周辺の聞き取りによると昭和期頃まで、近隣で粘土の探掘が行われており、比較的新しい時期の遺構である可能性もある。

3 遺物について

(1) 土師器

土師器は、時期比定の遺物資料として、椀や杯が出土している。遺構に伴うものは少ない。まとまった資料として、2C地区南側遺物包含層と1B地区南側遺物包含層出土の遺物がある。椀では全体の器形がわかる程度に残っている資料は少なく、高台部と底部周辺が残っている程度の破片資料が多くを占めているため、椀の高台部の形態的特徴を基に分類すると、次のような特徴を持つ。

- A 幅の狭い高台が高く、外向きに「八」の字状に開くもの(132)。
- B 断面四角形の高い高台が、やや外向きぎみに開くもの(99 133～137)。
- C Bより低い断面四角形の高台が、やや外向きぎみに開くもの(100～101 138～143)。
- D 高台がやや高く先端部が尖り、断面が逆二等辺三角形形状を呈するもの(102～105 144～148)。
- E 高台がやや低く、断面部が逆三角形形状を呈するもの(106～107 149～152)。
- F 高台がEよりもさらに低く退化して、痕跡的に残るもの(108～109 153～154)。

底部に回転糸切り痕を明瞭に観察できるものを含めて、糸切り後、高台を貼り付けて、高台内の糸切り痕をナデ消しているものが大部分である。時期的には、平安時代後期から鎌倉時代にあてられよう。また、内面をいぶして炭素を付着させたいわゆる内黒の土師器では、椀(103・105・138・141・142・144)、杯(86)が出土している。

(2) 緑釉陶器

緑釉陶器の椀底部破片3点(129・130・131)が、2C地区南側遺物包含層下層から出土している。同じ遺物包含層からは、上記の土師器椀・杯が相伴している。129は生地が灰黄色の緻密な胎土で、土師質の焼成である。黄緑色の釉が掛かり、貫入が見られる。高台は断面四角形でやや外開きである。130は生地が灰白色の緻密な胎土で、土師質の焼成である。鮮やかな淡緑色の釉が掛かる。内面にミガキ痕がある。釉調は長門産の特徴をもつ。高台は断面四角形でほぼ真直ぐに立つ。131は生地が灰白色の緻密な胎土で、土師質の焼成である。やや濃い緑色の釉が掛かる。断面四角形でほぼ真直ぐ立ち上る。いずれも貼り付け高台である。

遺跡の約750m西側に位置する周防銭鏡司跡や約7 km東側の周防国衙跡など隣接する官庁機関とのかわりをうかがわせる。緑釉陶器を出土した近隣の遺跡として周防銭鏡司跡、八ヶ坪遺跡、下系根遺跡、下北田遺跡、東禅寺・黒山遺跡(南若川河川修築に伴う調査) 上善川遺跡(以上、山口市)、周防国府跡、切畑南遺跡(以上、防府市)などがある。山口県内では緑釉陶器を生産した窯跡は、これまで見つかっていないが、東禅寺・黒山遺跡(南若川河川修築に伴う調査)では、緑釉陶器や三叉トチンなど窯道具が出土し、近隣に窯跡が存在する可能性が想定される。このように本遺跡出土の緑釉陶器も他の周辺遺跡での出土と同じように周防国府跡、周防銭鏡司跡に隣接するという立地条件を反映した性格がうかがわれる。高橋照彦編年などに従えば10世紀代に比定されるものと考えられる。

(3) その他

瓦質土器の鍋、足鍋、羽釜、鉢、鐺鉢など中世後半の室町時代の遺物が出土している。輸入磁器では、龍泉窯系の青磁碗(5・63・80・164)や玉緑状の口縁をもつ白磁碗(159)がある。国産陶磁器は、近世のものが大部分を占める。土師器・瓦質土器の大體については、次項で詳述する。

4 埋糞遺構について

(1) 東禅寺・黒山遺跡の埋糞遺構

掘り方は、基本的に大甕本体よりも大きく、平面形がほぼ円形を呈し、上部に対して基底部がすばまる椀形状の窪みを持つ例が多い。甕は口縁部を上にして、底部一体部下半は地中に埋め、体部上半は地上に露出させた状態で設置されていたものと推定される。これは、使用停止後に甕内部に体部上半を打ち砕いて投棄している出土状況や当時の推定地表面と甕の器高との差から判断される。

大甕の置き方は、甕の底部が掘り方のほぼ基底部に置かれる例が多いが、基底部よりもかなり高い位置に設置される例もある（SK 1420）。また、甕を安定させるために、埋め土のほかに土器・瓦・石などの充填物を掘り方との間に詰めているものもある（SK 1402）。甕の掘り方に切り合いの重なりが見られることから、破損などにより何度がにわたり埋め替えられたことが確認できる。

埋糞内からの共存遺物は少量ながら、陶磁器の破片など近世の遺物が出ている。石塊が投げ入れられている例もある（SK 1306・1402・1418）。なお、側面を研磨した板状の土製品（178・179）や石製品（187）が、廃棄された甕内から出土し、廃絶に伴う儀礼的意味をもつ祭祀用具ではないかと考えられる。

大甕の用途や内容物については、甕内の土壌分析の結果（付録参照）、明確な判断を下せる材料は得られなかった。ただし、便器・肥溜めなどの用途を想定させる物質や監視などの貯蔵を裏づける成分の高い比率は確認されず、それ以外の内容物が貯蔵されていた可能性が示唆されている。分析結果とあわせて、ア 甕内壁に特別な付着物が観察されないこと、イ 建物跡と時期的に異なる切り合い関係にある埋糞があること、ウ 埋糞を覆う明確な建物構造が確認されなかったこと、などから、本格的な家屋構造内に保存を要する内容物が貯蔵されていたわけではなく、外気に触れても構わない水などの液体や貯蔵物が、屋外に晒されたり蓋などをされた状態で貯蔵されていたのではないかと推定される。

(2) 山口県内の中世・近世の埋糞遺構

山口県内の中世・近世の埋糞遺構を集成した（第5表）。中一大型の甕が据え置かれたままの状態での出土した遺構と甕の底部破片等しか残っていないくも埋設されていたことが確認できる遺構を取り出した。既に甕が抜き取られた抜き穴の遺構は、その基数を備考欄に示した。

埋糞遺構は34遺跡で186基が確認されている（調査主体が異なり、調査地点が別の場合は別遺跡数として累計）。複数基確認されたのは24遺跡で全体の約3分の2、1基のみ確認されたのは10遺跡で全体の約3分の1となり、遺跡内で複数基が検出される傾向がある。特に高野遺跡（18）、良君城跡（13）、大内氏関連町並遺跡（第38次）（9）、東禅寺・黒山遺跡（東大円・上徳田地区）（15）、切畑南遺跡（7）、萩城跡（外堀地区）（63）などで数多くの埋糞遺構が確認されている。集落の敷面すべてまでとまて出土しており、建物や溝などとの関連がうかがわれる。萩城跡（外堀地区）では、町屋ごとに区画された屋敷地で検出されており、家ごとに便桶・貯水・貯蔵用の大甕として埋設されていたと見られる。調査面積の広さと検出された町屋数の多さが埋糞検出数の圧倒的多さに反映されている。

遺跡の種類は、集落跡が多くを占め、城下町の屋敷地・町屋、寺院、館跡などが少数を占める。県内での出土遺跡の地域的分布は、山口・防府など県央部にその中心があり、特に山口市域での出土例が多い。山口市域がひとつの消費中心地であったことをうかがわれる。港湾から離れ内陸に位置する山口の立地条件や大甕の運搬の困難さを考慮すると、近隣に生産地が想定され、防府市域の佐野

焼窯や堀越窯などが候補地として考えられよう。

時期については、発掘調査報告時点での所見に従っているが、現時点から見ると年代観が多少変わるものも一部に含まれている。中世の室町時代後期頃から類例が増え、近世の江戸時代に遺跡数・基数ともに最盛期を迎え、広く一般に埋糞が使用されたことがうかがわれる。

県内出土の埋糞の用途については、出土状況から明確に判明している例は少ない。他県の遺跡での事例や民俗例から、便器、肥料貯蔵容器（肥溜め）、貯水容器、醤油・油・藍ほかの染色原料など液体貯蔵容器、味噌・発酵品など長期保存食料品の貯蔵容器、穀物などの貯蔵容器、埋葬用の容器（甕棺）などが想定される。発掘調査で小屋・建物跡などの屋内施設が明確に検出された報告例が少なく、屋内にどのように埋置されていたのか、屋外に設置されていた場合にはどのように管理保全されていたのかなど十分に検証されていない点がある。

一方、複数基の埋糞を出土した遺跡で、2〜3基が列状に並び例（高野遺跡、切畑南遺跡、寺内遺跡）、萩城跡、今回調査の東禅寺・黒山遺跡など）や間隔を置いて半円形に並び例（良君城跡）がある。このように、1基での使用のみならず、複数基がセットで使用されたものがあり、農業活動用や世帯生活用のほかに、工房や貯蔵倉など製造に結びつく生産活動や商業活動にかかわる用途に使用された場合も想定される。また、平面プランが細長い長方形を呈する掘り方に、椀状の窪みが数基列状に並んで掘り込まれ、大甕が数基据え置かれていたことを推定させる遺構（土井ノ内、坂ノ上遺跡）がある。一条朝倉倉氏遺跡や根来寺坊院跡では、大甕の掘り方が列状や縦溝方向に整然と並び遺構があり、監視の染物工房や油などの貯蔵倉が想定されている。県内の遺構では、甕の内容物について不明であるものの、複数基を要する量の貯蔵物や仕分けした内容物が納められていたものと考えられる。

(3) 山口県内の中世・近世の埋糞型式分類および編年試案

埋糞の型式分類

今回集成した県内の中世・近世埋糞遺構から出土した大甕の中で、口縁部・体部・底部の全体器形が比較的良好に残り、出土状況が明確なものを基準資料として、型式分類ならびに編年試案を示した（第4図）。瓦質、土師質の在地系と見られるものを対象とし、一部に陶質のものも含まれている。

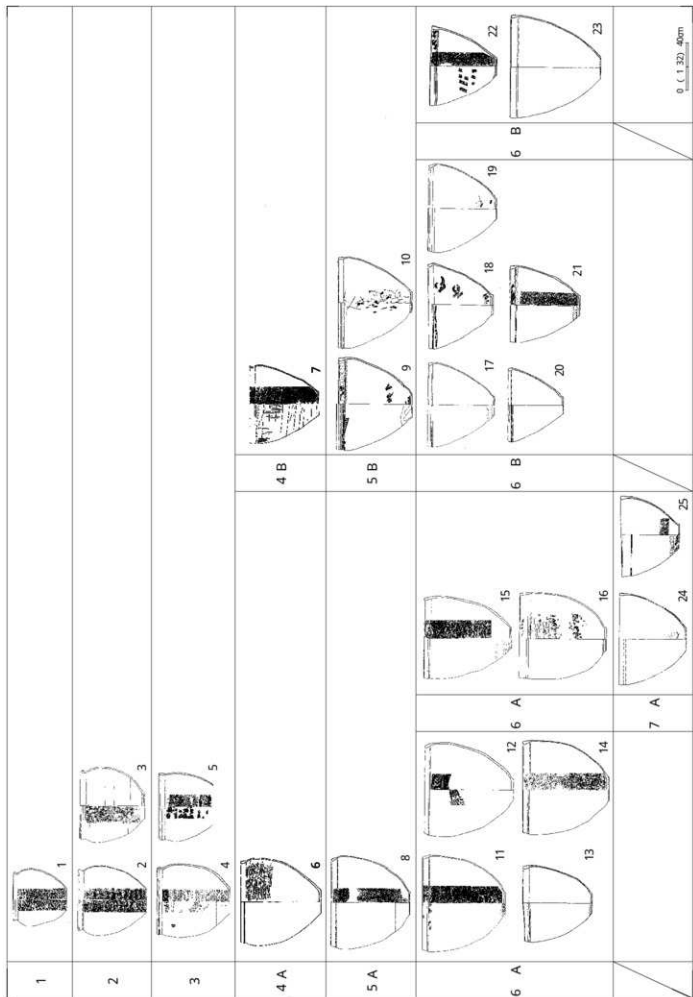
大甕について、各特徴を取り上げて分類すると次のようになる。

ア 全体的形態

- i 体部の立ち上がり Aタイプ 体部が底部から内湾みに曲線的に立ち上がるもの
Bタイプ 体部が底部から外開きに直線的に立ち上がるもの
- ii 器高と口径の比率 器高 口径 長胴で細長い形を呈するもの
器高 口径 短胴でずんぐりした形を呈するもの
- iii 容量 小型、中型、大型

イ 口縁部の形態（傾き具合、肥厚帯の形状、沈線の形状）

- 1 口縁部から体部にかけて頸部が内側にくびれ、口縁端部が外側に屈曲する型式
- 2 口縁部から体部にかけて頸部がくびれ、口縁端部がほぼ真っ直ぐに立ち上がる型式
- 3 肩部から頸部にかけてのくびれが弱まり、簡略化した肥厚突帯が巡る口縁端部がほぼ真っ直ぐに立ち上がる型式



第14図 山口県内の中世・近世の埴輪型式分類および編年試案

- 4 肩部に最大径があるが、頸部のくびれが弱く口径が大きくなり、口縁肥厚部が厚い型式
- 5 肩部が最大径で、頸部のくびれがなくなり沈線と口縁肥厚部が発達し、口径が大きい型式
- 6 沈線が巡る口縁肥厚部を最大径かつ転換点とし、内側に屈曲する型式
- 7 沈線が巡る口縁肥厚部が内側に屈曲せずほぼ真っ直ぐに立ち上がる型式
- 10 口縁肥厚部が簡略化して薄くなり、沈線の位置が口縁部端から下がりぎみで簡略化し、内側に屈曲せずほぼ真っ直ぐに立ち上がる型式

ウ 製作・調整技法

- i 全体成形 底板製作、体部の粘土帯積み上げ、口縁部肥厚部の貼り付け
- ii 外面調整 格子目タタキ、ハケ、ナデ、指押さえ履
- iii 内面調整 同心円文タタキ(当て具痕) ハケ、ナデ、指押さえ履

以上を基に、形態的特徴と変化が最もよく表れる「口縁部の形態」変化を型式分類の主属性とし、「全体の形態」を副属性として組み合わせ、「製作・調整技法」の特徴を加味して、基本的型式分類を行った。このうち、全体の形態については「体部の立ち上がり(A・Bタイプ)」の区分を分類上の優先属性として取り上げ、「器高と口径の比率」ならびに「容量」については、型式変化全体の時系列の中で、補助的に観察される変化の属性として取り扱った。

1型式	口縁部から体部にかけて頸部が内側にくびれ、口縁端部が外側に屈曲する。
2型式	口縁部から体部にかけて頸部がくびれ、口縁端部がほぼ真っ直ぐに立ち上がる。
3型式	肩部から頸部にかけてのくびれが弱まり、簡略化した肥厚部が巡る口縁端部がほぼ真っ直ぐに立ち上がる。
4A型式	肩部に最大径があるが、頸部のくびれが弱く口径が大きくなり、口縁肥厚部が厚い。体部が底部から内湾ぎみに曲線的に立ち上がる(A)。
4B型式	肩部に最大径があるが、頸部のくびれが弱く口径が大きくなり、口縁肥厚部が厚い。体部が底部から外開きに直線的に立ち上がる(B)。
5A型式	肩部が最大径で、頸部のくびれがなくなり沈線と口縁肥厚部が発達し、口径が大きい。体部が底部から内湾ぎみに曲線的に立ち上がる(A)。
5B型式	肩部が最大径で、頸部のくびれがなくなり沈線と口縁肥厚部が発達し、口径が大きい。体部が底部から外開きに直線的に立ち上がる(B)。
6A型式	沈線が巡る口縁肥厚部を最大径かつ転換点とし、内側に屈曲する。体部が底部から内湾ぎみに曲線的に立ち上がる(A)。
6A型式	沈線が巡る口縁肥厚部が内側に屈曲せずほぼ真っ直ぐに立ち上がる。
6B型式	沈線が巡る口縁肥厚部を最大径かつ転換点とし、内側に屈曲する。体部が底部から外開きに直線的に立ち上がる(B)。
6B型式	沈線が巡る口縁肥厚部が内側に屈曲せずほぼ真っ直ぐに立ち上がる。体部が底部から外開きに直線的に立ち上がる(B)。
7A型式	口縁肥厚部が簡略化して薄くなり、沈線の位置が口縁部端から下がりぎみで簡略化し、内側に屈曲せずほぼ真っ直ぐに立ち上がる。体部が底部から内湾ぎみに曲線的に立ち上がる(A)。

1～3型式の段階では、外面に格子目タタキが明瞭に残り、4型式以降の大甕では外面ナデ・ハケ調整により消されていると異なり、調整技法上での画期が認められる。室町時代の足鍋底部に残る格子目タタキと共通し、3型式以前は中世の特徴を持つ大甕といえよう。埴輪遺構の時期から見て基本的には、A・Bタイプは時期的に併存することから、3型式から4型式への変化の段階で、「体部の立ち上がり」の点でAとBの2タイプに分かれ、それぞれタイプの中で口縁部形態を中心とした

型式変化を遂げたものと考えられる。このうち口縁部の屈曲形態から、さらに、内側に屈曲する型式 屈曲せずほぼ真っ直ぐに立ち上がる型式 の2つに分けられる。

「口縁部の形態」変化は、口縁部から体部にかけて頸部の屈曲するくびれがある型式(1 2 3 4) 口縁部から体部にかけて頸部のくびれがなくなる型式(5) 沈線が巡る口縁部肥厚帯を転換点として内側に屈曲する型式(6)・口縁部肥厚帯が内側に屈曲せず真っ直ぐに立ち上がる型式(6、7) という流れをたどる。以上、型式変化の上では、ほぼ時系列的に1型式から7 A型式への変化をたどるものと考えられる。

「器高と口径の比率」に関しては、器高の増大は相対的に長胴化をもたらし、口径の増大は相対的に大皿化と短胴化傾向を促している。時期が下るにつれて、口径比率が増大し短胴化傾向が見られる。

「容量」については、1型式(1)の小型から次第に中型・大型化傾向がうかがわれ、盛行期の定量化した6型式(1ほか)で最大化傾向が見られ、最終段階の7型式(25)で再び小型化している。年代観

1〜3型式の岩淵遺跡(1・2) 原遺跡(4・5)の瓦質土器は、共存遺物や他の遺構から判断して室町時代後期(15〜16世紀)に比定されよう。外面に格子目タタキが残り、以降の型式では見られなくなる。4型式の周防国衛跡(6) 今宿西遺跡(7)は明確な時期決定の共存資料に乏しいが、型式変化の上では中世末から近世初頭の時期が与えられと考えられる。5型式の切畑南遺跡(8) 萩城跡(9)は頸部のくびれがなくなり、近世的埋裏の形態が確立した段階で、江戸時代前期の17世紀代〜18世紀初頭に比定されよう。6型式の東禅寺・黒山遺跡(11)は盛行期のもので、共存遺物等からも江戸時代中期の18世紀代を中心とする年代が与えられよう。7型式の萩城跡(25)は、最終遺構面(第1面)からの出土で、江戸時代後期19世紀前後の年代が想定される。

以上の年代観によれば、東禅寺・黒山遺跡出土の埋裏は、型式変化や裏内部から出土した近世陶磁器、他の遺構との切り合いの新旧関係などを合わせて判断すると、その多くが18〜19世紀の江戸時代中・後期に比定されるものと考えられる。

5 遺跡の歴史的変遷について

これまでの銚銭司地区周辺遺跡の発掘調査によると、古代には、周防銚銭司周辺の低地部に集落が広がり、中世には、西側の地区から東側の地区へと移っていき、近世には、低地部の耕地化に伴い、集落は低地部から丘陵部へと移っていく傾向が見られることが指摘されている。今回の調査でもこうした古代(平安時代後期)から中世(鎌倉時代)にかけての低地部(2地区)での集落立地から中世(室町時代)から近世(江戸時代)にかけての丘陵部(1地区)への集落移動の傾向が確認され、これまでのこの地域の発掘調査の成果を辿証することとなった。また、2地区南側遺物包含層からは緑釉陶器が出土しており、周防銚銭司跡の約750m東側に隣接するという立地条件から見て、その関連性も注目されることである。古代・中世には、遺跡南側の山陽本線や国道2号あたりに海岸線があったと考えられている。出土した植物遺体の同定結果(付録参照)からも暖温帯の海岸近くに生育する樹種が確認されており、南側は海に隣接する立地条件にあつたものと推定できる。

以上のように、東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)の調査を通じて、銚銭司地区における古代から中世を経て近世に至る断続的な集落の歴史的変遷と人々の生活の様子が明らかになった。

第5表 山口県内の中世・近世の埋裏遺構検出遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	数量	時期	遺跡の種類	備考
1	高野遺跡 (平成9年度)	豊浦郡豊浦町大字川瀬	17	17〜18世紀	集落	SK17010ほか
2	土井ノ内遺跡	豊浦郡菊川町大字上田部	5	17〜18世紀	集落	SK02-06 他に溝状土坑に抜き4基
3	坂ノ上遺跡	豊浦郡菊川町大字岡根	2	朝鮮〜江戸期	集落・墓地	隅丸長方形埋り方SK10内に2基
4	東門国府跡 (惣社地区)	下関市長府惣社町	2	17世紀後半〜18世紀	屋敷地	LX006-009 他に5基可能性あり
5	勝谷丸山古墳群 (第2次発掘調査)	下関市大字勝谷	1	近世か	古墳丘陵に立地	土坑1
6	神正遺跡(A地区)	吉敷郡阿知須町浜表	2	中世後期	集落	SK120・121
7	備家遺跡	吉敷郡阿知須町浜表	1	室町後期	館跡・集落	中国銭貯蔵
8	城山遺跡	山口市大字江崎	4	中世	城跡	
9	小路遺跡	山口市大字黒川	1	15〜18世紀	集落	土壇16
10	西遺跡	山口市大字黒田	2	室町	集落・墓地	F地区第1・2号土壇、常滑焼
11	山口大学吉田橋内遺跡 (昭和60・62年度)	山口市大字吉野	5	近世	集落・墓地	Dトレンチ第4・5土壇(60年度) 第1〜3号埋裏(62年度)
12	原敷遺跡	山口市大字宮野下	2	近世	集落・墓地	SK3ほか
13	常楽寺	山口市大字宮野下	3	近世	寺院	埋裏1・2・3、他に石垣前面に裏3基
14	釜山遺跡	山口市大字仁保下郷	3	室町	集落	SK6・7・9
15	良君城跡	山口市大字大内矢田	13	近世	集落	SK22ほか16が半円形に並ぶ
16	良禰寺・御塩遺跡	山口市大字大内御塩	2	18世紀	寺院	埋裏遺構1・2
17	大内氏館跡 (第13・14次調査)	山口市大字大内大路	4	近世以降	館跡	1基(第13次) 1〜3号埋裏(第14次)
18	大内氏開運町並遺跡 (第1次調査、野村香雄誌)	山口市大字下野小路	1	18世紀〜近世	屋敷地	南区出土の埋裏(図版38)
19	大内氏開運町並遺跡 (第3次発掘調査)	山口市大字後河原	9	近世	町屋	SK9・12ほか
20	寺内遺跡	山口市大字下小橋	3	江戸後期	寺院関連	1・2・3埋裏が隣接
21	轟田遺跡	山口市大字下小橋	1	江戸末期	集落	SK5
22	東禅寺・黒山遺跡	山口市大字銚銭司	1	近世	集落	SK12
23	東禅寺・黒山遺跡 (東大円・上徳田地区)	山口市大字銚銭司	15	近世	集落	SK148ほか、他の埋裏抜き穴16を合わせると3基
24	桐ヶ谷・尾口山遺跡	山口市大字銚銭司	1	近世	集落	1号土壇、肥料貯蔵用かp23
25	今宿東遺跡	山口市大字銚銭司	1	室町中頃	集落	
26	今宿西遺跡	山口市大字銚銭司	1	室町	集落	p4、石塊投裏
27	下糸根遺跡	山口市大字大野	2	18世紀後半〜18世紀	集落	SK2・3、SK3は石塊投裏
28	周防国衛跡	防府市国衛	1	中世	国衛跡	国衛四至北西隅地区築地基礎入り込み
29	切畑南遺跡	防府市切畑	7	近世	集落	SK01-07 SK09は風呂釜と見られる SK01-03D3基、SK01-03D33基隣接
30	岩淵遺跡	防府市大字台道	3	中世	集落	SK24・25・52
31	原遺跡	防府市大字台道	2	室町後半	集落・塚跡	SK19 埋り方に瓦質土器残片 ST1(裏柱)
32	下右田遺跡 (県教委第1・2次調査)	防府市大字下右田	3	中世	集落	P118・138・146
33	下右田遺跡 (市教委第2次発掘調査)	防府市大字下右田	2	中世	集落	SJ1430・1420 他に祭祀遺構SK1200(埋輪遺構)
34	萩城跡(外堀地区) (平成9・10・11、13年度)	萩市北河町・南片河町	63	近世	町屋	他に埋裏3基

引用文献（文献番号は第5表の遺跡番号に対応する）

- 1 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『高野遺跡（北地区）』 1999年
- 2 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『土井ノ内遺跡・巖治屋敷遺跡』 財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1999年
- 3 財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会文化課 山口県埋蔵文化財センター 『坂ノ上遺跡』 財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1987年
- 4 下関市教育委員会 『長門国府跡（長門国府跡周辺遺跡群第14次発掘調査）』 下関市教育委員会 200年
- 5 下関市教育委員会 『勝谷丸山古墳群（第2次発掘調査）』 下関市教育委員会 200年
- 6 財団法人山口県教育財団・山口県埋蔵文化財センター・阿知須町教育委員会 『神正遺跡（A地区）』・『赤迫遺跡（A地区）』 1998年
- 7 阿知須町教育委員会 『領家遺跡』 阿知須町教育委員会 1996年
- 8 山口県文化課調査係 『城山遺跡発掘調査報告』 山口県教育委員会 1973年
- 9 山口市教育委員会 山口市文化財センター 『小路遺跡』 山口市教育委員会 有限会社力ナヤ地建 1999年
- 10 山口市教育委員会 山口市文化財センター 『西遺跡』 山口市教育委員会 井森工業株式会社他 1990年
- 11 山口大学埋蔵文化財資料館 『山口大学構内遺跡調査研究年報』 山口大学 1986年
- 12 山口大学埋蔵文化財資料館 『山口大学構内遺跡調査研究年報』 山口大学 1986年
- 13 山口県教育委員会文化課 山口県埋蔵文化財センター 『屋敷遺跡』 建設省中国地方建設局山口工務事務所・山口県教育委員会 1990年
- 14 山口市教育委員会文化課 『常栄寺』 宗教法人香山常栄寺・山口市教育委員会 1997年
- 15 財団法人山口県教育財団・山口県埋蔵文化財センター 『釜山遺跡』 財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1999年
- 16 山口県教育委員会文化課 山口県埋蔵文化財センター 『良君城跡』 山口県教育委員会 1990年
- 17 山口市教育委員会文化財保護課 『幸福寺跡・御堀遺跡』 山口市教育委員会 200年
- 18 山口市教育委員会文化財保護課 『大内氏館跡』 2000年
- 19 山口市教育委員会文化財保護課 『大内氏館跡』・『大内氏開運町並遺跡』 1999年
- 20 山口市教育委員会文化財保護課 『山口市埋蔵文化財年報1 平成14（2000）年度』 山口市教育委員会 1999年
- 21 山口市教育委員会文化課 『寺内遺跡』・『七尾山古墳』 山口市教育委員会 1999年
- 22 山口県教育委員会文化課 山口県埋蔵文化財センター 『畠田遺跡』 山口県教育委員会 1999年
- 23 財団法人山口県教育財団 『東禪寺・黒山遺跡』 1996年
- 24 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『東禪寺・黒山遺跡遺跡（東大円・上徳田地区）』 200年（本報告書）
- 25 山口市教育委員会 山口市文化財センター 『桐ヶ浴・尾口山遺跡』 地域振興整備公団・山口市教育委員会 1999年
- 26 山口県教育委員会文化課 建設省山口工務事務所 山口県埋蔵文化財センター 『今宿東遺跡』 山口県教育委員会 1986年
- 27 山口県教育委員会文化課 山口県埋蔵文化財センター 『上辻・鑄銭司・今宿西遺跡』 山口県教育委員会・建設省山口工務事務所 1984年
- 28 山口市教育委員会文化財保護課 『下系根遺跡』 株式会社積水ハウス山口工場 山口市教育委員会 2000年
- 29 防府市教育委員会 『周防の国衙』 196年
- 30 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『切畑南遺跡』 1999年
- 31 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『岩瀬遺跡』 200年
- 32 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『原遺跡』 200年
- 33 山口県教育委員会文化課 『下右田遺跡第1・2調査概報』 日本道路公団・建設省山口工務事務所 山口県教育委員会 1978年
- 34 防府市教育委員会・周防国府跡調査会 『下右田遺跡第20次発掘調査報告』 200年
- 35 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『蘇城跡（外堀地区）』 200年

（参考文献）

- 注1 小林善也 『山口県の井戸跡についての覚書』（財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『陶墳第1号』 200年）
- 注2 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『東禪寺・黒山遺跡』 1996 1997 1998 1999 2000年
- 注3 山口県教育委員会 『下右田遺跡第4次調査概報・総括』 198年
- 注4 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『原遺跡』 200年
- 注5 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター・阿知須町教育委員会 『赤迫遺跡（C地区）』 2000年
- 注6 防府市教育委員会・周防国府跡調査会 『下右田遺跡第20次発掘調査報告』 200年
- 注7 防府市教育委員会 『佐野焼17窯（宮窯）発掘調査報告 遺構・遺物編』 1999年
- 注8 山口市教育委員会 『周防鑄銭司跡』 1978年
- 注9 山口市教育委員会 山口市文化財センター 『八ヶ坪遺跡』 1992年
- 注10 山口市教育委員会文化財保護課 『下系根遺跡』 2000年
- 注11 山口市教育委員会 『周防鑄銭司跡』 1978年
- 注12 注2に同じ
- 注13 山口市教育委員会 『上蕨川遺跡』 1993年
- 注14 注13に同じ
- 注15 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『切畑南遺跡』 1999年
- 注16 高橋照彦 『防長産緑絵陶器の基礎的研究』（国立歴史民俗博物館 『国立歴史民俗博物館研究報告 第5集』 1993年）
- 注17 荻野繁春 『委・襷はどのように利用されてきたか』（国立歴史民俗博物館 『国立歴史民俗博物館研究報告 第4集』 1993年）
- 注18 菅原正明 『養蚕出現の意義 中世経済の一側面』（国立歴史民俗博物館 『国立歴史民俗博物館研究報告 第4集』 1993年）
- 注19 山口市教育委員会 『山口市内遺跡詳細分布調査 鑄銭司地区』 2000年

付篇 東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)出土の植物遺体同定および土壌化学分析

1 はじめに

本報告は、財団法人山口県埋蔵文化財センターからの依頼により応用地質株式会社が実施した「東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)出土の植物遺体同定および土壌化学分析」について取りまとめたものである。

本業務では、東禅寺・黒山遺跡から出土した埋蔵の用途を推定するための土壌化学分析および出土した木材や種実、葉、不明有機物の同定により当時の古植生を推定することを目的とした分析を実施した。

(1) 調査件名：東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)出土の植物遺体同定および土壌化学分析

(2) 調査地：山口県山口市大字鑄銭司字東大円・上徳田

(3) 調査目的：東禅寺・黒山遺跡から出土した埋蔵の用途および当時の古環境・古植生を推定するために必要な基礎資料を得ること。

(4) 調査内容：土壌化学分析	3 試料
樹種同定	9 試料(同定点数38点)
種実同定	3 試料(同定点数3点)
葉同定	2 試料
不明有機物同定	1 試料

(5) 担当者：小林 恵(応用地質株式会社技術本部技術センター歴史環境グループ)

2 分析試料

2-1 植物遺体

(1) 木材

試料は土坑や井戸から出土した木材9試料(試料4-7、9、12-15)である。このうち複数の木片が認められた、試料6から5点(試料6-1-6-5)、試料9から4点(試料9-1-9-4)、試料12から8点(試料12-1-12-8)、試料13から14点(試料13-1-13-14)、試料14から3点(試料14-1-14-3)を抽出した。合計点数は38点である。これらの木材のうち、試料5が加工木板、試料14が加工木片とされ、他は木片、樹皮、葉(?)である。これらの試料について樹種同定を実施した。

(2) 種実遺体

試料は1B地区から出土した種実遺体3試料(試料8、10、11)であり、合計点数は3点である。これらの試料について種実遺体同定を実施した。

(3) 葉

試料は1B地区から出土した葉遺体3試料(試料3、4、8)3点である。このうち試料4については、葉ではなくタケの稗と考えられたことから木材試料に含め樹種同定を実施し、それ以外の2試料は葉の同定を実施した。

(4) 不明有機物

S K 1506から出土した白色の有機物で、土塊中に薄い層状に認められる。一部を採取して試料とし、

光学顕微鏡および落射蛍光顕微鏡による観察をおこなった。

2-2 埋裏内土壌

試料はSK 149およびSK 144から採取された土壌2点(試料1、2)と、対照試料としてオーガーボーリングでGL 50cmから採取された土壌1点(試料17)の合計3点である。これらの試料について土壌化学分析を実施した。なお、埋裏の用途として埋葬用、便所の可能性の有無を把握する目的で、リン酸、カルシウム、腐植の含量測定をおこなった。

各試料の詳細は表2-1に示す。なお、試料番号は山口県産文化財センターによる識別番号に従った。

表2-1 分析試料一覧

試料番号	出土地区	遺構名	内容物	数量	分析方法
試料1	1 B地区	SK 149Z(埋裏)	土壌	1	土壌化学分析
試料2	1 B地区	SK 144Z(埋裏)	土壌	1	土壌化学分析
試料3	1 B地区	SK 1506	葉	1	葉同定
試料4	1 B地区	SK 1506	葉?	1	樹種同定
試料5	1 B地区	SK 1506	加工木板	1	樹種同定
試料6	1 B地区	SE 1403(井戸)	木片	5	樹種同定
試料7	1 B地区	SE 1403(井戸)	木杭	1	樹種同定
試料8	1 B地区	SE 1403(井戸)	種子	3	種同定
			葉	1	葉同定
試料9	1 B地区	SE 1403(井戸)	木片	4	樹種同定
試料10	1 B地区	南側遺物倉倉庫	種子	29	種同定
試料11	1 B地区	南側遺物倉倉庫	種子	5	種同定
試料12	1 B地区	南側遺物倉倉庫	樹皮	8	樹種同定
試料13	1 B地区	南側遺物倉倉庫	樹皮	14	樹種同定
試料14	1 B地区	南側遺物倉倉庫	加工木片	3	樹種同定
試料15	2 C地区	南側遺物倉倉庫	樹皮	1	樹種同定
試料16	1 B地区	SK 1506	不明有機体	1	有機体同定
試料17	1 B地区	オーガーボーリング GL 50m	土壌	1	土壌化学分析

3 分析方法

3-1 植物遺体

(1) 樹種同定

剃刀の刃を用いて横断面(木口)・放射断面(柎目)・接線断面(板目)の3断面(図3-1参照)について切片を作製し、ガムクロラル(抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートを生物顕微鏡¹ E600(徧ニコン製)で観察し、その形態的特徴および現生標本との比較から種類を同定する。

(2) 種実遺体・葉同定

試料を双眼実体顕微鏡² Stem 2000 C(カールツァイス徧製)で観察し、その形態的特徴および現生標本との比較から種類を同定・計数する。

同定・計数後の植物遺体は種類毎にビンに入れ、50%エタノール溶液による液浸保存を施した。

また、試料3については、葉ではなくシダと考えられたことから、横断面の切片を作成し、ガムクロラルで封入してプレパラートを作製した。プレパラートを生物顕微鏡¹ E600(徧ニコン製)で観察した。

(3) 不明有機体の観察



図3-1 木材の基本的3断面

採取した白色の有機物をスライドガラス上で薄く伸ばし、ガムクロラルで封入してプレパラートとした。プレパラートを生物顕微鏡¹ E600(徧ニコン製)および落射蛍光顕微鏡³ Y FL(BV 2A フィルター使用、徧ニコン製)で観察した。

3-2 土壌化学分析

(1) リン酸・カルシウム含量

試料を風乾後、軽く粉砕して200mの篩を通過させる(風乾細土試料)。風乾細土試料の水分を加熱減量法(105、5時間)により測定する。風乾細土試料200gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸(HNO₃)約5mを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸(HCDO₄)約10mを加えて再び加熱分解をおこなう。分解終了後、水で100mに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計⁴ UV 120C(徧島津製作所製)によりリン酸(P₂O₅)濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光度計⁵ AA 6400F(徧島津製作所製)によりカルシウム(CaO)濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量(P₂O₅ mg g)とカルシウム含量(CaO mg g)を求める。

(2) 腐植含量

風乾細土試料の水分を加熱減量法(105、5時間)により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.9mmの篩を全通させる(微粉砕試料)。微粉砕試料0.100~0.500gを100m三角フラスコに秤とり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mを加え、約200の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量(Org(乾土%)を求める。これに1.72乗乗じて腐植含量(%)を算出する。

4 分析結果

4-1 植物遺体同定

(1) 樹種同定

樹種同定結果を表4-1に示す。木材は、針葉樹2種類(マツ属維管束亜属・スギ)、広葉樹7種類(コナラ属アカガシ亜属・ヤブツバキ・サザンカ近似種・サカキ・カキノキ・ガマズミ属・キリ)とイネ科タケ亜科に同定された。なお、節部組織のみで木部組織が認められない場合、組織の特徴から樹種を同定することは困難であるため、樹皮と記載した。同定できた各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。なお木材の主な組織構造について、針葉樹材の構造模式図を図4-1に示す。

・マツ属維管束亜属(Pinus subgen Dp.bpxybn) マツ科

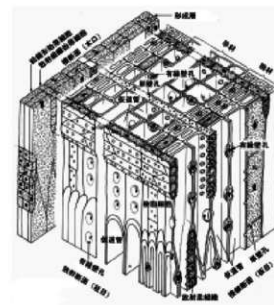


図4-1 針葉樹材構造模式図

軸方向組織は仮道管と樹脂道で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は急〜やや緩やかで、晩材部の幅は広い。放射組織は仮道管、柔細胞、樹脂道、エビセリウム細胞で構成される。放射柔細胞の分野壁孔は窓状となり、1分野に1個。放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、1〜1細胞高。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2〜4個。放射組織は単列、1〜1細胞高。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸〜厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1〜1細胞高のものと同複合放射組織とがある。

・ヤブツバキ (*Camelia japonica* L.) ツバキ科ツバキ属

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形〜角張った楕円形、単独および2〜3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列〜階段状に配列する。放射組織は異性、一型、1〜2細胞幅、1〜20細胞高で、時に上下に連結する。

・サザンカ近似種 (*Camelia cf. sasangua* Thunb.) ツバキ科ツバキ属

散孔材で、管壁は薄く、横断

表4-1 樹種同定結果

番号	出土地区	遺構名	内容物	点数	枝番号	樹種
試料4	1 B地区	SK1506	葉?	1	-	イネ科タケ亜科
試料5	1 B地区	SK1506	加工木板	1	-	キ
試料6	1 B地区	SE1403(井戸)	木片	5	-1	カキノキ
					-2	カキノキ
					-3	コナラ属アカガシ亜属
					-4	カキノキ
					-5	コナラ属アカガシ亜属
試料7	1 B地区	SE1403(井戸)	木杭	1	-	マツ属樹脂管束系属
試料9	1 B地区	SE1403(井戸)	木片	4	-1	スギ
					-2	イネ科タケ亜科
					-3	スギ
					-4	スギ
試料12	1 B地区	南側遺物包含層	樹皮	8	-1	マツ属樹脂管束系属
					-2	マツ属樹脂管束系属
					-3	樹皮
					-4	マツ属樹脂管束系属
					-5	マツ属樹脂管束系属
					-6	樹皮
					-7	マツ属樹脂管束系属
					-8	樹皮
					-9	マツ属樹脂管束系属
					-10	マツ属樹脂管束系属
試料13	1 B地区	南側遺物包含層	樹枝	14	-1	カキノキ
					-2	カキノキ
					-3	ヤブツバキ
					-4	ガマズミ
					-5	コナラ属アカガシ亜属
					-6	カキノキ
					-7	ヤブツバキ
					-8	マツ属樹脂管束系属
					-9	ヤブツバキ
					-10	マツ属樹脂管束系属
					-11	カキノキ
					-12	カキノキ
					-13	カキノキ
					-14	サザンカ近似種
試料14	1 B地区	南側遺物包含層	加工木片	3	-2	サカキ
					-3	サカキ
					-	樹皮
試料15	2 C地区	南側遺物包含層	樹皮	1	-	樹皮

面では多角形〜角張った楕円形、単独および2〜3個が複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、段の数は10〜30。壁孔は対列〜階段状に配列する。放射組織は異性、一型、1〜3細胞幅、1〜20細胞高であるが時に上下に連結する。

ヤブツバキとした試料と比較すると、道管径の変化がほとんどなく、結晶細胞も少ない。現生標本との比較では、ヤブツバキ中には同様の組織が見られなかったが、サザンカには似た組織を有する個体が認められた。そのため、サザンカ近似種とした。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieber et Zucc.) ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管が単独または2〜3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列〜階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1〜20細胞高。

・カキノキ (*Diospyros kaki* Thunb.) カキノキ科カキノキ属

散孔材で管壁は厚く、横断面では楕円形、単独または2〜4個が時に年輪界をはさんで複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は小型で対列状に配列する。放射組織は異性、一型、1〜2(3)細胞幅、10〜20細胞高で階層状に配列する。

・ガマズミ (*Viburnum*) スイカズラ科

散孔材で、道管は単独または2個が複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状〜階段状に配列する。放射組織は異性、一型、1〜4細胞幅、1〜40細胞高で、希に単列部が長くのびる。

・キリ (*Pauburnia tomentosa*) ゴマノハグサ科キリ属

環孔材であるが、孔圏部はやや不明瞭、孔圏外で管径を漸減させる。横断面では角張った円形〜楕円形、単独または2〜3個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1〜4細胞幅、1〜20細胞高。柔細胞は翼状〜連合翼状となる。

・イネ科タケ亜科 (*Gramineae* subfam. *Bambusoideae*)

試料は円柱状で、中空となる。横断面では維管束が基本組織の中に散在する不育中心柱が認められ、放射組織は認められない。

(2) 種実遺体・葉同定

種実・葉同定結果を表4-2に示す。裸子植物1種類、被子植物4種類の種実や葉のほか、種類の特定には至らなかったシダ植物が同定された。種実・葉は、常緑針葉樹1種類(マツ属樹脂管束系属)、常緑広葉樹3種類(ウバメガシ、イチイガシ、ツバキ)、落葉広葉樹1種類(モモ)と全て木本類で、草本類を含まない。以下に、同定された種実・葉遺体の形態的特徴などを記す。

・マツ属樹脂管束系属 (*Pinus* subgen. *Dipxylo*) マツ科

球果が同定された。黒褐色、木質で円錐状広卵形。長さ30mm〜60mm、径20〜35mm程度。長楕円状で矩形的鱗片が、覆瓦状、螺旋状に密着する。鱗片の外部露出部分は、不規則な四角形または五角形で肥厚し、横の稜線とその中央部に短く突起する臍点がみられる。

・ウバメガシ (*Quercus phillyraeoides* Asa Gray) ブナ科コナラ属

果実が同定された。黒褐色、卵形。長さ20mm、径10mm程度。果実頂部はやや尖り、輪状紋は認められない。基部は突出し、着点も円形、灰褐色で、維管束の穴が輪状に並ぶ。径34mm程度と非常に小さい。果皮表面は平滑で、ごく浅く微細な縦筋がある。

表4-2 種実・葉同定結果

試料番号	出土地区	遺構名	内容物	種類名	部位	状態	個数
試料3	1 B地区	SK1506	葉	シダ植物	茎・葉身		1
試料8	1 B地区	SE1403(井戸)	種実	ウバメガシ	葉実		3
							イチイガシ
試料10	1 B地区	南側遺物包含層	種実	モモ		核(内果皮)	1
						半分	4
試料11	1 B地区	南側遺物包含層	種実	ツバキ		葉実	1
						種子	17
試料11	1 B地区	南側遺物包含層	種実	マツ属樹脂管束系属	球果		5

・イチイガシ (*Quercus glauca* Blme) ブナ科ナラ属アカガシ亜属

葉片が同定された。茶褐色、楕円形、先端は鉤状鋭形、基部は鈍形で葉柄がある。長さ 65mm、幅 30mm、葉柄 10mm 程度。革質、上半部に鋭鋸歯がある。側脈は 10本、平行で非常に明瞭、裏面では著しく隆起する。

・ツバキ (*Camellia japonica* L) ツバキ科ツバキ属

果実と種子が同定された。果実は球形、径 20- 35mm 程度。朔果で 3室からなり、種子がみられる個体もある。果皮は厚く木質で、表面は脱肌状でざらつく。種子は球形、半球形、卵体形など不定形。鈍稜のある個体が多い。基部には頰がある。種皮は硬く、表面は平滑。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核 (内果皮) が、完形、破片の状態で見出された。灰褐色ないし黒褐色、広楕円形でやや偏平。基部は丸く大きな臍点があり、先端部はやや尖る。長さ 30- 35mm、幅 20mm、厚さ 12mm 程度。一方の側面にのみ縫合線が顕著に見られ、縫合線に沿って半分が割れている個体もみられる。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状のくぼみがあり、全体として粗いしわ状に見える。内側表面は平滑で、仁 (種子) が入る楕円状の窪みがある。

・シダ植物

葉身および茎のみで、葉は残存していない。茎は二又に分岐し、葉身は羽状分岐し、葉は羽状複葉となる。茎の横断面組織は、原生中心柱に似るが、木部が馬蹄形を呈する。

現在シダ植物の茎の横断面組織に関する情報が少なく、種類の同定には至らなかった。

(3) 不明有機物

試料は肉眼で白色を呈し、触ると粘り気がある。プレバート観察では、微細な菌糸の集合体と同定された。菌糸を有するものとしては、シダ類、キノコ類、コケ類等があるが、菌糸のみでは種類の同定は困難である。

4 - 2 埋蔵土壌の化学分析

分析結果を表 4 - 3 に示す。腐植含量は、対照試料 (試料 17) の 0.21 に対し、試料 1 が 0.40、試料 2 が 0.74 でやや高いが、腐植含量としては非常に低い値である。カルシウム含量は、対照試料の 113mg/g に対し、試料 1 が 220mg/g で約 2 倍の値となっているが、試料 2 では 149mg/g でやや高い程度である。リン酸含量は、対照試料の 0.23mg/g に対し、試料 1 で 2.97mg/g、試料 2 で 2.83mg/g であり、いずれも対照試料の 1 倍強の値となっている。

5 考 察

5 - 1 木材利用

表 4 - 3 土壌化学分析結果

試料番号	出土地区	遺 構 名	内容物	土 性	土 色	腐植含量	P2O5 mg/g	Ca mg/g
試料 1	1 B 地区	SK 1492 (埋蔵)	土壌	SL	10YR 4/4 橙	0.40	2.97	2.20
試料 2	1 B 地区	SK 1442 (埋蔵)	土壌	SL	2.5Y 4/4 オリーブ	0.74	2.83	1.49
試料 17	1 B 地区	オーガー-ジョシ GL 50m	土壌	LC	10YR 5/6 黄褐	0.21	0.23	1.13

1) 土色: マンセル色色系に準じた新色標準土色帖 (農林省農林水産技術情報院、1967) による。

2) 土性: 土壌調製ハンドブック (ペドロジスト懇話会編、1984) の野外土性による。

3) SL: 砂質壤土 (粘土 15-25、シルト 0-20、砂 5-85)

LC: 軽硬土 (粘土 25-45、シルト 0-45、砂 10-55)

樹種同定をおこなった木材のうち、明らかな加工材は試料 5 の加工木板 1 点と試料 14 の加工木片 3 点の合計 4 点である。

試料 5 の加工木板の樹種は広葉樹のキリであった。キリは軽軟な材質で、耐火性に優れており、板状の加工を施す製品として筆筒等がよく知られている。キリの出土木材はこれまで下駄に多く利用され、他に用途不明炭化物等の例がある (バリノ・サーヴェイ株式会社、1992 1995 2001; 能城、1992; 辻本、1993)。しかし、全体的にみれば出土木材として認められた例が少なく、現時点では過去におけるキリ材の利用状況は不明といった方がよく、今後の資料蓄積が課題である。

試料 14 の加工木片は 3 点とも広葉樹のサカキであった。サカキは比較的強度が高い材質で、中国・四国地方の中近世では下駄、挽物、燃料等に利用された例がある (山田、1993)。

現段階において、当遺跡周辺での中近世の木材利用に関する調査例が少なく、キリ、サカキを含めた木材利用の詳細は明らかではない。

5 - 2 古植生および植物利用

種実遺体のうち、モモは中国から渡来した栽培種であり、觀賞用のほか、果実や核の中にある仁 (種子) などが食用、薬用等に広く利用される。今回の結果から、モモが集落内で食されたことが推定され、本遺跡周辺でモモが栽培されていた可能性もある。また、木材で認められた試料のうち、カキノキは果実を食用とする栽培種であり、集落内で栽培されていた可能性がある。

その他の試料では、針葉樹の椎實亜束葉属 (ニコマツ類) の球果および木材、スギの木材、イチイガシの葉、ウバメガシの果実、ツバキ (ヤブツバキ) の木材および種実、ガマズミ属の木材、シダ植物、タケ亜科等が認められた。これらの樹種には暖温帯の海岸近くに生育するものが多く含まれ、本遺跡の立地を考慮すれば、遺跡周辺に生育していたことが推定される。これらの樹種のうち、ツバキの花は鑑賞用として、室町時代から多くの園芸品種が作られている。また、種子は油採可能で調理用、燈用、食用などに利用される。そのため、栽培種の可能性もある。また、イチイガシは、その果実をアク抜きせずに食用可能で収量も多いため、果実を食用として利用した可能性もある。

シダ植物は種類不明であるが、同様の断面組織を有する試料をこれまでに西日本で 2 例認めている (未公表資料)。いずれも常緑広葉樹と共に出土していることから、暖温帯常緑広葉樹林内の流路近くによく見られる種類と考えられ、当遺跡周辺にも生育していたと推定される。

5 - 3 埋蔵の用途

分析試料の各含量をみると、腐植、リン酸、カルシウムのいずれも埋蔵試料で対照試料より高い値が認められる。しかし、腐植含量とカルシウム含量については、大きな差異は認められない。腐植含量では対照試料も含めて非常に低い値であり、土性や土色の状況も考慮すれば腐植はほとんど含まれていない可能性が高い。またカルシウム含量では、土壌中の天然賦存量が 1- 50mg/g との報告があり、変動幅が大きい (藤貫、1979)。今回の結果は 148- 220mg/g でその範囲内であり、明らかな富化は指摘できない。

リン酸含量では対照試料の値 (0.23mg/g) に対して 2 遺構とも 1 倍強の値 (2.83mg/g、2.97mg/g) が得られており、ある程度の富化が認められる。ただし、リン酸の天然賦存量 (耕作土も含む) は、これまでの調査例 (Bohr Bruggenwert 1980; Bowen 1983; 川崎ほか、1991; 天野ほか、1991) が

ら上限が 30mg/g 程度と考えられており、今回の分析値は天然賦存量の範囲内で、著しく高いとはいえない。しかも、埋葬用や便所に利用されている場合には、リン酸含量とともに腐食含量やカルシウム含量も多くなると考えられることから、今回の化学分析結果を総合すると、埋葬が埋葬用あるいは便所に利用された可能性は低い。

ただし、埋葬にひびが入っていると、土壌に含まれるリン酸などが雨水と一緒に流出してしまうことがあるため、このような状況であった場合には、埋葬外側の土壌の化学分析を実施する必要がある。また、今後さらに多くの圃内土壌について成分分析をおこない、圃による成分の差異があるか否か確認するとともに、圃内面に有機物等の付着が認められれば、その有機物の成分分析による検討なども実施することにより、埋葬の用途についてより有効な情報を得られるものと考えられる。

注釈

1 生物顕微鏡

単眼（片目）でのぞくタイプで、上下が逆になった倒立像（とうりつぞう）で捉えられる。小中学校で生徒に実習させせる顕微鏡の多くがこのタイプで、動植物の細胞（さいぼう）や微生物（びせいぶつ）の観察に使用する。

2 双眼実体顕微鏡

双眼（両目）でのぞくタイプで、立体感のある観察ができる。実体というのは上下左右が正常な方向に見えるということである。生物の観察や解剖、精密機械の組み立てなどに使用する。

3 落射蛍光顕微鏡

ある特定の色の光（特定の波長の光）が当たると、その光の波長より長い波長の光を出す色素がある。このような蛍光色素を顕微鏡標本の染色に応用し観察する方法が蛍光顕微鏡法である。蛍光色素を光らせるための光（励起光）を照射する光学系とそれにより発生した蛍光（蛍光放射光）を観察する光学顕微鏡を組み合わせたもので、観察用の対物レンズを兼用して励起光を照射するタイプの蛍光顕微鏡を落射蛍光顕微鏡と呼び、試料の観察する側の面に励起光が直接照射され像が明るくシャープであるなどの理由で一般的に広く使われている。

4 分光光度計

分光光度計（UV 1200）の仕様は以下の通りである。

測定波長範囲	200～1100nm
スベクトルバンド幅（分解）	5 0.5nm
波長表示（波長設定）	0.1nm単位
波長の正確さ	1.0nm（自動波長校正機能内蔵）
波長設定繰り返し精度	0.9nm
光源の種類	波長変動自動切替え
光源方式	モニターダブルビーム
光源レンジ	励起光：0.3～3Abs 透過率：0～200% T
光源	200ナノワットランプ、重水素ランプ、最大感度自動調整機能内蔵
分光器	双歪補正非面回ホログラフィックグレーティング使用
検出器	シリコンフォトダイオード
LCD	バックライト付（320 200ピクセル）
試料室	試料室内寸法：幅 110 奥行 230 高さ 105mm 仕様仕様最大光路長：100mm ファンタッチ着脱可能カートリッジタイプ コンピュータ制御6セルマルチセルホルダー内蔵
消費電源	AC100 115 220 240V切替えスイッチ内蔵
大きさ・重量	幅420 奥行297 高さ160mm、11kg

5 原子吸光度計

原子吸光度計（AA 6400F）の仕様は以下の通りである。

測定波長範囲	190～900nm
測定方式	高速自己反転測定方式（自己反転法によるバックグラウンド補正） 高速二重線同時測定方式（重水素ランプによるバックグラウンド補正）
分光光路計	HCRランプ 点灯方式：2レベル点灯（低：0～60mA、高：0～60mA） 点灯周波数：自己反転法：100Hz、重水素ランプ：500Hz マテック：双歪補正非面回ホログラフィックグレーティング バンド幅：0.1 0.2 0.5 1.0 2.0 5.0nm（6段自動切替え） 波長設定：スリット連動自動設定
検出器	光電子倍增管 R787.04
消費電源	AC100 120 220 240V切替え器内蔵
大きさ・重量	幅1080 奥行545 高さ470mm、100kg（ガス制御部含む）
ハーネ部	形式：完全レミネックス形、10mmスリット バーヘッド：ステンレス ネブラウエ：Pt/Cキャピラリー、テフロン製オリフィス
ガス制御部	圧力流量制御による自動流量設定
ディスプレイ	高分解14インチカラー-CRT（640ピクセル 400本）
データ処理	繰返し測定：最大100 ベースライン補正、分析感度ドリフト補正、実試料濃度計算機能付き 記録計：サーマルドットグラフィックプリンタ

引用文献（引用順に記載）

鳥地謙・伊東隆夫（1982）図説木材組織、175p、地球社。

ペドロジスト懇談会編（1984）土壌調査ハンドブック、156p、博友社。

農林省農林水産技術会議事務局監修（1967）新版標準土色帖。

天野洋司・太健雄・早場敬・中井信（1991）中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量、「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」、p28 36、農林水産省農林水産技術会議事務局。

Bowen HJM（1983）環境無機化学 - 元素の循環と生化学 -、浅見輝男・茅野充男訳、297p、博友社 [Bowen HJM（1979）Environmental Chemistry of Elements]。

Bolt GH・Bruggenwert M GM（1980）土壌の化学、岩田進・三輪壽太郎・井上隆弘・陽捷行訳 309p、学会出版センター - [Bolt GH and Bruggenwert M GM（1976）SOIL CHEMISTRY]。

川崎純・吉田淳・井上恒久（1991）九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量、「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」、p23 27、農林水産省農林水産技術会議事務局。

能城博（1992）新宿区細工町遺跡から出土した木製品の樹種、「東京都新宿区 細工町遺跡 -（仮称）新宿区立細工町高齢者在宅サービスセンター建設に伴う緊急発掘調査報告書」、p174 187、新宿区厚生部遺跡調査会。

辻本崇夫（1993）科学的な分析の結果について、「黒鷲町 東京都豊島区・巢鴨遺跡（区立つじじ地区）の発掘調査」、p178 190、豊島区教育委員会。

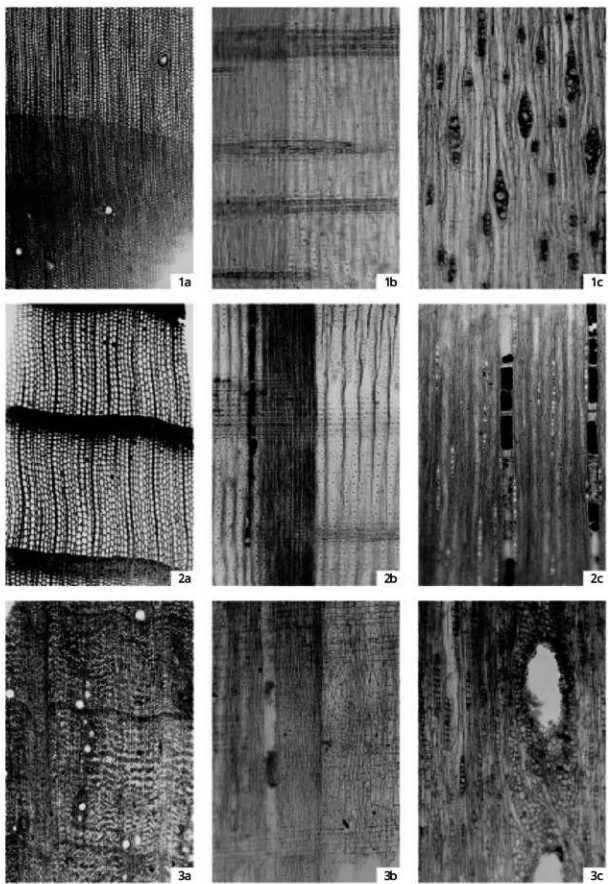
パリー・サーヴェイ株式会社（1992）岩倉城遺跡から出土した木製品の樹種、「愛知県歴史文化財センター - 調査報告第33巻 岩倉城遺跡」、p119 123、財団法人愛知県歴史文化財センター。

パリー・サーヴェイ株式会社（1995）木製品の用材と製作技法、「東京都渋谷区 千駄ヶ谷五丁目遺跡 - 新宿南口RCビル（高島屋タイムズスクエアほか）の建設事業に伴う緊急発掘調査報告書 - 本文編（第 1 分冊）」、p326 366、千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会。

パリー・サーヴェイ株式会社（1997）草戸千軒町遺跡から出土した木製品の樹種、「草戸千軒町遺跡調査 - 研究報告 5 草戸千軒町遺跡出土の土駄 2」、p15 34、広島県立歴史博物館。

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文庫集成 - 用材から見た人間・植物関係史、植生史研究、特別第1号、242p、植生史研究会。

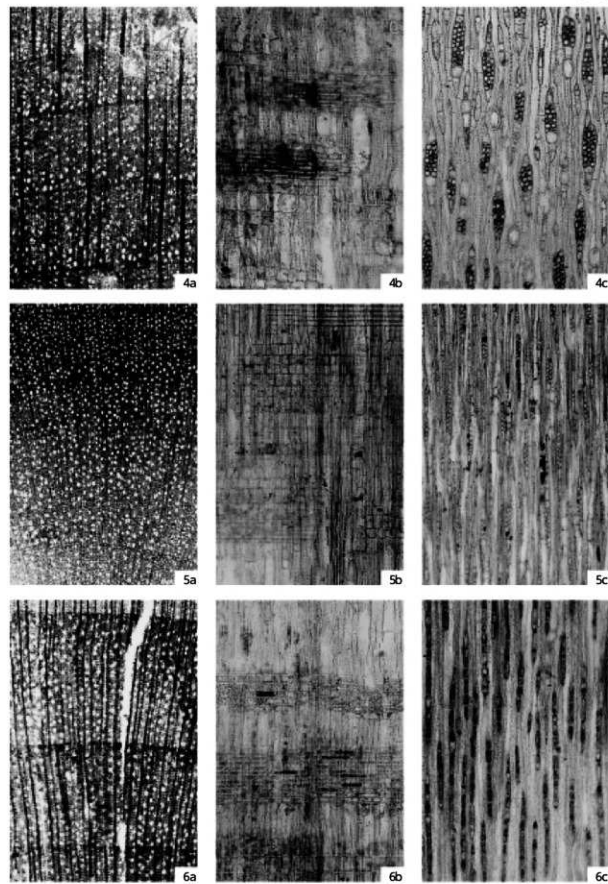
図版1 木材(1)



1. マツ属椎輪管束断面 (試料7)
 2. スギ (試料9 - 1)
 3. コナラ属アカガシ亜属 (試料6 - 5)
- a: 木口、b: 柎目、c: 板目

200 m a
200 m b c

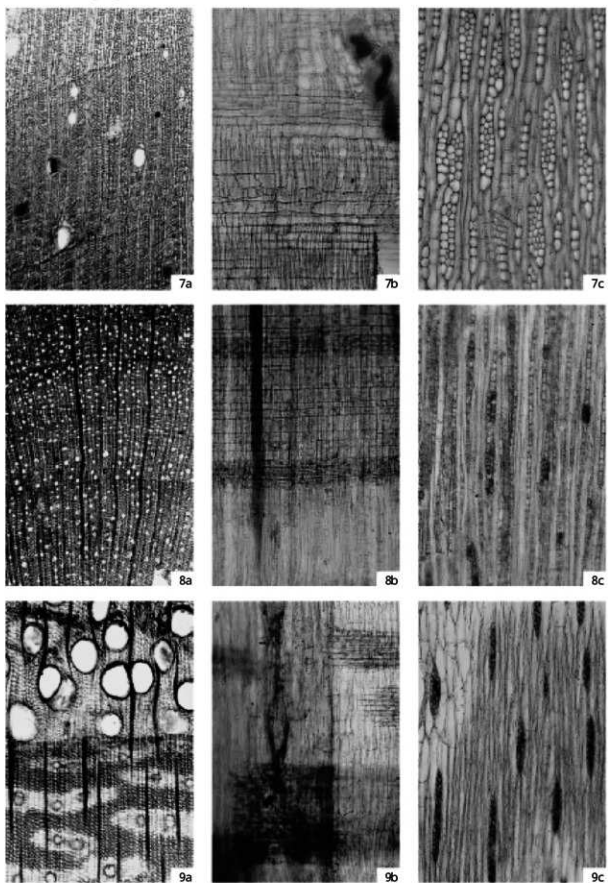
図版2 木材(2)



4. ヤブツバキ (試料13-3)
 5. サザンカ近似種 (試料13-14)
 6. サカキ (試料14-2)
- a: 木口、b: 柎目、c: 板目

200 m a
200 m b c

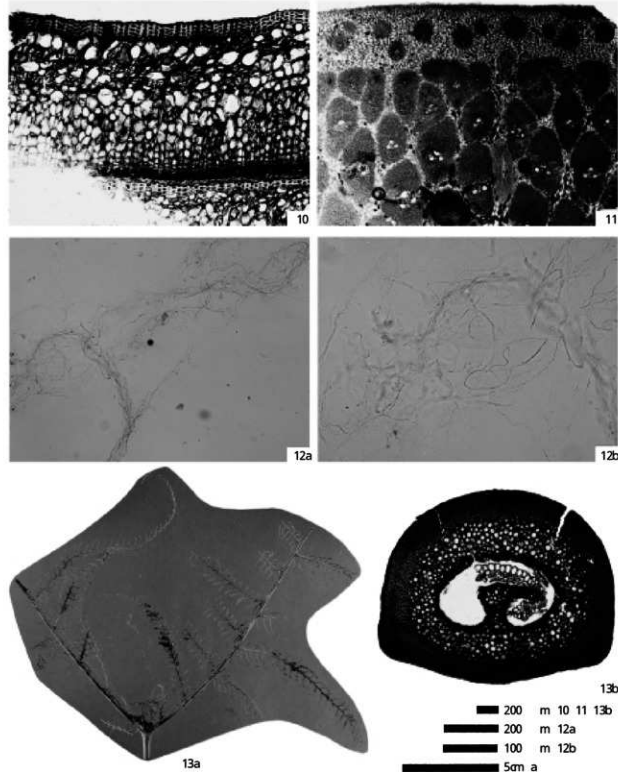
図版3 木材(3)



7. カキノキ (試料6-4)
 8. ガマズミ属 (試料13-4)
 9. キリ (試料5)
 a: 木口、b: 板目、c: 縦目

200 μm a
 200 μm b c

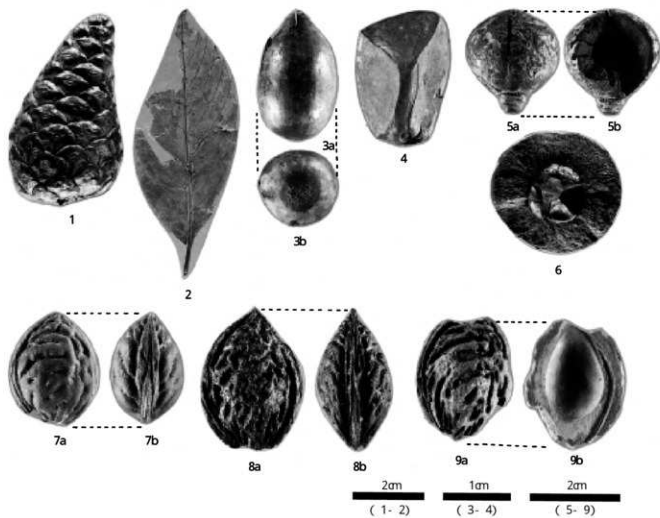
図版4 木材(4)・菌類



10. 樹皮 (試料12-8)
 11. イネ科タケ亜科 (試料4) 横断面
 12. 菌糸 (試料16)
 13. シダ類 (試料3) a: 全景、b: 横断面

200 μm 10 11 13b
 200 μm 12a
 100 μm 12b
 5cm a

図版 5 種実・葉遺体



1. マツ属複雑管束亜属 球果 (試料 11)
 3. ウバメガシ 果実 (試料 8)
 5. ツバキ 果実 (試料 10)
 7. モモ 核 (試料 10)
 9. モモ 核 (試料 10)

2. イチイガシ 葉 (試料 8)
 4. ツバキ 種子 (試料 10)
 6. ツバキ 果実
 8. モモ 核 (試料 10)

圖 版



1 調査区遠景 (南から)



2 調査区遠景 (南から)



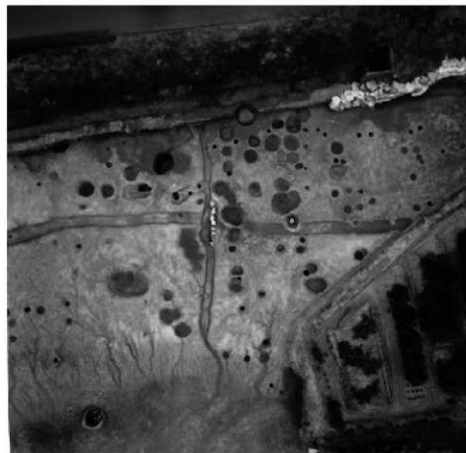
1 调查区全景



2 1地区全景



1 1A地区遺構群



2 1B地区遺構群



1 2地区全景



2 2C地区遗構群



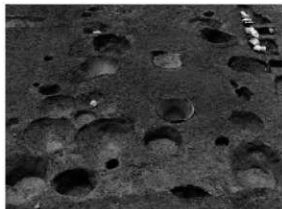
1 A地区掘立柱建物跡群



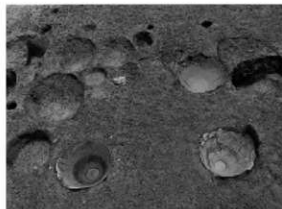
1 2 C地区掘立柱建物跡群 (SB20, 21, 22) (北から)



2 SB20完掘状況 (北から)



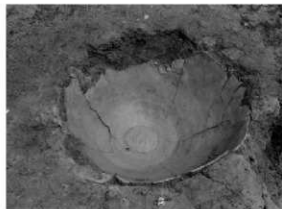
1 1 B地区埋篋群 (北から)



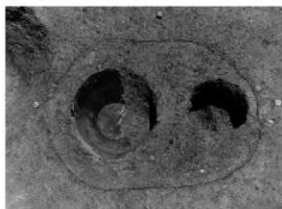
2 1 B地区埋篋群 (西から)



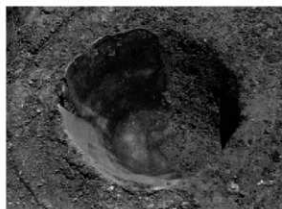
3 1 B地区SK144埋篋出土状況 (北から)



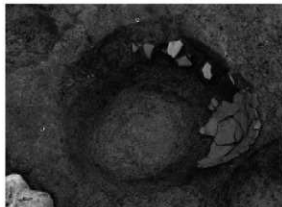
4 1 B地区SK144埋篋埋置状況 (西から)



5 1 A地区SK1300埋篋埋置状況 (西から)



6 1 A地区SK1300埋篋埋置状況 (西から)



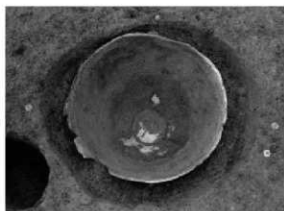
7 1 B地区SK1425埋篋埋置状況 (西から)



8 1 A地区SK1310埋篋埋置状況 (南から)



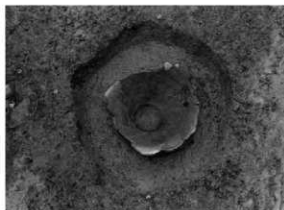
1 1 A地区 SK130埋篋出土状況(北から)



2 1 A地区 SK130埋篋埋置状況(東から)



3 1 A地区 SK130埋篋出土状況(南から)



4 1 A地区 SK130埋篋埋置状況(東から)



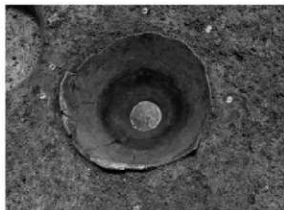
5 1 B地区 SK140埋篋出土状況(南から)



6 1 B地区 SK140埋篋埋置状況(北から)



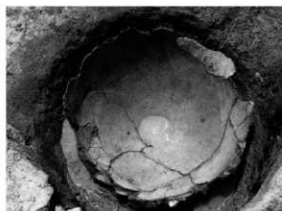
7 1 B地区 SK141埋篋出土状況(南から)



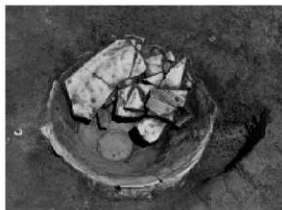
8 1 B地区 SK141埋篋埋置状況(西から)



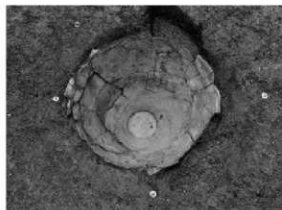
1 1 B地区 SK142埋篋出土状況(北から)



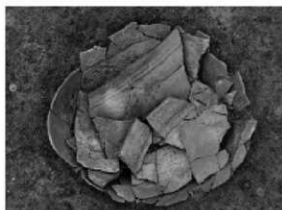
2 1 B地区 SK142埋篋埋置状況(北から)



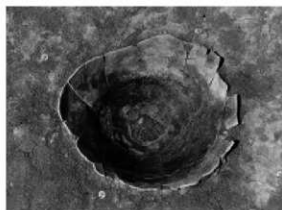
3 1 B地区 SK142埋篋出土状況(西から)



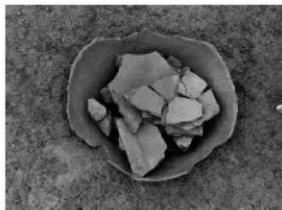
4 1 B地区 SK142埋篋埋置状況(北から)



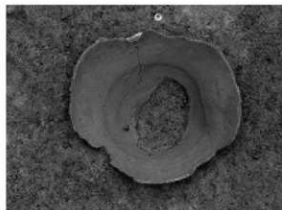
5 1 B地区 SK149埋篋出土状況(南から)



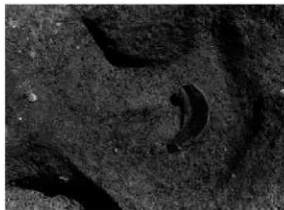
6 1 B地区 SK149埋篋埋置状況(南から)



7 1 B地区 SK153埋篋出土状況(南から)



8 1 B地区 SK153埋篋埋置状況(南から)



1 1 A地区 SK1289埋篋埋置状況(北から)



2 1 B地区 SK1419遺物出土状況(北から)



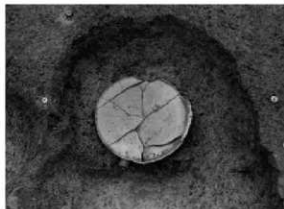
3 1 B地区 SK1453遺物出土状況(北から)



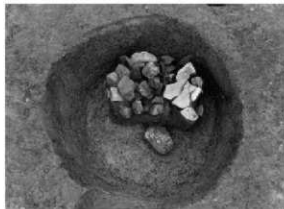
4 1 B地区 SK1506遺物出土状況(北から)



5 1 B地区 SK1620遺物出土状況(南から)



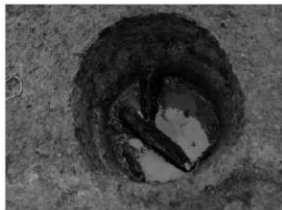
6 1 B地区 SK1620風呂釜出土状況(西から)



7 1 A地区 SK1319遺物出土状況(南から)



8 1 B地区 ST1403遺物出土状況(北から)



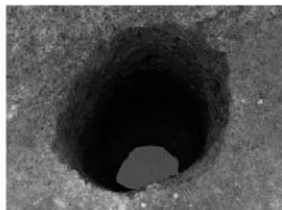
1 1 A地区 SE1186遺物出土状況(南から)



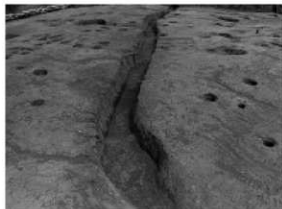
2 1 A地区 SE1186完掘状況(西から)



3 1 B地区 SE1403木梳出土状況(西から)



4 1 B地区 SE1403完掘状況(南から)



5 1 A地区 SD147完掘状況(西から)



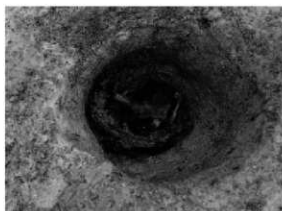
6 1 B地区 SD147完掘状況(東から)



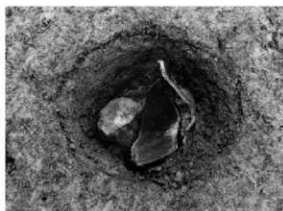
7 1 B地区 SD141完掘状況(北から)



8 1 B地区 SD141石積み遺構検出状況(西から)



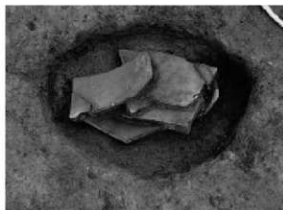
1 1 A地区 SP113G遺物出土状況 (北から)



2 1 A地区 SP1075遺物出土状況 (北から)



3 1 B地区 SP1479遺物出土状況 (南から)



4 1 B地区 SP1383遺物出土状況 (南から)



5 2 C地区 SP2112遺物出土状況 (西から)



6 2 C地区 SP2136遺物出土状況 (北から)



7 2 C地区粘土採掘坑5トレンチ確認状況 (北から)



8 2 C地区粘土採掘坑2トレンチ確認状況 (東から)



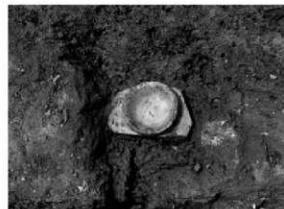
1 1 B地区南側遺物包含層掘り込み状況 (東から)



2 1 B地区南側遺物包含層土層断面 (東から)



3 1 B地区南側遺物包含層遺物出土状況 (東から)



4 1 B地区南側遺物包含層遺物出土状況 (東から)



1 2C地区南侧遺物包含層掘り込み状況(南から)



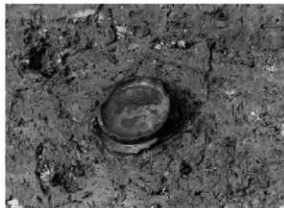
2 2C地区南侧遺物包含層遺物出土状況(東から)



3 2C地区南侧遺物包含層遺物出土状況(西から)



4 2C地区南侧遺物包含層遺物出土状況(東から)



5 2C地区南侧遺物包含層遺物出土状況(南から)



9



10

埋葬遺構出土遺物(上 SK1418 下 SK1492)



11

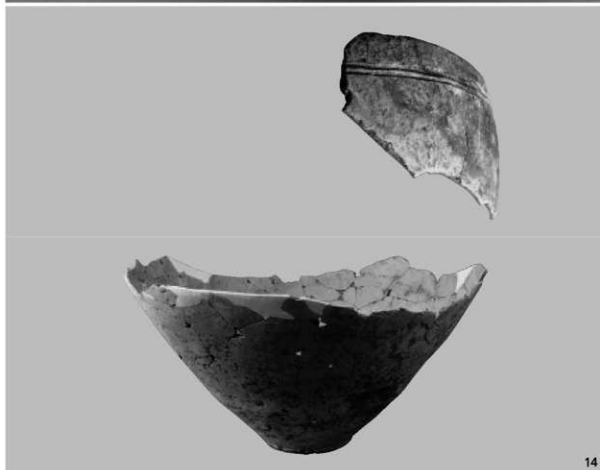


12

埋藏遺構出土遺物 (上 SK1420 下 SK1441)

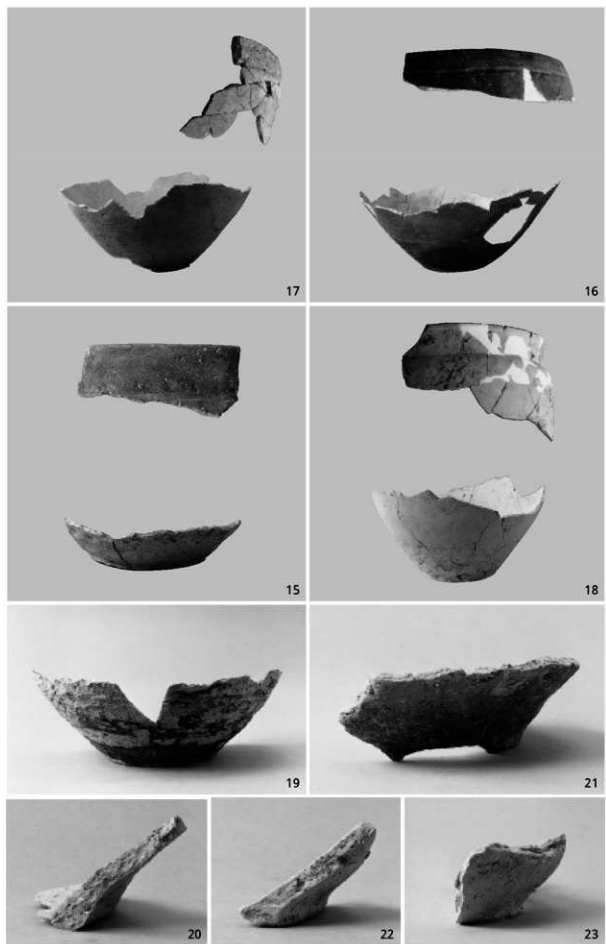


13

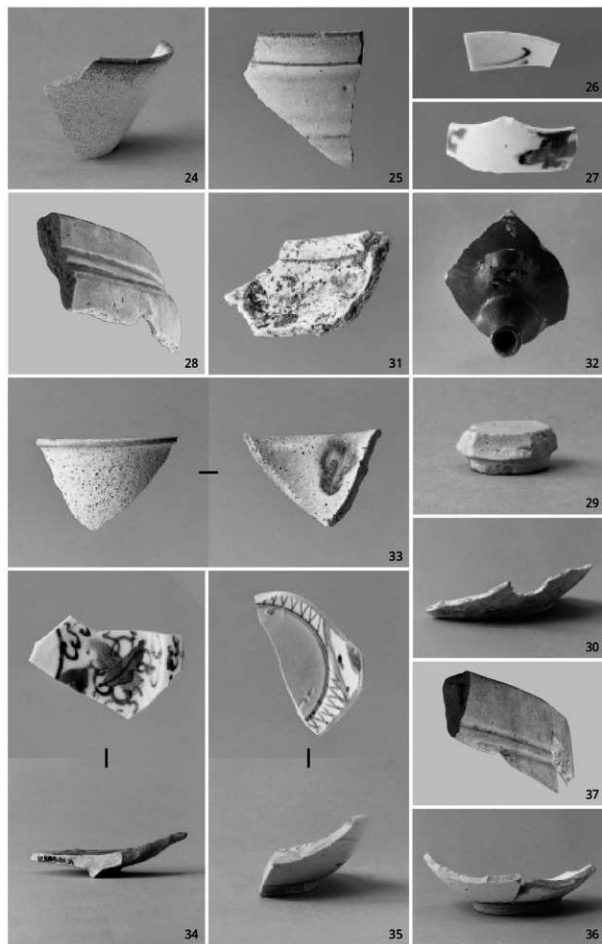


14

埋藏遺構出土遺物 (上 SK1301 下 SK1426)



埋桃遺構出土遺物



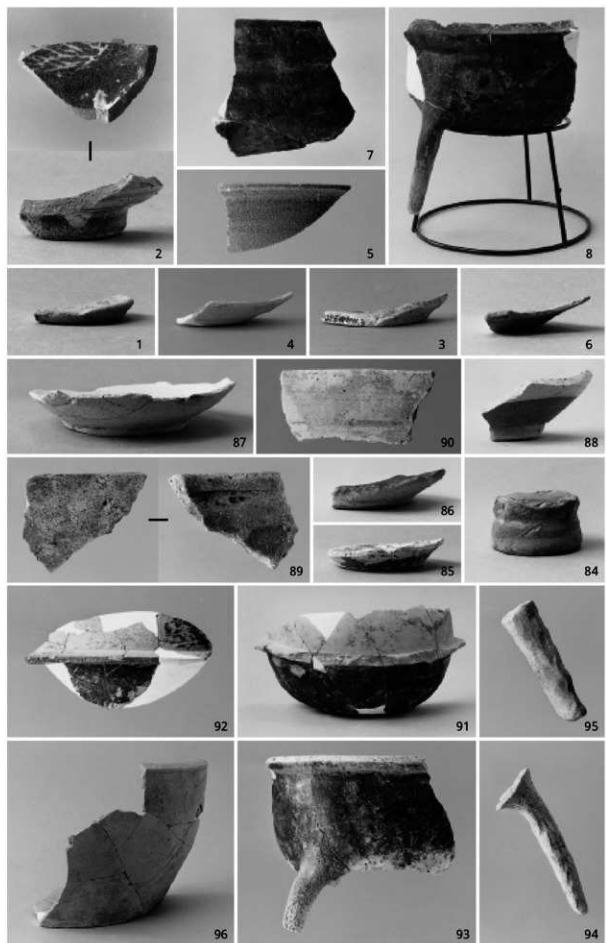
埋桃遺構出土遺物



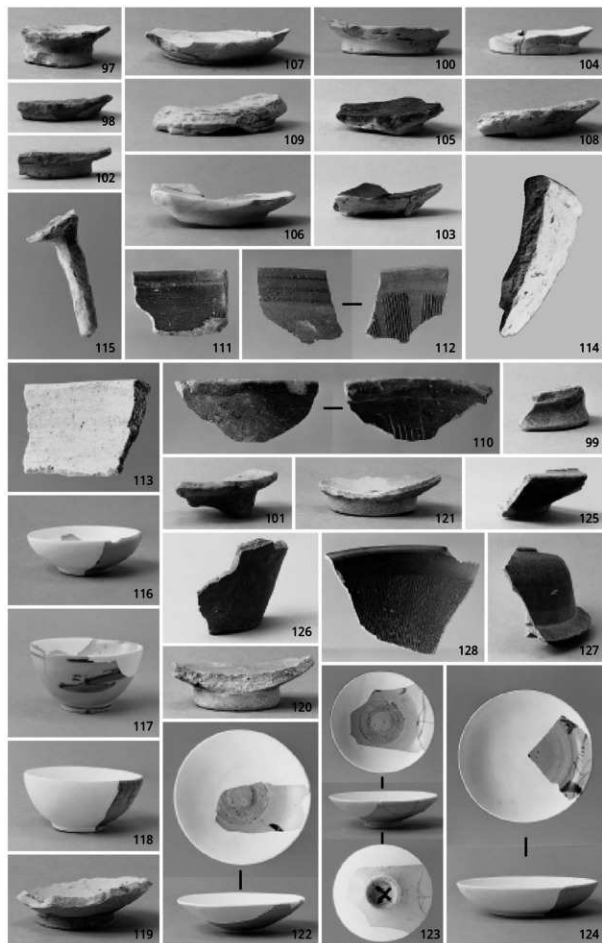
埋甕遺構出土遺物・土坑出土遺物



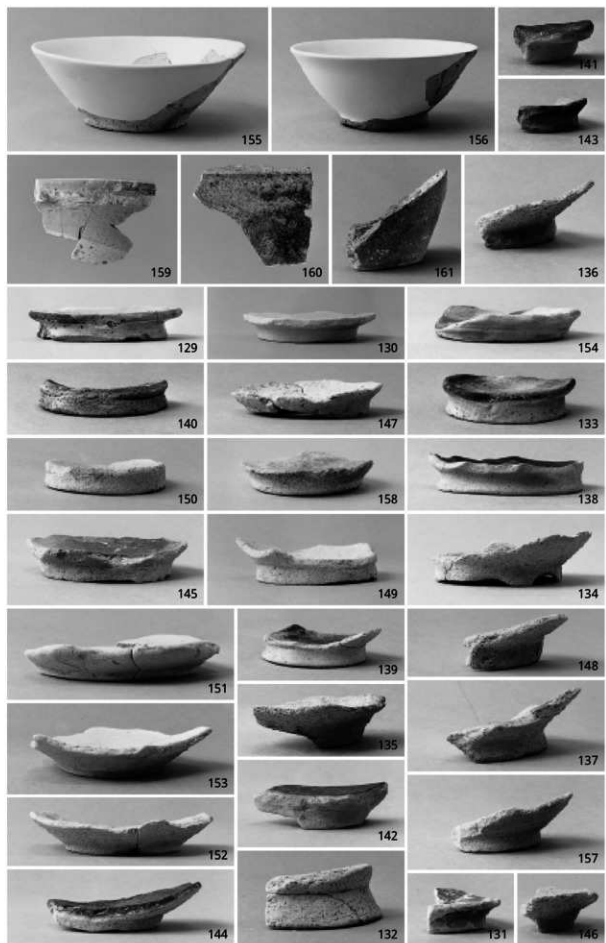
墓・井戸・溝状遺構出土遺物



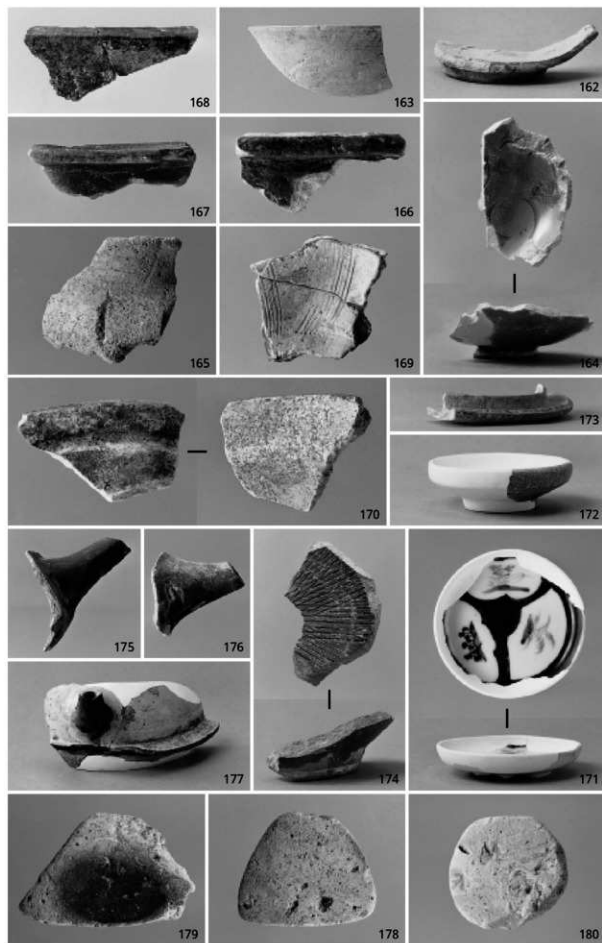
据立柱建物跡・柱穴出土遺物



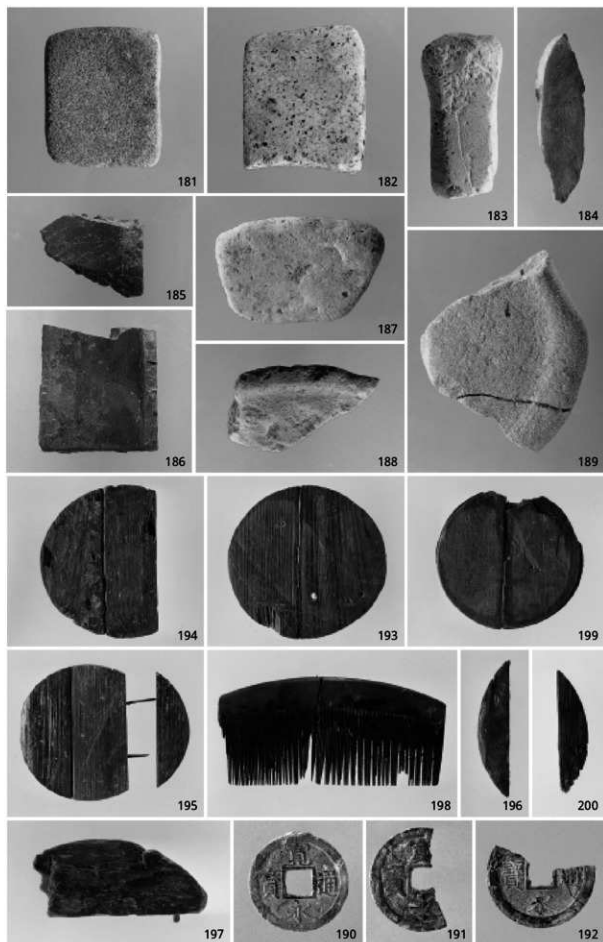
1 B地区南側遺物包含層出土遺物



2 C 地区南侧遺物包含層出土遺物



2 A 地区第 1 面掘り下付層出土遺物・表面採集遺物・土製品



石製品・金属製品(銅銭)・木製品

報告書抄録

ふりがな	とうぜんじ・くろやまいせき(ひがしおえん・かみとくだちく)
書名	東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)
副書名	
巻次	
シリーズ名	山口県埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第34巻
編著者名	上山 佳彦 林 修司 池山 正
編集機関	財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター
所在地	〒753 0073 山口県山口市春日町3番2号 TEL 083 923 1060
発行年月日	西暦 2003年 3月 24日(平成 19年 3月 24日)

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
所収遺跡名	東禅寺・黒山遺跡 (東大円・上徳田地区)	山口市	35203	34 4 59	131 27 4	20020408 } 20020904	3100	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東禅寺・黒山遺跡 (東大円・上徳田地区)	集落跡	古代	掘立柱建物跡	土師器	埋蔵遺構は、抜き穴と比定できるもの1基を含めると3基にのぼり、県内有数の検出数となった。
		中世	埋蔵遺構	須恵器	
		近世	土坑	緑釉陶器	
			墓	1基 瓦質土器	
			井戸	2基 輸入磁器	
			溝状遺構	6条 陶磁器	
	柱穴	約70箇	土製品 石製品		
	粘土採掘坑	5基	銅銭 木製品		

山口県埋蔵文化財センター調査報告 第34集

東禅寺・黒山遺跡
(東大円・上徳田地区)

2003年3月

編集・発行 財団法人山口県教育財団
山口県埋蔵文化財センター
〒753 0073 山口市春日町3番2号

印刷 瞬報社写真印刷株式会社
〒752 0927 下関市長府扇町9番50号